

須玖黒田遺跡

— 1・2次調査 —

福岡県春日市日の出町所在遺跡の調査

春日市文化財調査報告書 第70集

2013

春日市教育委員会

序

福岡平野の南深部に位置する本市は、今年度で市制 40 年を迎えました。昭和 47 年の市制施行以来福岡市のベッドタウンとして都市化が進み、多くの開発により遺跡が調査され消えて行きましたが、これにより奴国の中心とされる遺跡の性格も明らかになってきました。

本市の中央部には、春日丘陵が南北方向にのびており、丘陵北部とその周辺一帯には、多くの遺跡が確認されています。その範囲は、南北 2 km、東西 1 km に渡り遺跡が途切れることなく分布することから一つの大きな遺跡群として捉えています。この遺跡群は須玖遺跡群と呼ばれ、奴国王墓をはじめとする首長層の墓地である須玖岡本遺跡岡本地区や、奴国の青銅器官営工房ともされる須玖岡本遺跡坂本地区などの他に類を見ない遺跡が明らかになっています。

ここに報告いたします須玖黒田遺跡（1・2次調査）は、須玖遺跡群の北部の低地に位置する遺跡です。周辺には須玖永田A遺跡や須玖五反田遺跡などの青銅器・ガラス工房跡が調査された重要遺跡が広がっています。須玖黒田遺跡でも青銅器の石製鋳型や中型などの青銅器生産関連遺物が出土しています。また、弥生時代終末～古墳時代初頭頃の状態の良い土器も多数出土しており、弥生時代の青銅器生産の終焉を考える上でも重要な遺跡と言えます。

貴重な遺跡の発掘調査報告としましては、本書の不十分さは免れませんが、研究資料として末永く活用され、また、一般の方々にも広く利用していただければ幸いです。

なお、最後になりましたが、発掘調査に際しまして、御協力、御指導を賜りました方々に心から感謝の意を表します。

平成 25 年 3 月 31 日

春日市教育委員会
教育長 山本直俊

例 言

- 1 本書は、1990年4月14日から6月2日にかけて春日市教育委員会が実施した、共同住宅建築に伴う須玖黒田遺跡1次調査と、2002年4月8日から4月17日にかけて春日市教育委員会が実施した、個人住宅建築に伴う須玖黒田遺跡2次調査の緊急発掘調査の報告書である。
- 2 本遺跡は、1次調査時及び過去の書籍において黒田遺跡の名称を使用していたが、その後、遺跡範囲、名称等の整理を行い、現在は須玖黒田遺跡となった。
- 3 遺構の実測は、1次調査を平田定幸、2次調査を井上義也が行い、製図は伊東ひかりが行った。
- 4 遺物の図面の作成は、井上、島津屋幸子、森田利枝（現中津市教育委員会）、柳智子、池田紀子、川畑美由紀、久家ゆみ、久家春美、桑野暢子が行い、製図は柳、島津屋、久家ゆみが行った。
- 5 掲載写真のうち遺構については、1次調査を平田、2次調査を井上が撮影し、遺物については岡紀久夫（文化財写真工房）が行った。
- 6 本書に使用した5万分の1地形図は、国土地理院発行の『福岡』である。
- 7 本書の遺構実測図に用いた方位は、1次調査は磁北、2次調査は座標北である。
- 8 内面朱付着土器、銅滓については、志賀智史氏（九州国立博物館）に分析や御教示をいただき、土器は、常松幹雄氏（福岡市経済観光文化局）・久住猛雄氏（福岡市経済観光文化局）に御教示いただいた。また、鉄器については福岡市埋蔵文化センターの御好意により保存処理を行った。
- 9 本書の執筆はⅡを森田、Ⅲ-3-(6)を島津屋、その他を井上が担当し、編集は平田、島津屋の協力の下、井上が行った。

本文目次

I	はじめに	1
1	調査に至る経過	1
2	調査の組織	1
II	位置と環境	3
III	1次調査の内容	6
1	調査の概要	6
2	遺構	8
(1)	土坑	8
(2)	井戸	12
(3)	掘立柱建物跡	12
(4)	ピット	14
(5)	溝	15
(6)	包含層	20
3	遺物	20
(1)	土器	20
(2)	瓦質土器	45
(3)	内面朱付着土器	45
(4)	土製品	55
(5)	青銅器生産関連遺物	56
①	石製鋳型類	56
②	銅矛中型	56
③	銅滓・鉄滓	59
④	不明土製品	59
(6)	鉄器	61
(7)	石器	62
(8)	軽石	65
IV	2次調査の内容	66
1	調査の概要	66
2	遺構	67
(1)	ピット	67
(2)	溝	67

(3) 包含層	67
V まとめ	68
1 遺構の時期について	68
2 須玖黒田遺跡の青銅器生産	68
3 内面朱付着土器について	70

図 版 目 次

1 次 調 査

図 版 1	(1) 調査区西半 (北から)
	(2) 調査区東半 (北から)
図 版 2	(1) 1号土坑 (北東から)
	(2) 2号土坑 (南西から)
図 版 3	(1) 3号土坑 (北から)
	(2) 4号土坑 (北東から)
図 版 4	(1) 2・5号土坑 (南東から)
	(2) 1号井戸 (南東から)
図 版 5	(1) 2号井戸 (南東から)
	(2) 3号井戸 (南東から)
図 版 6	(1) P1土器出土状態 (東から)
	(2) P2土器出土状態 (北から)
図 版 7	(1) P3土器出土状態 (北東から)
	(2) P6土器出土状態 (東から)
図 版 8	(1) 1号溝Ⅲ区上層土器出土状態 (東から)
	(2) 1号溝Ⅲ区上層土器出土状態 (南から)
図 版 9	(1) 1号溝Ⅲ区上層中型 No.10・土器出土状態 (南から)
	(2) 1号溝Ⅵ区中型 No.3・9・20と22号溝土器出土状態 (南から)
図 版 10	(1) 1号溝B - B'ベルト断面土層 (北西から)
	(2) 1号溝C - C'ベルト断面土層 (西から)
図 版 11	(1) 1号溝D - D'ベルト断面土層 (西から)
	(2) 1号溝E - E'ベルト断面土層 (南西から)
図 版 12	(1) 11号溝J - J'ベルト断面土層 (北西から)
	(2) 18号溝中型 No.14出土状態 (北東から)

- 図版 1 3 (1) 21号溝N-N'ベルト断面土層(東から)
 (2) 包含層鋤型No 1出土状態
- 図版 1 4 土坑・井戸出土土器
- 図版 1 5 3号井戸・ビット・1号溝出土土器
- 図版 1 6 1号溝出土土器①
- 図版 1 7 1号溝出土土器②
- 図版 1 8 1号溝出土土器③
- 図版 1 9 1号溝出土土器④
- 図版 2 0 1号溝出土土器⑤
- 図版 2 1 1号溝出土土器⑥
- 図版 2 2 1・22号溝・西隣包含層出土土器
- 図版 2 3 西隣包含層出土土器
- 図版 2 4 包含層出土土器
- 図版 2 5 (1) 包含層・攪乱出土土器
 (2) 瓦質土器
- 図版 2 6 内面朱付着土器
- 図版 2 7 (1) 土製品
 (2) 石製鋤型類
 (3) 銅矛中型
- 図版 2 8 (1) 銅滓・鉄滓
 (2) 不明土製品
 (3) 鉄器
- 図版 2 9 石器①
- 図版 3 0 (1) 石器②
 (2) 軽石
- 2 次 調 査
- 図版 3 1 (1) 調査区全景(東から)
 (2) P 1礎板検出状態(北から)

挿 図 目 次

- 第 1 図 須玖黒田遺跡周辺遺跡分布図 4
- 第 2 図 須玖黒田遺跡位置図 5

第 3 図	1次調査遺構配置図	7
第 4 図	断面土層図	9
第 5 図	1・2号土坑実測図	11
第 6 図	3号土坑実測図	12
第 7 図	4・5号土坑実測図	13
第 8 図	1～3号井戸実測図	14
第 9 図	1・2号掘立柱建物跡実測図	15
第 10 図	P1・2実測図	16
第 11 図	P6実測図	17
第 12 図	土坑出土土器実測図	21
第 13 図	1・2号井戸出土土器実測図	22
第 14 図	3号井戸出土土器実測図	23
第 15 図	ビット出土土器実測図①	24
第 16 図	ビット出土土器実測図②	25
第 17 図	1号溝出土土器実測図①	27
第 18 図	1号溝出土土器実測図②	28
第 19 図	1号溝出土土器実測図③	29
第 20 図	1号溝出土土器実測図④	30
第 21 図	1号溝出土土器実測図⑤	31
第 22 図	1号溝出土土器実測図⑥	32
第 23 図	1号溝出土土器実測図⑦	34
第 24 図	1号溝出土土器実測図⑧	35
第 25 図	1号溝出土土器実測図⑨	36
第 26 図	1号溝出土土器実測図⑩	37
第 27 図	10・11・13・17・21・22・25号溝出土土器実測図	38
第 28 図	西隣包含層出土土器実測図①	39
第 29 図	西隣包含層出土土器実測図②	40
第 30 図	包含層出土土器実測図①	42
第 31 図	包含層出土土器実測図②	43
第 32 図	攪乱出土土器実測図	44
第 33 図	瓦質土器実測図	45
第 34 図	内面朱付着土器実測図	45
第 35 図	土製品実測図	55
第 36 図	石製鋳型類実測図	56

第 37 図	銅矛中型実測図	57
第 38 図	銅滓・鉄滓実測図	59
第 39 図	不明土製品実測図①	60
第 40 図	不明土製品実測図②	61
第 41 図	鉄器実測図	61
第 42 図	石器実測図①	63
第 43 図	石器実測図②	64
第 44 図	石器実測図③	65
第 45 図	軽石実測図	65
第 46 図	2 次調査遺構配置図	66
第 47 図	P 1 実測図	67
第 48 図	須玖永田 A 遺跡青銅器・ガラス製品生産関連遺物出土分布図	69

表 目 次

表 1	土器・瓦質土器・内面朱附着土器観察表	46
表 2	中型観察表	58

I はじめに

1 調査に至る経過

1次調査に至る経過は、平成元年8月21日に建築会社をとおして当該地の地権者から春日市建設部（現 都市整備部）に共同住宅建築による開発申請書が提出された。当地は、須玖永田A遺跡1次調査地の北東200mに位置し、青銅器生産遺跡が新たに発見される可能性が推察されたため8月30日から埋蔵文化財に関する事前協議を行い、試掘調査を実施することとなった。

同年10月6日に重機による試掘調査を実施したところ、30～40cmの厚さの客土の下に多くの弥生土器などの遺物を含む遺物包含層が認められた。さらに遺物包含層の下20～30cmには、ほぼ前面にピットや溝などの遺構が検出され、当地周辺に弥生時代を中心とする遺跡が広がっていることが明らかになった。

後日、地権者と遺跡保存についての協議を行ったが、当初から鉄筋コンクリート造りの建物が計画されていたため遺跡の破壊は避けがたく、記録保存することになった。発掘調査は、共同住宅が建築される平成2年7月に先立つ平成2年4月16日から受託事業として行うことで地権者の同意を得て、対象地752.16㎡のうち、共同住宅が建設される部分を中心に320㎡を対象とした。

2次調査に至る経過は、平成14年1月21日に建築会社をとおして当該地の地権者から春日市文化財課に個人専用住宅の建設計画があるとの打診を受け、事前調査の依頼書が提出された。

同年3月4日に重機による確認調査を実施したところ、地表から約60cmの厚さの客土の下に弥生土器などを含む黒褐色を呈する遺物包含層が認められた。さらに遺物包含層の40cm下には弥生時代のピットと考えられる遺構を検出した。

後日、地権者と遺跡保存について協議を行ったが、地体力が弱いため建物の基礎構造の変更は難しく、記録保存を行うことになった。発掘調査は、平成14年4月8日から市費単独事業として、対象地180.97㎡のうち、建物が建築される範囲と下水道管などが埋設される範囲を中心に行い、25.7㎡を調査した。

なお、遺物の整理作業及び報告書作成は、平成24年度を中心に行った。

2 調査の組織

春日市教育委員会が発掘調査を実施した平成2・14年度、報告書刊行の最終的な作業を行った平成24年度の体制は以下のとおりである。発掘作業および整理作業における調査体制は次のとおりである。

1次調査（平成2年度）

教育長	三原 英雄
教育部長	西田 譲
社会教育課長	矢野 文一
文化財係長	鬼倉 芳丸
主事	坂本 智明
技師	丸山 康晴
技師	平田 定幸
技師	中村 昇平
技師	吉田 佳広
嘱託	池田 洋子

報告書作製（平成23年度）

教育長	山本直俊
社会教育部長	永田辰男
文化財課長	廣瀬貴之
管理担当 係長	中村昇平（兼務）
主任	山田ひとみ
主事	佐伯廣宣
文化財担当係長	中村昇平
主査	吉田佳広
主査	森井千賀子
主任	井上義也
嘱託	上原あい
嘱託	島津屋幸子
嘱託	森田利枝（～9月）
嘱託	柳 智子

2次調査（平成14年度）

教育長	河鍋好一
社会教育部長	矢野文一
文化財課長	白石光治
管理担当 課長補佐	谷 芳文
事務主査	白水富士子
事務主査	十時弘之（～6月）
事務主査	渡辺康博（7月～）
文化財担当係長	古賀俊光
技術主査	平田定幸
技術主査	中村昇平
技術主任	吉田佳広
技術主任	森井千賀子
技術主任	境 靖紀
技術主任	井上義也
嘱託	池田正大
嘱託	山下啓之（～2月）

II 位置と環境

須玖黒田遺跡は、福岡県春日市日の出町1・6・7丁目にかけて所在する遺跡で、現在そのほとんどが住宅地となっている。遺跡の性質及び特徴はその立地条件と深く関わるものである。以下に須玖黒田遺跡周辺の地形的、考古学的環境を概観しよう。

春日市の中央部に位置する春日丘陵は、春振山系から派生し、北に向かって標高を減じた先には福岡平野が広がっている。春日丘陵上及び周辺には、須玖黒田遺跡を内包する須玖遺跡群が存在し、その規模は、南北約2 km、東西約1 kmの広範囲におよぶ。

須玖遺跡群はその内容から、中国の史書『後漢書』、『魏志』に登場する「奴国」の主要部に比定されている。遺跡群内の地形は大きく丘陵と氾濫原に分類され、西側は諸岡川が地形変換点となっている。標高は約38～15 mの間に分布する。主に弥生時代中期～後期の墓地や集落からなり、時期によって土地利用の違いも見られる。

代表的な遺跡である須玖岡本遺跡は緩傾斜地にあり、標高は約35～19 mと比高差が大きい。最高所は奴国の丘歴史公園付近の岡本山地区で、最低所は弥生時代最大の青銅器生産遺跡である坂本地区である。『漢委奴国王』の金印の属した王より、数代前の「奴国王」の喪棺墓が発見された狭義の須玖岡本遺跡（須玖岡本遺跡岡本地区）は削平が著しいが、現況で標高約20 m前後を測る。

氾濫原上の遺跡は、標高約17～15 m前後にある。今回報告する須玖黒田遺跡は標高約15 m、須玖遺跡群の北端部に位置する。同じ氾濫原には、弥生時代中期～後期の墓地や集落が散在し、中でも弥生時代後期の生産に関わる遺跡は、技術史的観点からも特筆すべきものである。

須玖五反田遺跡では、弥生時代後期のガラス工房と考えられる竪穴住居が見つかった。この建物周辺からは、ガラス勾玉未製品、ガラス勾玉鋳型、ガラス玉鋳型などガラス製品の製作に関連する遺物が出土している。須玖唐梨遺跡は掘立柱建物のみで構成される集落で、銅矛の鋳型や中型が出土し、銅滓もわずかに出土した。加えて鉄片も多数に出土しており、調査地の近辺にこれらの生産遺構が存在する可能性が高い。須玖永田A遺跡で見つかった周囲に溝を巡らせた掘立柱建物も青銅器工房と考えられ、建物の周囲から青銅器生産に関連する遺物が数多く出土した。須玖尾花町遺跡は北半に水田跡、南半に集落跡が確認され、居住域と水田域が堤によって区画される様子は、土地利用の境界を知る貴重な例である。また、居住域の竪穴住居2軒からは青銅器生産遺物が出土している。須玖黒田遺跡でも、青銅器生産に関わる遺構・遺物が出土し、生産遺跡の調査例を加えることとなった。

奴国内の青銅器生産は、須玖タカウタ遺跡・須玖坂本B遺跡等の成果から弥生時代中期前半に遡る可能性があり、弥生時代後期になると丘陵北側の氾濫原上に密集するようになる。弥生時代中期末の王墓地点の眼前に位置することからも「王直轄の生産工房」であると評価されている。ここで生産されたと思われる青銅器は、対馬や四国、遠く韓国まで運ばれている。



- 須玖黒田遺跡
- 1 博多遺跡群
- 2 吉塚遺跡群
- 3 栞田青木遺跡群
- 4 中尾遺跡群
- 5 栞田大谷遺跡群
- 6 雀居遺跡
- 7 東那珂遺跡
- 8 比志遺跡群
- 9 那珂遺跡群
- 10 下月隈 C 遺跡群
- 11 金隈遺跡
- 12 板付遺跡
- 13 諾阿 B 遺跡
- 14 五十川遺跡群
- 15 野間遺跡
- 16 大橋 E 遺跡
- 17 井尻 B 遺跡
- 18 仲島遺跡
- 19 南八幡遺跡群
- 20 横手遺跡群
- 21 寺島遺跡群
- 22 臼佐遺跡群
- 23 野多目 C 遺跡群
- 24 赤木原遺跡群
- 25 須玖遺跡群
- 26 駿河 A 遺跡
- 27 石勺遺跡
- 28 御供田遺跡群
- 29 上白水遺跡群

第1図 須玖黒田遺跡周辺遺跡分布図 (1/50,000)



第2図 須玖黒田通跡位置図 (1/2,500)

Ⅲ 1次調査の内容

1 調査の概要

当地は須玖遺跡群の北部にあり、青銅器工房跡や青銅器生産関連遺物が出土した須玖永田A遺跡1次調査地から北東約200mに位置するため、弥生時代の青銅器生産に関する遺物や遺構が確認されることが期待された。

発掘調査は土置き場の都合上、西半部と東半部とに分けて実施した。当地は住宅地として利用されており、30～40cmほどの客土や耕作土などを除去すると、黒褐色を呈する遺物包含層が現れた。発掘調査時には、調査区壁面などの土層観察によって遺構は、この黒褐色土層から切り込んでいることが明らかになったが、包含層と遺構の覆土の色調に差はほとんどなく、期間の問題もありこの面ですべての遺構を検出することは不可能であった。このため、遺物包含層を20～30cm掘り下げたところ茶黒色を呈する粘質土層が現れ、対象地の前面に黒褐色土の覆土からなる遺構群が確認された。また、住宅が建設される前に掘削されたのであろうか、数条の溝状の攪乱や調査区南東隅に大きめの攪乱が存在した。

発掘調査の結果、土坑5基、井戸3基、掘立柱建物跡2棟、溝状遺構25条及び多数のビットを検出した。遺構はビットや土坑が調査区の南東部にやや集中する感はあるが、ほぼ前面に確認できる。土坑は、5基とも調査区の南西部で確認した。何れも歪な平面形をなし、楕円状のものが多い。4号土坑からは完形に近い鉢が出土した。なお、5号土坑は、2号土坑などに切られる。

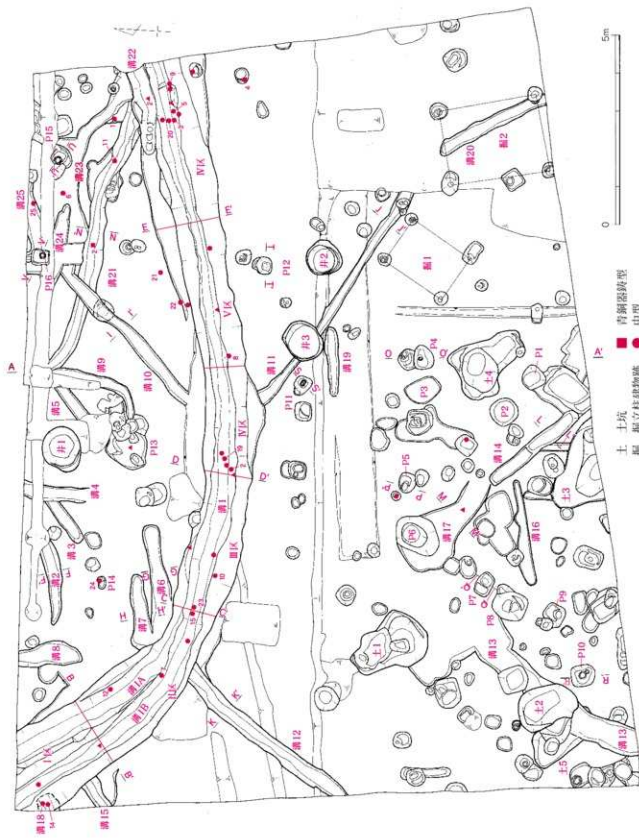
1号井戸は、1号溝の北側、2・3号井戸は1号溝の南側で確認した。3基の直径は1m前後、深さは1・2号井戸が1.5mなのに対し、3号井戸は1m程度と浅い。各井戸からは完形品に近い弥生土器などが出土した。

2棟の掘立柱建物跡は、調査区南東部で検出した。共に1間×1間の4本柱の建物で、長方形プランを呈する。

大小25条を検出した溝状遺構のうち、最も規模が大きいのは1号溝である。調査区の北部にやや弧を描きながら東西方向にのびる。多くの弥生土器が出土した。

多数のビットを検出したが、大型なものには土器の完形品が出土するものがあり、土坑としたほうがよいかもしれない。また、掘立柱の柱穴も少なからず含まれていると思われる。

調査で出土した遺物は、弥生土器、古式土師器、瓦質土器、土製品、青銅器生産関連遺物、石器がある。このうち主体を占めるのは弥生土器で1号溝から最も多く出土した。特に右製鋳型や複数の銅矛中型が出土しており、遺跡の性格としては、須玖永田A遺跡に類似することが推察される。



第3図 1次調査遺構配置図 (1/100)

2 遺構

(1) 土坑

1次調査では5基の土坑を調査した。5基の土坑は、調査区南西部を中心に存在する。

1号土坑(図版2-(1)、第5図)

調査区の西部に位置する2.1m×1.5m程度の不整形な土坑で、検出面からの最深部までは38cm。平面形や縦断面形から2つの土坑が切りあっているようにも見えるが、調査で確認することはできなかった。

出土遺物として弥生土器がある。

2号土坑(図版2-(2)・図版4-(1)、第5図)

調査区の南西隅部で検出し、5号土坑と13号溝を切る。平面形が3.2m×1.05m程度の楕円形を呈する土坑で検出面からの深さは1.02m。北西壁面に不明瞭な段がある。

出土遺物は、ほぼ完形の甕、器台などの弥生土器がある。

3号土坑(図版3-(1)、第6図)

調査区中央南端部に位置する。2.25m×2.0m程度を検出したが、南側は調査区外へとのびるため完掘しておらず、平面形は不明。中央付近で段をなし下がり、調査区の壁際には2つの掘り込みを確認できる。

出土遺物は、弥生土器があるが小片のため図化していない。

4号土坑(図版3-(2)、第7図)

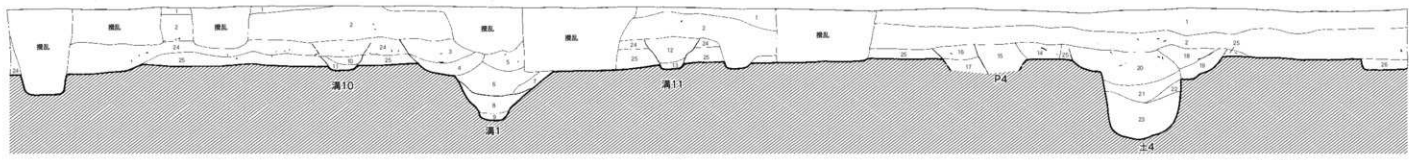
調査区中央南側で検出した2.0m×1.5m程度の不整形な土坑。北部は、段をなし低くなり、その形状は、上面が1.2m×0.95m、底面は0.6m×0.45mの楕円形をなす。遺構検出面からの最深部は87cm。

多くの弥生土器が、出土しており、鉢の完形品などが含まれる。また、小片だが内面に朱が付着した弥生土器片もある。

5号土坑(図版4-(1)、第7図)

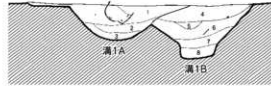
調査区南西隅部にあり、2号土坑や13号溝に切られる。平面形は、長軸1.9m、短軸0.9m程度の隅丸長方形プランで、最深部の深さは62cm。

出土遺物としては、弥生土器があり、内面に朱が付着したものも3片含まれるが図化できた資料はない。



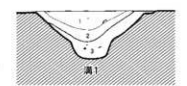
- | | |
|-----------------|----------------------|
| 1 客土 (マサ土) | 14 茶灰色土 |
| 2 暗茶褐色土 (腐作土) | 15 黒色土 (黄色土混入) |
| 3 茶灰色土 | 16 暗茶褐色土 |
| 4 茶灰色土 | 17 黒色土 |
| 5 暗茶褐色土 | 18 茶灰色土 |
| 6 暗茶褐色土 | 19 茶灰色土 (黄色土ブロック混入) |
| 7 暗茶褐色土 | 20 暗茶褐色土 |
| 8 茶灰色土 (黄色粘土混入) | 21 暗茶褐色土 (黄色土ブロック混入) |
| 9 黄色粘土 (灰色土混入) | 22 暗茶褐色土 (黄色土ブロック混入) |
| 10 暗茶褐色土 | 23 黒色土 |
| 11 茶灰色土 | 24 茶灰色土 |
| 12 茶灰色土 | 25 暗茶褐色土 |
| 13 淡茶灰色土 | 26 黒色土 (黄色土ブロック混入) |

B 15.60m B'



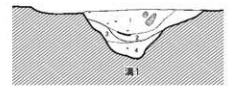
- | | |
|--------------------|-----------------------|
| 1 茶灰色土 | 5 黄色土 (黄色土ブロック混入) |
| 2 暗茶褐色土 (粘質) | 6 暗茶褐色土 (黄色土ブロック混入) |
| 3 灰黄色土 (粘質) | 7 黒色土 (粘質) |
| 4 茶灰色土 (黄色土ブロック混入) | 8 灰黄色土 (粘質・黄色土ブロック混入) |

C 15.60m C'



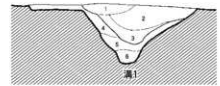
- | |
|--------------------|
| 1 茶灰色土 |
| 2 茶灰色土 (粘質) |
| 3 灰黄色土 (黄色土ブロック混入) |
| 4 暗茶褐色土 (土) |

D 15.60m D'



- | |
|--------------------|
| 1 茶灰色土 |
| 2 茶灰色土 (粘質) |
| 3 灰黄色土 (黄色土ブロック混入) |
| 4 暗茶褐色土 (土) |

E 15.60m E'



- | |
|--------------------------|
| 1 茶灰色粘質土 (埋丸溝) |
| 2 暗茶褐色土 (黄色土ブロックをわずかに含む) |
| 3 暗茶褐色土 |
| 4 茶灰色土 (黄色土ブロック混入) |
| 5 暗茶褐色土 (黄色土ブロック混入) |
| 6 黄白色粘土・茶色土・茶灰色粘土の混在層 |
- ※4-5中は埋丸の土が混在している

F 15.60m F'



- | |
|---------|
| 1 灰黄色土 |
| 2 暗茶褐色土 |

G 15.60m G'



- | |
|--------|
| 1 灰黄色土 |
|--------|

H 15.60m H'



- | |
|--------|
| 1 灰黄色土 |
|--------|

I 15.60m I'



- | |
|---------------|
| 1 茶褐色土 (ブロック) |
| 2 黄色土 |

J 15.60m J'



- | |
|---------|
| 1 茶褐色土 |
| 2 暗茶褐色土 |

K 15.60m K'



- | |
|---------|
| 1 灰黄色土 |
| 2 暗茶褐色土 |

L 15.60m L'



- | |
|-------------|
| 1 灰色砂混入灰黄色土 |
| 2 灰色砂混入黄色土 |

M 15.60m M'



- | |
|--------------|
| 1 灰黄色土混入灰黄色土 |
|--------------|

N 15.60m N'



- | |
|--------------------|
| 1 茶灰色土 |
| 2 黄色土 (黄色土ブロック混入) |
| 3 暗茶褐色土 |
| 4 暗茶褐色粘土 |
| 5 黄色土 (灰黄色土ブロック混入) |

O 15.60m O'



- | |
|------------|
| 1 灰黄色土 |
| 2 黄色土 |
| 3 黄色土混入黄色土 |

P 15.60m P'



- | |
|-----------|
| 1 灰黄色土 |
| 2 黄色土 |
| 3 暗茶褐色粘質土 |

Q 15.60m Q'



- | |
|---------------|
| 1 灰黄色土 |
| 2 黄色土 |
| 3 暗茶褐色土混入灰黄色土 |

R 15.60m R'



- | |
|-----------|
| 1 灰黄色土 |
| 2 黄色土 |
| 3 暗茶褐色粘質土 |
| 4 灰白色粘質土 |

S 15.60m S'



- | |
|--------|
| 1 灰黄色土 |
| 2 黄色土 |

T 15.60m T'



- | |
|---------------|
| 1 茶褐色土 |
| 2 黄色土 |
| 3 2に同じ |
| 4 黄色土 (灰色土混入) |

U 15.60m U'



- | |
|---------------|
| 1 黄灰色土混入灰黄色土 |
| 2 暗茶褐色土混入灰黄色土 |
| 3 暗茶褐色土 |

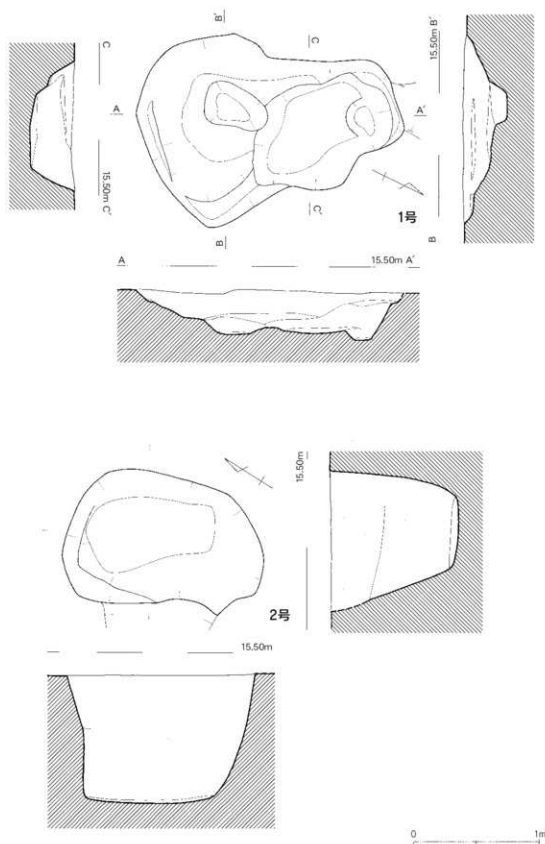
V 15.60m V'



- | |
|-------------|
| 1 灰黄色土 |
| 2 灰色土混入灰黄色土 |



第4図 断面土層図 (1/40)



第5图 1·2号土坑实测图(1/30)

(2) 井戸

1次調査では、1号溝の北側に1号井戸、北側に2・3号井戸の計3基の井戸を確認した。

1号井戸(図版4-(2)、第8図)

調査区北部中央に位置し、平面形は、上面が1.19 m×1.03 m、底面は0.61 m×0.64 mの楕円形をなす。東側は、やや張り出し、段掘りになっている。検出面からの深さは1.61 mで、橙黄色の砂質土まで掘り込む。

出土遺物には、完形品を含む弥生土器がある。

2号井戸(図版5-(1)、第8図)

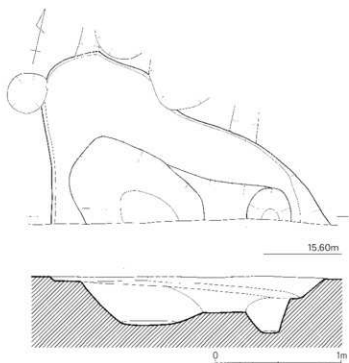
調査区中央東寄りに検出した。平面形は、上面が直径0.9 m前後で、底面は0.6 m前後で円に近い。南側は、検出面から30cm程度で段をなす。垂直に近い掘り込みは、深さ1.53 mで、青灰色粘土層まで達する。

出土遺物は、弥生土器のみで、ほぼ完形品の壺を含む。

3号井戸(図版5-(2)、第8図)

調査区の中央部にあり、11号溝から切られる。平面形は上面が1.08 m×0.9 m程度で楕円形を呈し、底面は0.82 m前後の円形に近い。検出面からの深さは1.03 mで、黄褐色砂層まで掘り込むが、他の2基の井戸に比べ浅い。

出土遺物は、ほぼ完形の複合口縁壺など弥生土器がある。



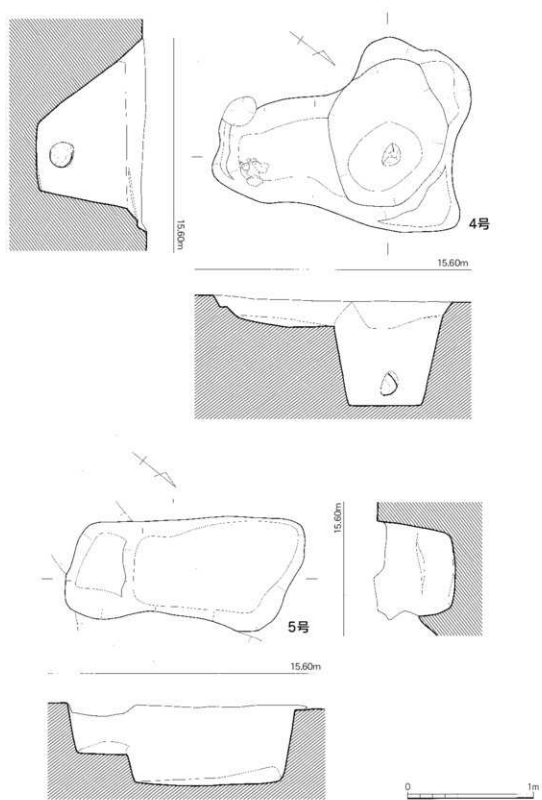
第6図 3号土坑実測図(1/30)

(3) 掘立柱建物跡

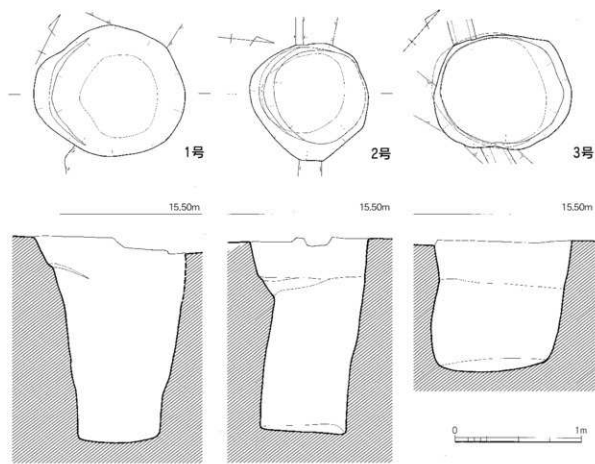
調査区南東隅で、2棟の掘立柱建物を確認した。この他にも調査区内においては、掘立柱建物の柱穴を1つないし2つ検出しているものがあるかも知れないが、調査区外にまで達する不完全な状態で検出のため明らかではない。

1号掘立柱建物跡(第9図)

調査区南東部に位置する。1間×1間の建物跡で、桁行1.8 m、梁間1.3 m、桁行方向はN-59°



第7图 4·5号土坑实测图(1/30)



第8図 1～3号井戸実測図 (1/30)

—Wをとる。柱穴の掘り方は、P 4のみが60cm × 37cmの楕円形で、その他は直径30～35cm程度を測る。深さは、最深の柱穴で36cmである。

当遺構からは、図示できる遺物は出土していない。

2号掘立柱建物跡 (第9図)

調査区南東隅部で検出した1間×1間の建物跡で、1号掘立柱建物跡よりも大形である。桁行2.6m、梁間2.0m、桁行方向はN-75°-Eをとる。柱穴の掘り方は、P 1のみが62cm × 43cmの楕円形で、その他は35～40cmの円形を呈する。深さは最深の柱穴で55cmを測る。

出土遺物としては、弥生土器片と古式土師器片が出土したが、図示できる遺物はない。

(4) ビット

当調査では、大小多数のビットを検出したが、その分布は南西部に集中する。この中には、上述したように掘立柱建物跡の柱穴も含まれる可能性が高い。また、大形のビットの中には、弥生土器や古式土師器の完形品を含むものがあり、小形の土坑ないしは井戸の可能性もあるものも含まれる。こ

では、土器の完形品が出土したP1・2・6について報告する。

P1 (図版6-(1)、第10図)

調査区の中央南部で検出した57cm×57cm程度のピット。上面は、北部はやや丸みを帯びるが、隅丸形状を呈する。底面は楕円形で、深さは60cm。

出土遺物は、弥生土器、古式土師器、鉄器が出土した。

P2 (図版6-(2)、第10図)

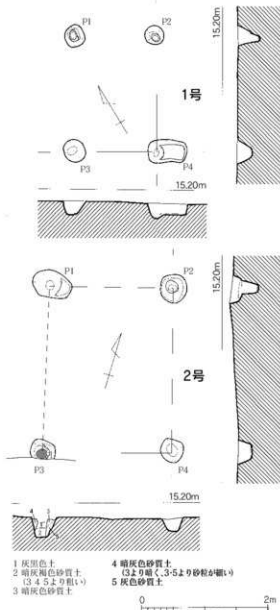
P1の北西側に位置する直径が70cm前後で、最深部の深さが90cmのピット。完形の土器が複数出土しており、規模は小さいが、井戸や祭祀的な性格も考えられよう。

出土遺物は、弥生土器、古式土師器がある。

P6 (図版7-(2)、第11図)

調査区中央部の南西側にあり17号溝と重複するが、前後関係は不明。平面形は、128cm×96cmの楕円形で、壁面は、検出面から40～50cmの深さより下は角度が急になる。底面から甕の完形品が2個体出土することから、P2と同様に井戸や祭祀的な性格も考えられよう。

当遺構からは、弥生土器、古式土師器や鉄器が出土した。



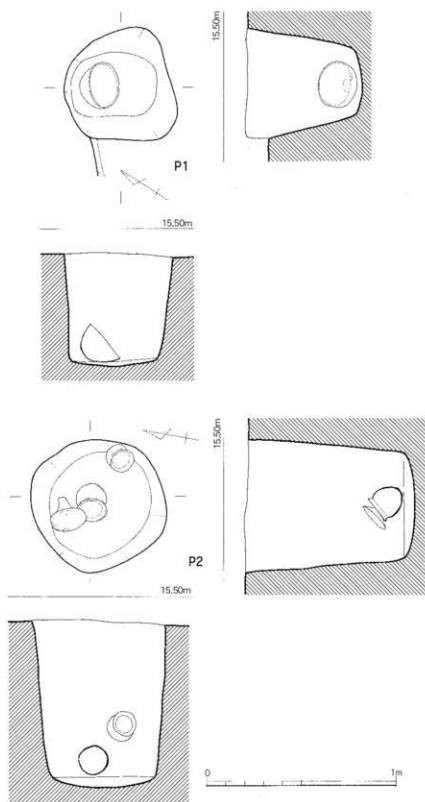
第9図 1・2号掘立柱建物跡実測図(1/60)

(5) 溝

1号溝 (図版8～11、第4図)

調査区北半部で検出した溝で、北西隅から北東へ弧を描きながら延びる。幅は1.1～2.3m、検出面からの深さは55cm前後と40cm前後と開きがあるが、これは後述するように堀直しが行われたことに起因する。断面の形状は、底辺の狭い逆台形を基本とし、「U」字に近い場所もある。底面はほぼ水平で、明らかな高低差はない。

平面形や土層観察によって掘り直しが行われたことは明らかで、平面形で確認できた掘り直しに関しては、掘り直し後を1号溝A、掘り直し前を1号溝Bとした。掘り直しは基本的に1号溝B(古い溝)がある程度埋没した段階で埋め戻しを行い、1号溝A(新しい溝)を掘削している。また、1号



第10図 P1・2実測図(1/20)

で、4号溝に切られる。幅は、30cm前後で、検出面からの深さは3cmと浅い。

弥生土器と杓子形土製品が出土した。弥生土器は小片のため図示できるものはない。

4号溝

溝Aのほうが1号溝Bよりも浅い。

出土遺物としては、弥生土器が大量に出土した他に銅矛中型、銅滓、鉄器、石器などが出土する。なお、弥生土器の殆どは1号溝Aから出土し、I区に集中する。調査当初、西側隅包含層として取り上げた遺物は、当遺構から出土した可能性が高い。

青銅器生産関連遺物の出土は、1号溝とその北側に集中することから、須玖永田A遺跡1次調査の7号溝のように青銅器工房群を区画する溝の可能性がある。

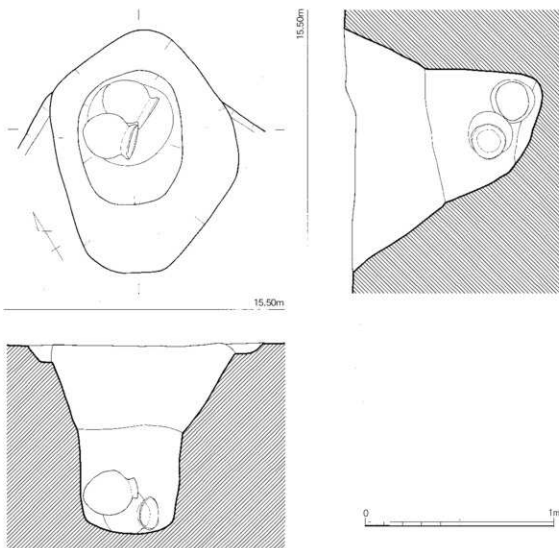
2号溝(第4図)

調査区北西部で、2.2m程度検出した。幅は40cm前後、深さは15cmを測る。

出土遺物としては、弥生土器があるが、図示できるものはない。

3号溝

2号溝と4号溝の間に1.4m程度を検出した溝



第11図 P6実測図 (1/20)

3号溝を切り、南北方向にのびる溝で、南部は削平のため消滅し、北部は調査区外へとびる。幅は40cm、深さは4cmと浅い。

出土遺物は、弥生土器片が出土したが、小片のため図示できなかった。

5号溝

調査区中央北部で、1.1m程度を検出した溝で、両端部は後世の掘削により破壊されている。幅は30cm程度、深さは6cmと浅い。

少量の弥生土器が出土したが、図化できる資料はない。

6号溝 (第4図)

調査区北西部で1号溝と7号溝に挟まれた位置にあり、両者と接続する。幅は35～50cm程度、深さは6cm前後で、底面は1号溝に向かいやや下がる。

弥生土器片が出土したが、図化できるものはなかった。

7号溝 (第4図)

6号溝の北側で、約2mを検出し、幅40cm程度、深さ10cm前後を測る。西部は1・6号溝と接続するが、1号溝との接続部は南側へ屈曲する。

弥生土器小片の他に炭化物が出土した。

8号溝

調査区北西部で、1.7m程度を検出し、北部は調査区外に至る。幅は50cm前後で、最深部の深さは検出面から約13cm。

出土遺物として、弥生土器が出土したが、小片のため図示していない。

9号溝

5号溝と10号溝に挟まれた位置に確認した平面形が「L」字状に屈曲する溝。北部は後世の掘削により破壊を受ける。南端部はピットに接続する。

弥生土器片が出土したが、図示できる資料はなかった。

10号溝（第4図）

調査区中央北部に位置し、北東から南西方向に約5mを検出した。21号溝を切り、南西部は後世の掘削のため破壊される。幅35cm前後、深さ5cm前後で、底面は南西方向が低い。1号溝の南側に位置する11号溝と同じ溝で区画などを表す可能性もあるが、明らかでない。

出土遺物としては、弥生土器片や砥石片があるが、壺の口縁部のみ図化した。

11号溝（図版12-（1）、第4図）

調査区の中央部に北西から南東方向に6.9mを検出した。3号井戸を切り、南東部は攪乱により破壊される。幅20～40cm程度、深さは5～10cmで、床面に目立った高低差はない。

弥生土器片が出土した。

12号溝（第4図）

調査区西部で、5.3mを検出し、1号溝に切られる。幅45cm、検出面からの深さは最深部で25cm、床面は北東方向へ低くなる。

出土遺物は、弥生土器の小片ばかりで、図化したものはない。

13号溝

調査区南西隅で5m程度を検出した。幅70cm前後、検出面からの深さは10cm程度で、床面はほぼ水平。中央部を2号土坑に切られるが、5号土坑よりは新しい。

出土遺物は、弥生土器がある。図化していないが、内面に朱が付着するものが1点ある。

14号溝（第4図）

調査区の南部で3m程度を検出した溝で、南部は段がつき下がる。幅40cm前後、深さは北部が7cm、南部は25cmと深い。

弥生土器片が出土したが、小片のため図化できなかった。

15号溝

調査区北西隅で1m程度を確認した。1号溝に切られる。幅30cm前後、検出面からの深さは

30cm程度。

出土遺物として、弥生土器があるが図化できる資料はない。

16号溝

14号溝の西側に2.8m程度を検出した。幅30cm前後、深さ5cm程度。

弥生土器が少量出土したが、図化できるものはなかった。

17号溝（第4図）

14・16号溝の北側に3m程度を検出した。幅70cm前後、深さは7cm程度で、北部は幅が広がる、P6との新旧関係は不明。

弥生土器片の他に図化していないが、銅滓が出土した。

18号溝（図版12-（2））

調査区北西隅で、15号溝の北側に0.5m程度を検出した。その大部分は1号溝に切られている。残存部から考えて、幅は50cm程度、深さ35cm前後であろう。

出土遺物として、弥生土器小片の他に銅矛中型がある。

19号溝

調査区中央部で、3号井戸の南側に1.8m程度を検出した。幅30cmで深さは5cm前後。

弥生土器の小片が1点出土したのみで、図化したものはない。

20号溝

調査区南東隅で3.1mを確認し、2号掘立柱建物跡のピットに切られる。周囲は攪乱され40cm程度低くなるが、現況で幅35cm、深さ10cm程度が残存する。

出土遺物としては、弥生土器があるが、小片のため図化できなかった。

21号溝（図版13-（1）、第4図）

調査区北東隅部で7.5m程度を検出した。北東側がやや弧を描き、溝1・10・23に切られる。幅50cm前後、深さは30cm程度。

出土遺物としては、弥生土器片の他に内面朱付着土器片4、瓦質土器片1、黒曜石剥片1、銅矛中型3片、埴埴／取瓶小片が出土した。このうち弥生土器、瓦質土器、銅矛中型を図化した。なお、後述する包含層出土の石英長石斑岩製砥石は、当遺構から出土した可能性がある。

22号溝

21号溝の南東側にあり、1号溝に切られることを確認した。1号溝に沿うように2.4m程度を検出した。幅40cm前後、深さ25cm程度が残存する。

土器の他に内面朱付着土器が出土したが、内面朱付着土器には図化できるものはない。

23号溝

21号溝と25号溝の間にあり、4.7m程度を検出した。北西から南東方向へのびる溝だが、南半部が幅30cm前後、深さ5cm程度の溝状を呈するのに対し、北半部は広がり溝状をなさない。ただし、北半部が大きく攪乱されるため具体的な形状は明らかでない。

出土遺物は、弥生土器小片が出土するのみで、図化した資料はない。

24号溝

10・23・25号溝が接する部分で確認した。後世の掘削により削平されていることもあり、各溝との切り合い関係は不明。幅40cm、深さ5cm程度。

弥生土器が出土したが、図化できる破片はない。

25号溝

24号溝の北側に検出した。調査区の間ということや、南部が破壊を受けるために具体的な形状は不明であるが、幅50cm、深さ15cm前後、西部は北に屈曲する。

出土遺物としては、弥生土器小片の他に内面朱付着土器、砥石、銅矛中型が出土し、弥生土器と砥石、銅矛中型は図化した。

(6) 包含層 (図版13-(2))

地表面から30～40cm下に、黒褐色を呈する遺物包含層を確認した。包含層の厚みは20～30cm程あり、多量の土器などの遺物を含んでいた。発掘作業を進める過程において、調査区壁面などの土層観察により、遺構の中には、包含層から切り込んでいるものもあったが、包含層が後世の耕作や開発により攪乱を受けることや、包含層と遺構の覆土の色調に差がほとんどなかったことから、包含層から遺構を検出することは困難であった。このため、包含層は人力により下げ、茶黒色粘質土層の面まで掘削した。

なお、上記の理由により包含層の遺物は、本来は遺構に伴うものもあったと思われる。特に西側隅包含層としたものの殆どは、1号溝の上層から出土した可能性が高い。

包含層から出土した遺物は、弥生土器、土師器、土製品などの多量の土器類の他に、青銅器鋳型、銅矛中型、銅滓などの青銅器生産関連遺物、石器、鉄器がある。

3 遺物

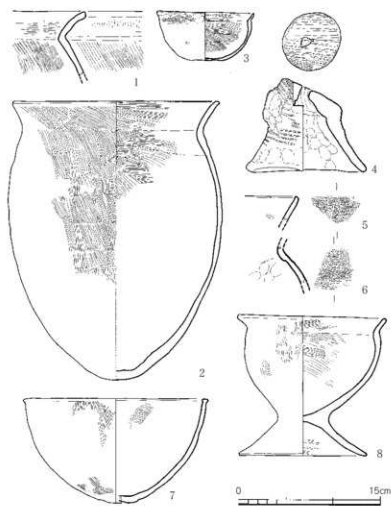
(1) 土器 (図版14～25-(1) 第12～32図)

1号土坑出土土器 (1)

1は裏の口縁部で、断面形は「く」字状を呈する。内外面共にハケ目によって調整を施す。

2号土坑出土土器 (2～4)

2は裏の完形品。口縁部の断面形は「く」字を呈し、底部は尖底気味の丸底に見えるが、微かに底端を確認できる。3は1/2程度が残存する跡。口縁部は体部上部を外につまみ出すことによって



第12図 土坑出土土器実測図(1/4)

な底部が残存する。8はほぼ完形をなす脚台付の鉢。鉢部は上部がやや内湾し、口縁部は内傾する。

1号井戸出土土器(9~16)

9~11は壺。9は小形の複合口縁壺で、底部は凸レンズ状をなし、頸部に突帯はない。10は複合口縁壺の口縁部で、屈曲部には稜を持つ。11は口縁部を欠く壺。玉葱状の体部と直立する頸部を持つ。17のような直口壺であろうか。12は壺の口縁部小片。端部は強いナデが施され窪む。13は壺の胴部片で、外面にはススが付着する。14・15は平底を呈する底部。14はやや大形の囊ないし壺、15は囊であろう。16は口縁端部を外に屈曲させる鉢の破片資料。

2号井戸出土土器(17~21)

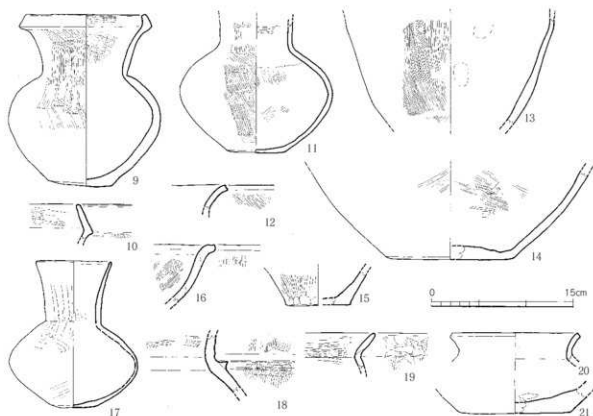
17は口縁部のみを1/4程度欠損する壺。外面はヘラミガキを施し、内底部にはハケ目をクモの巣状に施す。18は壺の頸部。肩部との境に断面三角形の突帯を付す。複合口縁壺か。19・20は壺の口縁部片。19は断面「く」字状、20は小形品と考えられ、口縁部は外反する。21は平底をなす底部。

3号井戸出土土器(22~32)

形成し、外面には接合痕がある。底部は平底。4は器台で、上方には鱗状につまみ出した突起を持つ。上面は傾斜し、焼成前穿孔がある。外面にはタキ目が良く残る。

4号土坑出土土器(5~8)

5は壺の口縁部で、端部は丸く仕上げる。外面には鋸歯状の線刻を施す。6は壺の肩部と考えられる資料で、在地の土器ではなかろう。上部に6本、下部に6本の平行する横位の沈線文が施され、その間には6本の縦方向の沈線が間隔をあけて施されるようである。なお、しっかりとした線で横位の沈線を施した後に縦方向の沈線は施される。7は鉢。口縁部は外側を僅かに肥厚させる。体部下半はヘラケズリ後にハケ目などを施すが、重



第13図 1・2号井戸出土土器実測図(1/4)

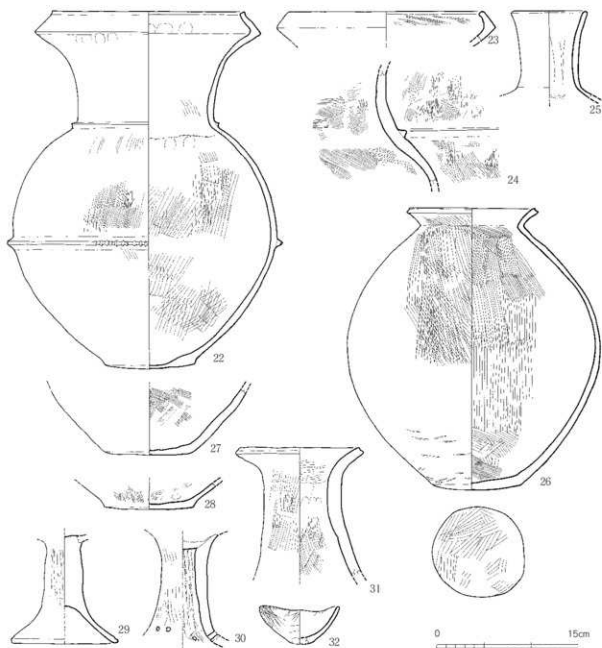
22～26は壺。22は複合口縁壺で、口縁部から頸部の1/2を欠く。断面三角突帯が、頸部と肩部の境と体部最大部に1条ずつ付され、体部の突帯には刻み目を施す。底部は凸レンズ状をなす。23は複合口縁壺の口縁部片。24は壺の頸部～肩部の資料で、突帯が1条貼り付けられている。複合口縁壺と推測できる。25は直口壺の口縁部。内面にシボリ痕を有す。26はほぼ完形品の壺。口縁部は短くやや外反、体部最大径は中央にあり、底部は凸レンズ状。内外面共にハケ目による調整を施すが、外面下部にはタタキ目が残存する。27・28は底部片。共にやや凸レンズ状をなす。29・30は高環の脚部。29は脚柱部が中空で、外面の調整は縦方向のヘラミガキ。30は脚柱部が中空で、内面にシボリ痕がある。2つ並んだ円形のスカシ孔が2箇所で確認できるため、本来は3箇所、6孔であったと推察できる。31は器台の上半部。くびれ部を上位に持つ。32は鉢縁の手握ね土器。外面の調整は、タタキ目の後にハケ目を施す。

P1出土土器(33・34)

33は複合口縁壺の口縁部。大きく外反し、屈曲部からさらに外へと開く。端部は丸く仕上げる。34は大ぶりの鉢。外底部はヘラケズリを施し、丸底に仕上げる。口縁端部は水平で、面を持つ。

P2出土土器(35～38)

35はほぼ完形をなす外来系の複合口縁壺。口縁部の下部は外反し、屈曲部から上は短く直立させ、端部は尖らせる。体部最大径は上位にあり、底部は平底。調整は、外面はタタキ目後にハケ目と考えられ、内面はヘラケズリを施す。36は複合口縁壺の口縁部片。外面に鋸歯状の線刻を持つ。37は



第14図 3号井戸出土土器実測図(1/4)

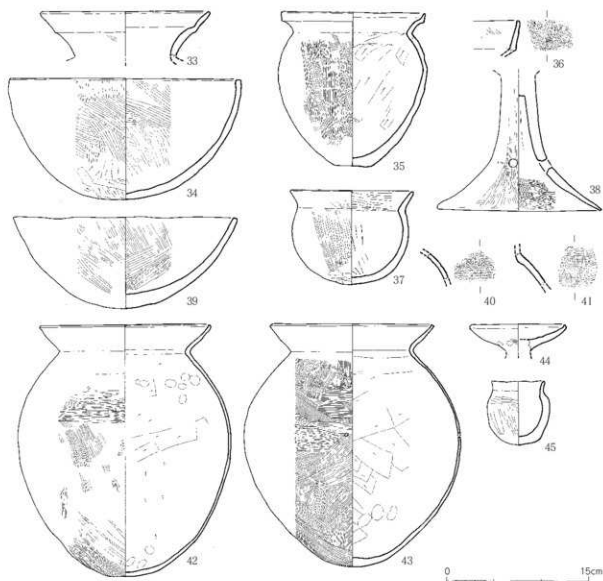
鉢の完形品。口縁部は体部最大径よりも若干大きい。外底部はヘラケズリを施し、丸底に仕上げる。38は高環の脚部で、丸いスカシ孔を持つ。

P3出土土器(39)

39は鉢の完形品。底部は丸底を呈し、器内が1.6cmと厚い。口縁端部は面を持つ。調整は底部と口縁部はナデ、その他はハケ目を施す。

P4出土土器(40・41)

40・41は同一個体と考えられる外来系の壺。上に6条、下に5条の平行する沈線を確認でき、その間を縦方向に6・7本の沈線や弧文が刻まれる。4号土坑出土土器(5)と同一個体であろう。



第15図 ビット出土土器実測図①(1/4)

P6出土土器(42・43)

42・43は布留式系甕の完形品。42は口縁部が内湾し、端部を上方にやや突出させるもの。摩擦するが、肩部にはヨコハケを施し、列点文が3つ確認できる。肩部～底部にススが附着する。43は口縁部がやや内湾し、端部を鋭く突出させる資料。肩部の一部にヨコハケがあり、不鮮明ながら3つの列点文がある。胴部最大径に直径3mm程度の穿孔を有す。

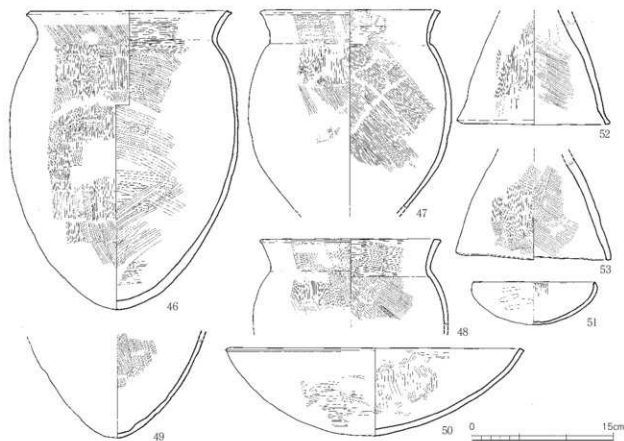
P8出土土器(44)

44は器台の坏部で、脚部との接合面で剥離する。口縁部は短く上方に突出する。外面はハケ目後にナデ調整、内面は風化のため不明。

P9出土土器(45)

45は手捏様の小形土器の完形品で、裹ないし壺であろう。外面にはヘラミガキを施す。

P13出土土器(46～53)



第16図 ビット出土土器実測図②(1/4)

46 はほぼ完形の甕。口縁部は断面「く」字を呈し、端部は強いヨコナデを施すため窪む。胴部最大径は上位にあり、口径よりも大きい。底部は丸底。外面の一部が被熱により赤変する。47 は甕で底部を欠く資料。口縁部は直立気味に外反し、端部を肥厚させる。48 も甕で、47 と似るため同一固体の可能性がある。49 は甕なしし壺の底部。丸底ではあるが尖底気味。外面の一部にススが付く。50・51 は鉢。50 は完形の大形品で、底部から口縁部は直線気味に内湾する。このため浅い形状をなす。内外面共にヘラミガキ調整。51 は完形の小形品で、口縁部は内湾する。このため、椀に近い形状をなす。調整は内外面共にヘラミガキとナデを施す。52・53 は器台の脚部で、上半を欠く資料。

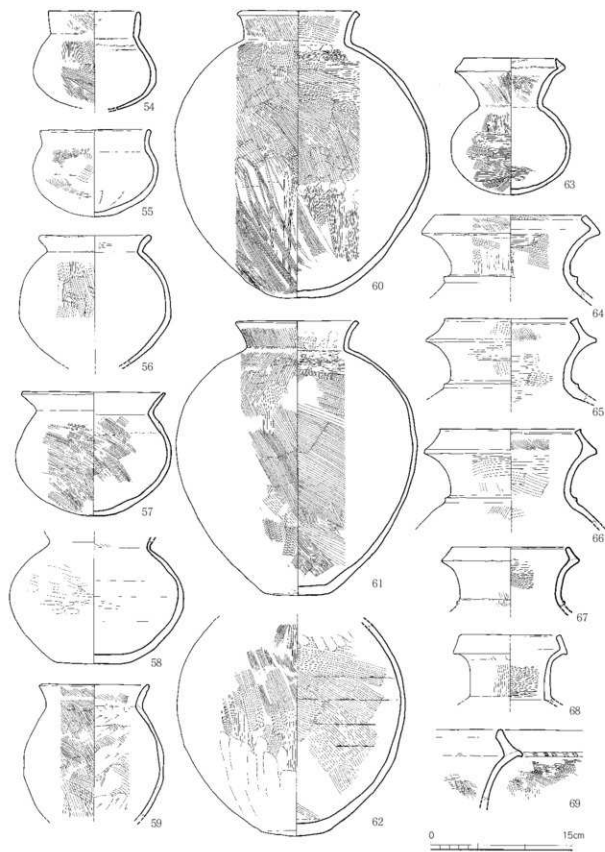
1号溝出土土器(54～175)

54～73 は壺。54 は扁球形の体部に直立する口縁部を持つ資料で、底部を欠く。55 は頸部がしまらず、丸底の小形品。外面にヘラケズリの痕跡がある。56 は球形に近い体部と短く外反する口縁部を持つ壺。外面にタタキ目が残存する。57 は口縁部の断面系が「く」字を呈する壺。丸底に近いが、僅かに底端部が確認でき、凸レンズ状をなす。58 は口縁部を欠く資料。底部は平底で、厚みがある。外面にはヘラミガキを施す。59 は壺と報告するが、甕の形状に近い資料。体部内面にはヘラケズリを施す。60～62 は倒卵形の体部を持つ壺。60 は完形品で、直立気味に外反する短い口縁部を持つ資料。丸底に近いが、若干底部を確認できる。体部下半には工具で波状に調整を行う。61 は60に近い形状をなすもの。接合できなかったために図上復元した。底部は平底気味の凸レンズ状を

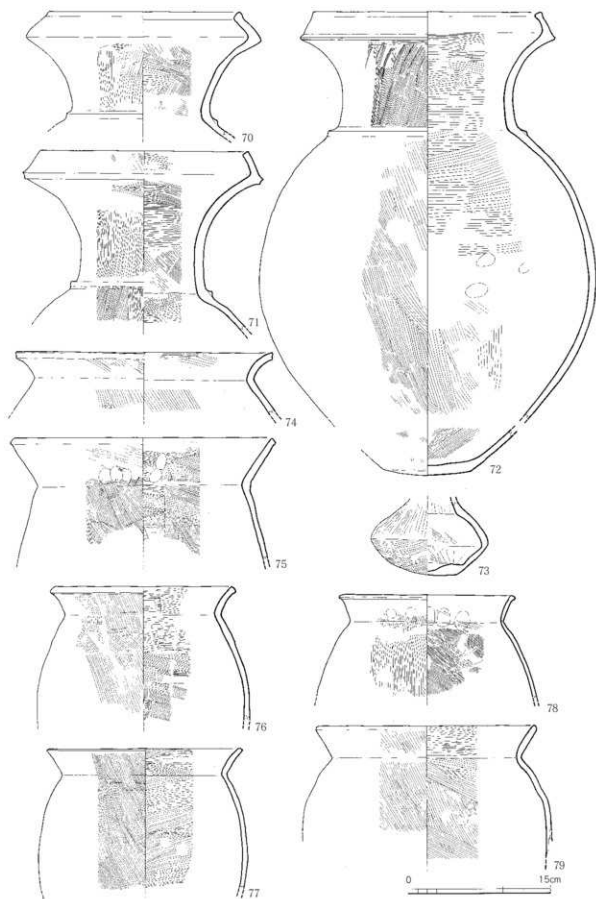
なす。62は口縁部から肩部を欠く。60・61のような短い口縁部が付くと考えられる。底部は凸レンズ状である。63～72は複合口縁壺。63はほぼ完形をなす小形品で、丸底。64～71は口縁部～肩部の資料。64～66・70・71は口縁端部に面を持つが、その他は丸く調整する。頸部と肩部の境に三角突帯を付すものが多いが、67は突帯が剥落、68はもともと貼り付けない。69の口縁屈曲部には、板状工具による刻み目が施される。72は小片が多く接合が不可能であったため、図上復元を行った。口縁端部は面を持ち、頸部と肩部の間には三角突帯を貼り付ける。体部は倒卵形をなし、底部は凸レンズ状。73は小形の長頸壺の体部と考えられる資料。体部は算盤玉形で、底部は凸レンズ状をなす。全体的に粗い作りで、器壁も厚く、ハケ目調整も粗い。

74～95は甕。確認できる口縁部は断面が「く」字を呈する。74～80は甕の口縁部～上半部。口縁部は、74が外反し、75～80は直線的のび、76はその中間的なもの。78は口縁端部を外に肥厚させる。81は胴部と底部の接点はなかったが、調整、色調や出土地点から同一固体と判断し、図上復元した。口縁部は直線的に外に開き、口径は胴部最大径よりも大きい。底部は凸レンズ状をなす。82は口縁の一部を欠く資料。口縁部はやや外反し、底部は不安定。83も口縁部をやや欠損する資料。口縁部はやや外反し、胴部最大径を中位に持つ。底部は凸レンズ状を呈す。84はほぼ完形の甕で、口縁部が外反する資料。胴部最大径は上位にあり、口径と同程度。底部は不安定な平底を呈す。外面にはヘラケズリやタタキ目が確認できる。85は口縁部が外反し、底部が凸レンズ状をなす完形に近い資料で、胴部最大径は中位にある。底部は1.5cm以上の厚みを持つ。外面の一部にタタキ目を残す。86は口縁部が直線的に広がり、底部は凸レンズ状をなす資料。胴部最大径を中位に持つ。肩部と胴部の上方にタタキ目が残存する。87は全体の1/2を欠損する資料で、反転復元した。口縁部は直線的に開き、底部は凸レンズ状をなす。89～91は口縁部を欠く資料。89は平底、その他の底部は凸レンズ状をなす。92・93は胴部に突帯を1条付すもの。92はやや大ぶり、頸部が締まるため壺に近い形状をなす。口縁下に1条の三角突帯を付し、口縁端部と胴部突帯には刻み目を施す。93はほぼ完形品。胴部の突帯は断面台形で太い。94・95はやや大ぶり、口縁下に突帯を付す資料。94は低い台形突帯に工具の小口で刻み目を施し、95は低い三角突帯を2条貼り付ける。

96～100は大形土器。96は広口壺。接合しないが、色調や調整などから同一固体と判断し図上復元した。口縁端部にはハケ目小口による「X」字状の刻み目を施す。口縁部が太く長いために接合を強化したかったのか、擬口縁をなす接合部には、ハケ目工具の小口による刻みを観察できる。頸部と肩部の間には「M」字突帯を、体部下半には見た目が2条の台形をした突帯を貼り付ける。底部は尖底に近い。本資料は、福岡平野では類例が乏しく、口縁部内面を肥厚させないが、糸島平野の壺の影響を受けた可能性がある。97は甕で、甕棺のような大形品。上部の残存状態は良いが、底部を欠く。口縁端部を肥厚させ、口縁下と胴部の下位に突帯を付す。胴部の突帯は断面台形で、側面にはタタキ目を観察できる。98は接合できなかったが、同一固体と考えられる甕の口縁部と胴部で、97よりもやや大形であろう。口縁下には三角形、胴部には台形の突帯を1条ずつ貼り付け、ハケ目工具による刻み目を入れる。99は口縁部の資料。口縁端部には刻み目を施し、口縁下には台形突帯を付す。



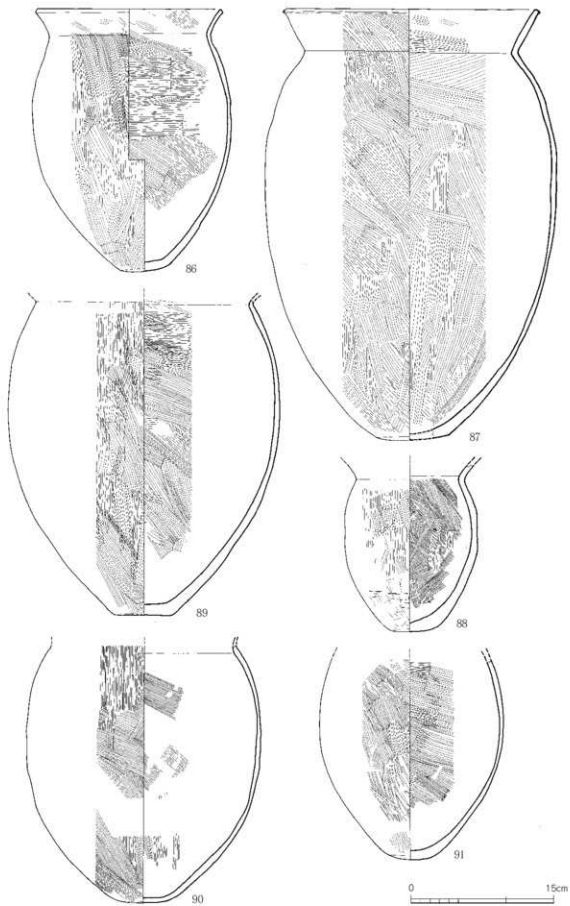
第 17 图 1 号满出土土器类测图① (1/4)



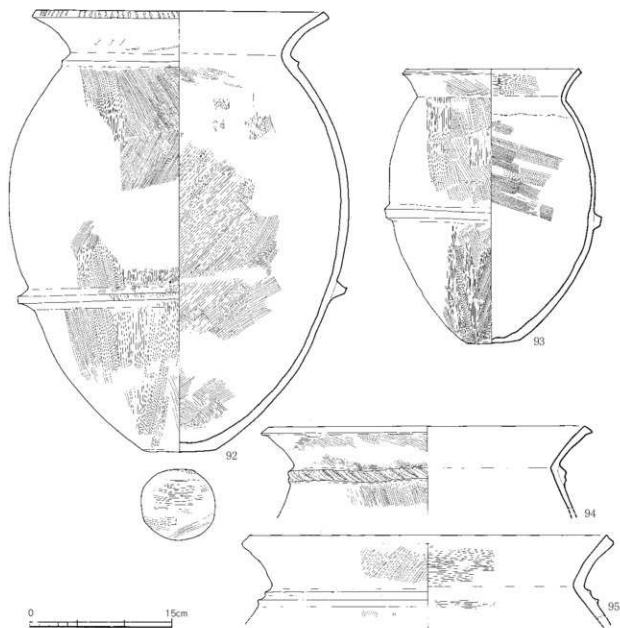
第18图 1号满出土土器实测图②(1/4)



第19图 1号满出土土器夹刻图③(1/4)



第 20 图 1 号清出土土器实测图④ (1/4)

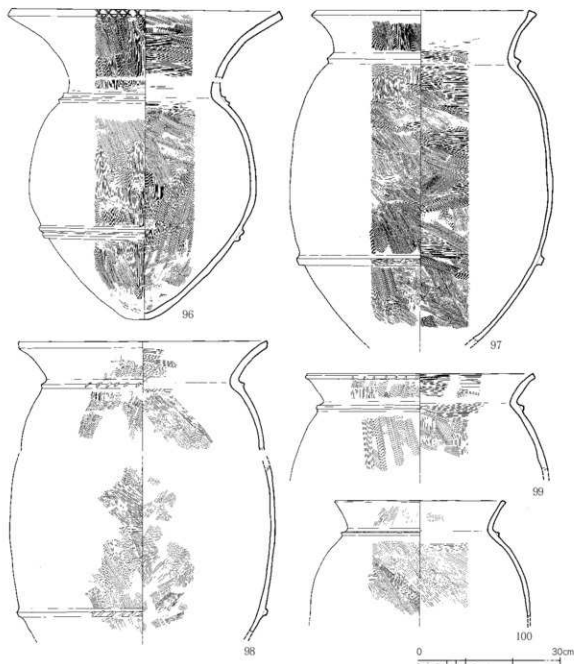


第21図 1号溝出土土器実測図⑤(1/4)

つ。100は頸部が締まるため壺に近い形状の資料。口縁部は直線的に開き、下部には三角突帯を付す。突帯には細かい刻目が施される。

101～114は壺ないし甕の底部。101・103・111・114は平底に近く、その他は凸レンズ状を呈する。101はやや突出する底部を持ち、102は三角突帯を付すことから壺の底部と考えられ、特に102については複合口縁壺と思われる。なお、113の外面上端にはヨコナデが認められるため、突帯が付された可能性がある。外面の調整はハケ目仕上げを基本とし、101・104・106・109・113はヘラケズリ、103・110にはタタキ目が残存する。また、108の外面には60と同様な波状の調整が施される。

115から119は脚台部で、上部には甕か鉢が接合すると考えられる。脚端部は、115・118は面を持ち、その他は丸くまとめる。119は端部付近が欠損するため断定はできないが、残存部から屈



第 22 図 1号溝出土土器実測図⑥ (1/8)

曲する可能性がある。

120～134は高坏。120は坏部の半分程度を欠失する資料。文様を意識したのであろうか、坏部の外面はハケ目を残したままヘラミガキを施す。脚部の3箇所に円形のスカシ孔があり、外側から内側へと穿たれる。胎土は精良で、丁寧に作られた感がある。121は脚部部の1/2のみを欠くもの。坏部は磨滅のため器面の残存状態は悪いが、脚部内面を除きヘラミガキを施す。122は坏部片で、口径は33.8cmに復元できた。口縁部は直線的にのび、坏部の半分程度を占めると推測できる。また、口縁部下の屈曲部は沈線状に浅く窪む。磨滅のため不明瞭だが、本来は丁寧にヘラミガキが施され

ていたことが分かる。123～127は口縁部片。123・124は口縁部が内湾するもので、端部は丸く仕上げる。125は口縁部が直立気味のもので、127は口縁部が外へ大きく開く資料。126の形態は125・127の中間的なもの。128～134は高環の脚部で、外面はヘラミガキを施し、128～131には円形のスカシ孔が確認できる。131は坏部と脚部の境に斜めの工具痕が存在する。長さや間隔が一定するため文様の可能性がある。

135は外来系土器と考えられる破片資料で、高環の屈曲部と考えたが、器台などの機種の可能性もある。小片のため傾きは確かではない。屈曲部には刻み目、その上下には半葎竹管文を施す。

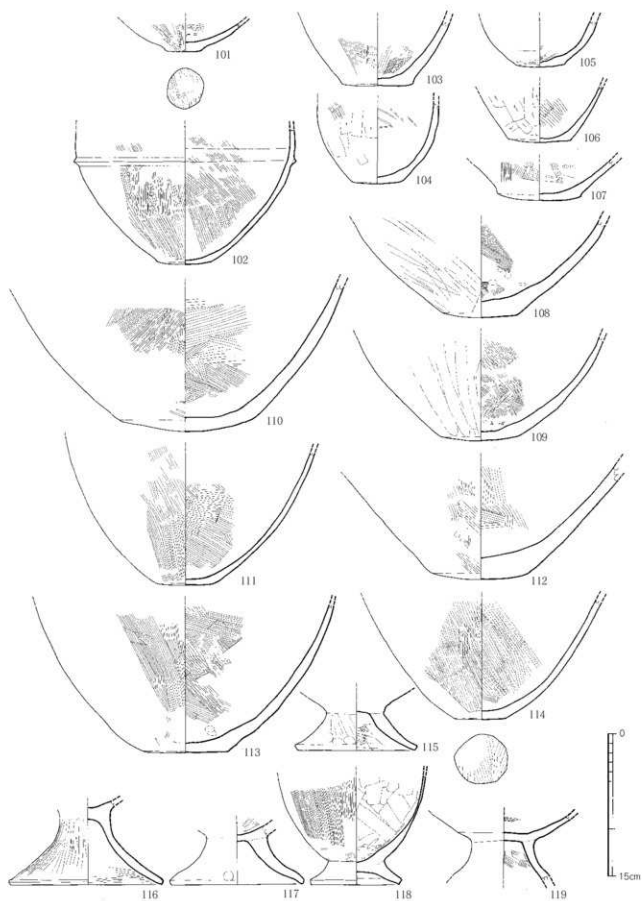
136～148は鉢。136～141は体部の内湾度が低い資料。口縁端部は136を除き丸くおさめるものが多い。底部は136が凸レンズ状、140が平底で、その他は丸底をなす。136・138・140・141は器壁に厚みを持つ。ハケ目調整のものが多いが、136はナデ、137は工具によるナデ、139はヘラミガキを施す。142・143は体部が強く内湾するもので、口縁端部は水平で面をもつもの。142は外面をヘラケズリ後にナデを施す。底部の調整は雑で、殆ど未調整。143は大形品。調整は内外面共にハケ目を施す。144は深みのある鉢で、底部を欠く。145～148は半球形の体部に朝顔状に広がる口縁部を持つ鉢。145の残存度は2/3程度で、その他はほぼ完形をなす。148の口縁部外面はハケ目を施すが、内外面共にヘラミガキを多用する。

149～168は器台。149～160は口縁部が外反するもの。149は脚部がやや内湾する資料。内外面にハケ目を施す。150はくびれ部をかなり上位に持つ器台。脚端部には棒状のものが当たった圧痕がある。外面の調整は、上半部はハケ目、下半部にはタタキ目。151は体部が直線的な資料調整はタタキ目とナデ。150同様に脚端部に圧痕がある。152～154は口縁端部に刻み目を施し、口縁部が大きく外反するもの。特に154は口径が脚部径を上回る。くびれ部は縮まり、上位にある。調整は、ハケ目とナデ。155・156は厚みがあり、口縁部を丸く仕上げるもの。157は脚部を欠く資料で、151と同様の形態をとる。158は口縁部を欠く資料。くびれ部が縮まるため、152～154と同タイプの可能性がある。159はくびれ部が縮まり、口縁部が直線的に開くもの。160は口縁端部に刻み目を有する器台の口縁部。器壁が厚いことや、下部が直線的なことから152～154とは異なる可能性がある。161～163はプロポーションが「ハ」字状のもの。上面は、ほぼ水平で、孔を有す。164～168は杵形器台。外面の最終的な調整は、164・166がタタキ目、165はハケ目、167・168はナデ。164・166・167の上面には、タタキ目が残る。167の脚端部には150・151の様な圧痕がある。

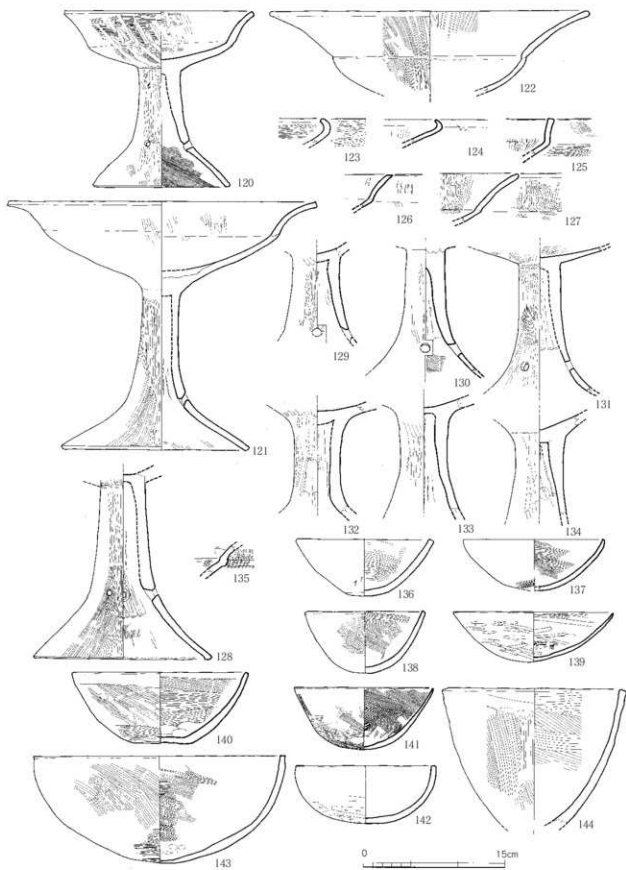
169はジョッキ形土器。口縁部と把手の多くは欠損するが、残存部から復元できた。器壁が薄く、丁寧な作りで、胎土も精良。外面の調整は、ナデで仕上げ、把手の接合部や底部には細かいハケ目が観察できる。

170～175は手捏様の小形土器。170・171はやや深めの鉢形をなす。底部は共に平底である。172～174は深さのない鉢形の資料。172は僅かに底部を有す。外面の調整は、172がハケ目、173は指押さえ、174はナデ。175は上部を欠く資料。底部は凸レンズ状をなす。

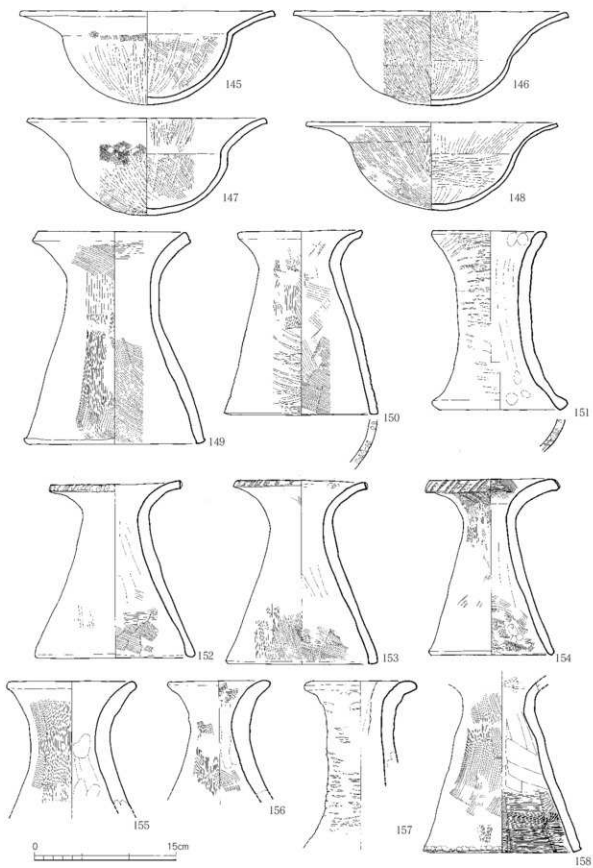
10号溝出土土器 (176)



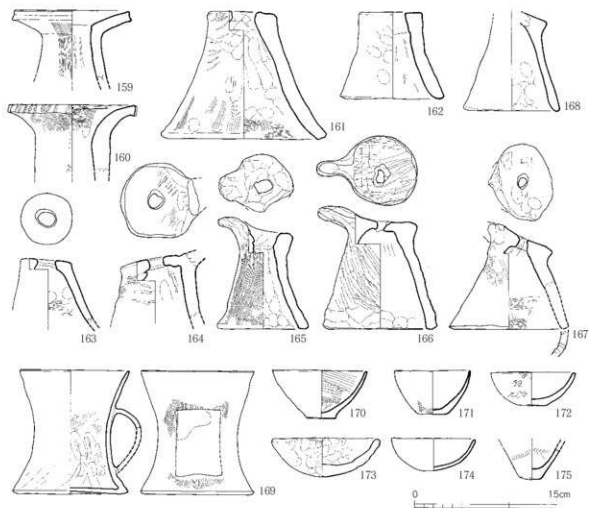
第 23 图 1 号清出土器实测图⑦ (1/4)



第24图 1号清出土土器类测图⑧(1/4)



第25图 1号清出土土器实测图⑨ (1/4)



第26図 1号溝出土土器実測図⑩ (1/4)

176は複合口縁壺の口縁部片。口縁部上半は内湾気味に立ち、端部は水平で面を持つ。屈曲部はやや突出し、刻み目を施す。

11号溝出土土器 (177)

177は口縁部の断面形が「く」字形の甕の口縁部。口縁部の調整はハケ目後にヨコナデ、胴部にはハケ目を施す。

13号溝出土土器 (178)

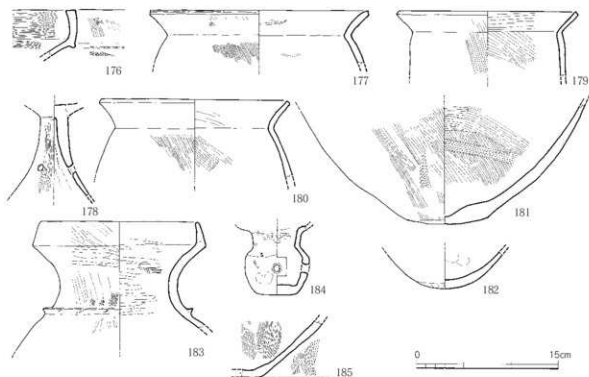
178は高環の脚部。円形のスカシ孔があり、調整はヘラミガキを施す。

17号溝出土土器 (179)

179は断面形が「く」字を呈する甕の口縁部。口径が胴部最大径を上回ると考えられる。

21号溝出土土器 (180～182)

180は甕の口縁部片で、口縁部の断面形は「く」字状を呈する。胴部外面にススが付着する。181・182は底部の破片資料。181は底部が凸レンズ状をなし、厚みがある。182の底部は丸底で、外面にはヘラケズリを施す。



第27図 10・11・13・17・21・22・25号溝出土土器実測図(1/4)

22号溝出土土器(183・184)

183は複合口縁壺。頸部と肩部の間には三角突帯を付し、刻み目を施す。調整はハケ目後にヘラミガキを施す。184は小形の壺で、体部に円孔を有す。口縁部は欠損するが、口径は体部最大径よりも大きい複合口縁であろうか。底部は不安定な平底。混入品か。

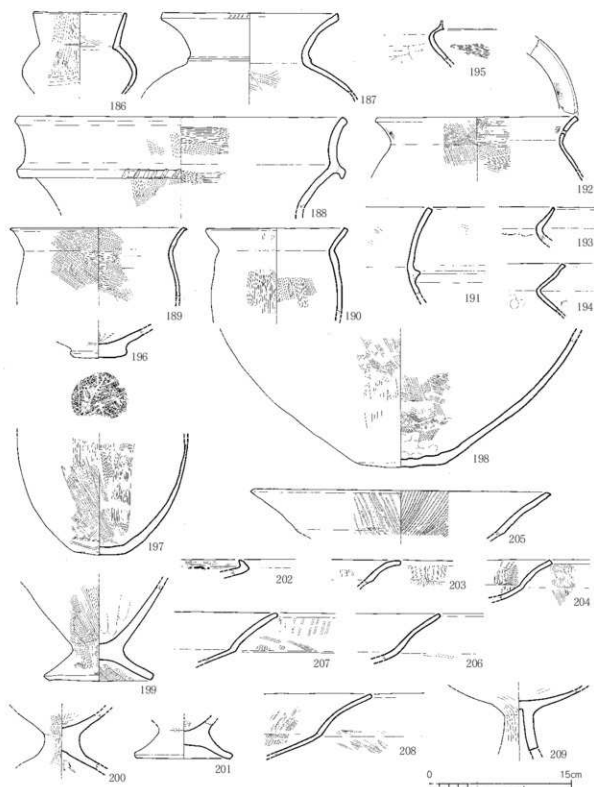
25号溝出土土器(185)

185は底部の破片資料。平底で、調整は内外面にハケ目を施す。

西隣包含層出土土器(186～222)

186～188は壺。186は扁球状の体部に直線的にやや外傾する口縁部を持つ小形の壺で、外面の調整はハケ目の後にヘラミガキを施す。187は広口壺。口縁端部に刻み目を施し、頸部と肩部の間には低平な三角突帯を付す。風化が著しく調整は不明の部分が多い。188は複合口縁壺。上部は屈曲部から直立気味に外反し、端部は外側へ少し肥厚させる。屈曲部には突帯を貼り付け、刻み目を施す。

189～195は甕。189・190は「く」字口縁で、口径が胴部最大径を上回る可能性があるもの。191は口縁部と胴部の屈曲が弱いもので三角突帯を付す。192は口縁部に2つの円孔を有す資料で、胴部はやや丸みを持つ。193は甕の口縁部片で、布留式系甕であろう。やや内湾し、端部を上方に揃い上げる。194は布留式系甕の口縁部。口縁部は内湾し、端部を肥厚させる。残存部では、胴部内面にヘラケズリは認められなかった。195は山陰系の二重口縁を呈する甕の破片資料。肩部にはヨコハケ目を施す。

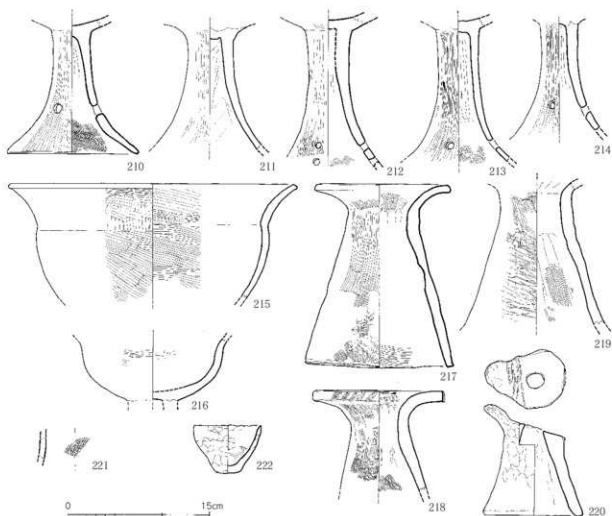


第 28 图 西漢包舍層出土土器実測図① (1/4)

196～198は底部。196は突出する底部で、平底。外底面には木葉痕がある。内面にはクモの巣状にハケ目を施す。壺の底部か。197は凸レンズ状の底を持つ資料。内外面はハケ目で調整する。198は大ぶりの資料。底部は凸レンズ状で、上部の聞き具合から考えれば壺の底部と推測できる。外面の調整は不明瞭ながら、ハケ目の後に板状工具によるナデか。

199～201は脚台部。199は脚台付裏の下半部であろう。脚裾は若干波打つ。200はつくりが丁寧な破片資料。内外面にヘラミガキが施され、胎土は精良。201は低短な感のある脚台部。端部は丸く仕上げる。

202～214は高坏。202は口縁部が強く内湾し、端部は突出する。203・204は口縁部を短く外反させる資料。口縁端部は、203は丸く、204は若干上方に揃み上げる。203には丁寧にヘラミガキが施される。205～208は口縁部を外に大きく外反させるもの。外反度は、205は小さいが、208は大きく、206・207はその中間を占める。205には放射状に細い単位のヘラミガキが施される。209～214は脚部。円形のスカシ孔が209・210・212・213・214にあり、さらに212・214は2つが縦列して確認できる。調整はヘラミガキで、213の上半部はハケ目を施す。



第29図 西隅包倉層出土土器実測図② (1/20)

215・216 は鉢。215 は半球形の体部に口縁部が外反する資料で、底部を欠く。調整は内外面共にハケ目を施す。216 は口縁部を欠く鉢で、底部に剝離痕を持つため、本来は脚台が付いていたと考えられる。調整は内外面共に横位のヘラミガキを施す。

217～220 は器台。217 は完形品で、くびれ部を上位に持ち、口縁部が外反するもの。外面と口縁部の内面、脚裾部の内面にハケ目を施す。218 は器台の上半部。口縁部は強く外反し、端部にハケ目工具による刻み目を施す。219 は口縁部と脚裾部を欠く資料。外面の調整はタタキ目の後に上半部のみハケ目を施す。220 は杵形器台。外面の調整はナデを施し、指頭痕を良く残す。上面にはハケ目工具痕がある。

221 は線刻を有す土器片。小片のため機種の特定はできない。平行する7本の細線に1本が斜行して刻まれる。

222 は鉢形を呈する手握土器。つくりが粗く、器面に接合痕が確認できる。

包含層出土土器 (223～269)

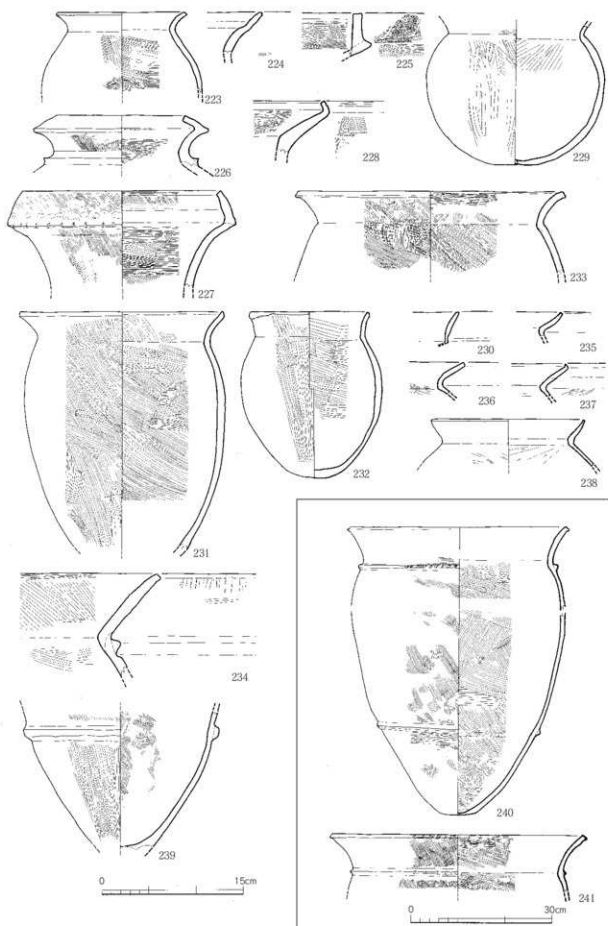
223～230 は壺。223 は広口壺で、内外面の調整はハケ目を施す。224～228 は複合口縁壺。224 は朝顔状に開き、屈曲部が不明瞭な資料。P1と同一個体であろう。225 は口縁部上部を直立させ、端部が窪むもの。外面には波状文を施す。外来系土器であろう。226 は頸部が短い複合口縁壺。下部には三角突帯を1条確認できる。227 は屈曲部に刻み目を施す口縁部片。口縁端部にはヨコ方向のハケ目を施す。228 は直線的に外傾する口縁部の上部を短く屈曲させる資料。タタキ目状の調整が残る。器台の可能性も考えたが、一応、壺として報告した。229 は扁球形の体部を持つ壺で、口縁部を欠く。外面の調整はハケ目の後にヘラミガキを施す。230 は山陰系二重口縁壺の口縁部の小片。

231～238 は甕。231 は口縁部が「く」字を呈し、底部を欠く。調整は内外面共にハケ目。232 は口縁部の外反度が弱い甕で、底部は丸底。口縁端部は外に折り曲げ、やや肥厚させる。胴部の中位や底部は厚みがある。ハケ目の単位は粗い。233 は口縁部の破片資料。口縁部は外反し、端部はヨコナデのため窪む。内面と外面の調整はハケ目を施し、外面にはタタキ目が残る。234 は大形の甕の口縁部。口縁部下に三角突帯を1条付す。ハケ目の単位は粗い。235～238 は布留式系甕の口縁部。口縁部は、235・238 が内湾し、236・237 は直線的にのびる。口唇部は上方につまみ上げるが、237 は顕著である。

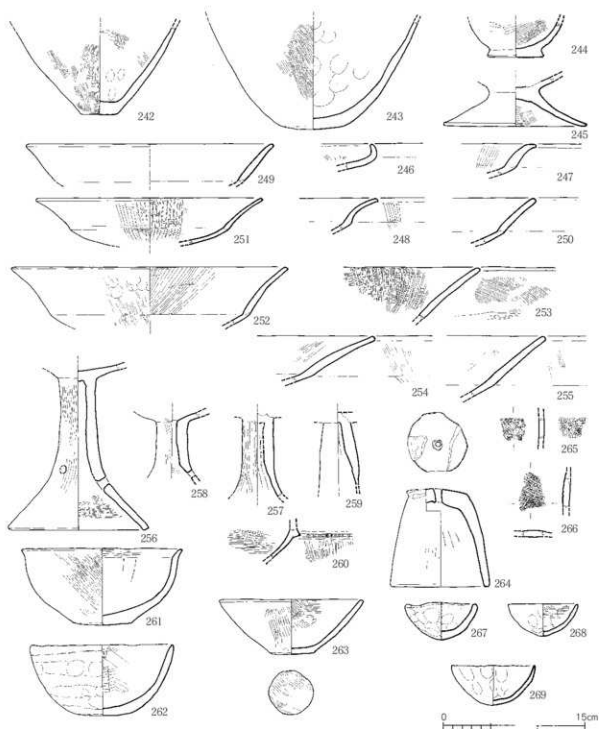
239 は胴部下で底部の外面が剝離する。上部には台形突帯を1条貼り付ける。内面と外面の調整はハケ目で行うが、外面の下端部にはヨコナデを施す。

240・241 は大形の甕。240 は接合できなかったが、図上復元を行った。口径が胴部最大径よりも大きく、底部が凸レンズ状で小さいため、不安定なプロポーションをなす。口縁部下と胴部下位に突帯を1条ずつ付け、口縁部下の突帯にはハケ目工具で刻み目を入れる。241 は甕の口縁部片。口縁部下に三角突帯を1条付す。口縁端部と突帯には工具で刻み目を施す。突帯下には右上がりの板状工具による刺突状の圧痕が認められる。この圧痕の延長上には、突帯の刻み目が位置するため、刻み目を施す際に板状工具に長さがあったため、胴部に触れた痕跡と考えたい。

242～244 は底部。242 は平底をなし、底部が小さいため不安定感がある。243 は凸レンズ状



第30図 包含層出土土器実測図① (1/4) / (1/8)



第31図 包含層出土土器実測図②(1/4)

の底部を有す。調整は外面がハケ目、内面は指頭痕がある。244は底部が突出し、外側へ開く資料。平底をなす。

245は脚台部。下方へと大きく広がり端部は丸く仕上げる。全体的に磨滅するが、内面にはハケ目を確認できる。

246～260は高坏。246は内湾する口縁部片。247・248は口縁部が短く外反する資料で、247の外面はナデ、内面にはヘラミガキを施し、248は外面がヘラミガキ、内面はナデを施す。249は

直線的に外傾する口縁部で、屈曲部の接合部から剥離したもの。色調は暗茶褐色を呈し、胎土に赤色粒子や微細な雲母を含むなど通常の土器と比べ違和感がある。外来系土器の搬入品の可能性が推測される。250～255は坏部の屈曲部から口縁部が大きくのびる資料。確認できる個体の内面にはヘラミガキが施され、251・253のようにヨコハケを事前に施すものもある。外面の調整はハケ目の253を除き、ヘラミガキを施す。256～259は脚部。256は三方に円形のスカシ孔を持ち、脚柱部にはヘラミガキを施す。257は脚柱部で、外面の調整はヘラミガキ。258は畿内系高環の脚柱部で、坏部の底部は塞がれない。円形のスカシ孔が確認でき、外面の調整はハケ目、内面は裾部がハケ目で、脚柱部はヘラケズリ。259も畿内系の高環の脚柱部。磨滅が著しく調整は不明。260は突帯に刻み目を有す破片資料。突帯下の調整はハケ目の後にヘラミガキを施す。壺の可能性も考えたが、傾きや器壁の薄さから高環とした。外来系の高環（台付鉢）の可能性はあるのではなからうか。

261～263は鉢。261は口縁部を短く外傾させる鉢。底部は凸レンズ状で、厚みを持つ。262は粗雑なつくりで、手握様の鉢。外面口縁下には接合痕が確認できる。不明瞭な底部を持つ。263は体部から口縁部にかけてが直線的に外傾するもの。底部は平底に近い凸レンズ状を呈する。

264は器台。上面が丸みを持ち、中央には外側から内側へとうがたれた円孔を有す。外面の調整はナデであるが、微かにハケ目が残る。

265・266は線刻を有す土器片。小片のため傾きや天地は不明。数本が平行する線刻と直交する同様の線刻を観察できる。

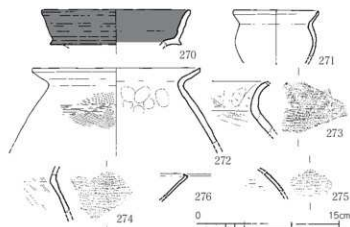
267～269は鉢形をした手握土器。プロポーシオンに大差はみられないが、267は器壁に厚みがある。調整はどの個体も指頭痕を観察できるが、268は内面の口縁下にハケ目を施す。

攪乱出土土器（270～276）

調査区南東隅部には30㎡程度の大きな攪乱があり、整理箱1箱の弥生土器や古式土師器が出土した。このうちの7点を図化して報告する。

270は山陰系二重口縁壺の口縁部。屈曲部は突出し、口縁端部は丸くおさめる。内外面共に丹塗り。271は小形の壺。口縁端部は直立し、尖らせる。

272は甕の上半部。口縁部は僅かに内湾し、口唇部を尖らせる。肩部にはヨコハケ目を施す。273～275は胴部の外面にタキ目（タキ目）を施すもの。273は外反する口縁部を持ち、内面はヘラケズリ後にハケ目を施す。274・275は胴部内面にヘラケズリを施し、器壁を薄く仕上げるもの。276は甕の口縁部。口唇部を内側上方に突出させる。



第32図 攪乱出土土器実測図（1/4）

(2) 瓦質土器 (図版 25 - (2)、第 33 図)

1 は 21 号溝出土の破片資料で、肩部と考えられる。外面には縄文タタキ目と沈線が巡る。内面はナデ仕上げである。2 は包含層からの出土品。底部付近の破片と思われるが、傾きについては確かではない。外面は縄文タタキ目、内面はナデを施す。

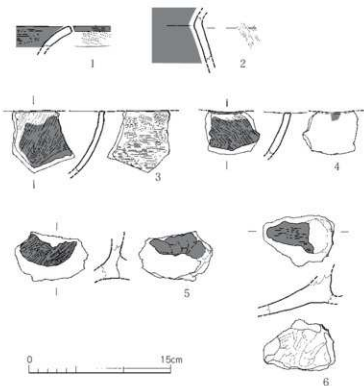


第 33 図
瓦質土器実測図 (1/4)

(3) 内面朱附着土器 (図版 26、第 34 図)

黒田遺跡 1 次調査からは 65 点の内面朱附着土器が出土した。何れも破片資料で、小片や破片も含まれるが、土器の共存関係や調整や色調などから考えて弥生時代終末前後のものと考えて間違いない。今回は 6 点を図化し、報告する。

1 ~ 3・5 は包含層、4・6 は 1 号溝から出土した。1 は口縁部、2 は肩部の破片である。通常の甕に朱を入れたものか、甕を焼成前に半裁し辰砂鍋に転用したのかは不明。2 にはススが付着する。3 ~ 6 は福岡県行橋市辻垣高田・長通遺跡¹⁾などから出土した「広片口三耳鉢」や「辰砂鍋」と呼ばれる朱附着土器の破片資料。以下の名称は辻垣高田・長通遺跡の報告書に準じた。3・4 は口縁の破片で、端部は面を持つ。内面の調整はヘラミガキ、外面は 3 がハケ目で、4 はナデ。3 にはススが付着する。5 は側面把手が取り付けいていた部分と考えた。調整は、内面はヘラミガキ、外面がナデを施す。6 は尾部把手の付け根の部分と推測した資料。内面はヘラミガキを施し、外面にはナデで、ハケ目が残存する。外面にススが付着する。調整などから考えて、複数個体が存在したと推測される。



第 34 図 内面朱附着土器実測図 (1/4)

註 1 福岡県教育委員会 1994 「辻垣高田・長通遺跡」一般国道 10 号線稚田道路関係埋蔵文化財調査報告書第 2 集

土器

表1 土器・瓦質土器・内面朱付着土器観察表

()は復元顔

番号	検出 回数	種別	出土位置	法長 (cm) ①口径法部長 ②法長×法部長×法長 ③法部長×法部長	残存状態	調整及び特徴	備考
1	第12回 回数14	甕	1号土坑	—	口縁部小片	調整は内面へ7日後コナナ子。内面へ9日後。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
2	第12回 回数14	甕	2号土坑	①21.8 ②29.5 ③22.5	ほぼ完整	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
3	第12回 回数14	鉢	2号土坑	①10.3 ②5.15 ③3.9	全体の1/2	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
4	第12回 回数14	器台	2号土坑	①6.2 ②9.9 ③(12.75)	ほぼ完整	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
5	第12回 回数14	甕	4号土坑	—	口縁部小片	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
6	第12回 回数14	甕	4号土坑	—	胴部→底部小片	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	80・41と同一種類?
7	第12回 回数14	鉢	4号土坑	①(19.6) ②11.05 ③3.4	全体の1/3	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
8	第12回 回数14	脚台付 鉢	4号土坑	①15.7 ②14.8 ③(13.5)	ほぼ完整	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
9	第13回 回数14	甕	1号井戸	①12.6 ②18.0 ③6.6 ④16.1	完整	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
10	第13回	甕	1号井戸	—	口縁部小片	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
11	第13回 回数14	甕	1号井戸	③6.2 ④16.1	口縁部欠損	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
12	第13回	甕	1号井戸	—	口縁部小片	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
13	第13回	甕	1号井戸	—	胴部1/4	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	又久経
14	第13回	底部	1号井戸	③(13.6)	底部1/2	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
15	第13回	底部	1号井戸	③(6.9)	底部1/6	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
16	第13回	鉢	1号井戸	—	口縁部小片	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
17	第13回 回数14	甕	2号井戸	①7.8 ②15.4 ③4.6 ④13.6	胴部1/4欠損	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
18	第13回	甕	2号井戸	—	胴部小片	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
19	第13回	甕	2号井戸	—	口縁部小片	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
20	第13回	甕	2号井戸	①(13.8)	口縁部1/7	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
21	第13回	底部	2号井戸	③(12.0)	底部1/6	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
22	第14回 回数14	甕	3号井戸	①20.5 ②37.8 ③9.6 ④29.1	完整	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
23	第14回	甕	3号井戸	①(20.6)	口縁部1/8	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
24	第14回 回数14	甕	3号井戸	—	胴部小片	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
25	第14回 回数14	甕	3号井戸	①8.05	胴部→胴部折片	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
26	第14回 回数14	甕	3号井戸	①13.8 ②30.0 ③9.7 ④26.8	ほぼ完整	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
27	第14回	底部	3号井戸	③9.6	底部完整	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
28	第14回	底部	3号井戸	③(9.4)	底部1/2	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
29	第14回 回数14	高坏	3号井戸	⑤11.4	胴部完整	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	
30	第14回	高坏	3号井戸	—	片断土器調整粉欠損	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	内面スチッチ
31	第14回 回数15	器台	3号井戸	①13.7	胴部欠損	調整は内面へ9日後コナナ子。内面へ9日後コナナ子。甕土は調整粉を多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。淡褐色白点。調整粉の多い一部あり。	

番号	種別 区分	種別	出土位置	法相 (cm) (1)1層上遺跡 (2)1層下遺跡 (3)埋没・配列	残存状態	調査及び特徴	備考
32	第14Ⅸ Ⅸ区15	手取	3号井戸	① 8.5 ② 4.0	全体2/3	調査は地中から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的な淡褐色～灰色。	
33	第15Ⅸ Ⅸ区15	竪	P.1	① 118.0	1層部1/5	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土に近似的な淡褐色～灰色。	224と同一-100
34	第15Ⅸ Ⅸ区15	竪	P.1	① 24.4 ② 12.8	2層	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土に近似的な淡褐色～灰色。	
35	第15Ⅸ Ⅸ区15	竪	P.2	① 15.0 ② 16.2 ③ 3.9 ④ 15.7	ほぼ完成	調査は地中から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
36	第15Ⅸ Ⅸ区15	竪	P.2	—	1層部2/5	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
37	第15Ⅸ Ⅸ区15	竪	P.2	① 13.05 ② 9.9 ③ 12.3	2層	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
38	第15Ⅸ Ⅸ区15	高杯	P.2	③ 17.4	埋没2層	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	内蔵カケ石
39	第15Ⅸ Ⅸ区15	竪	P.3	① 23.6 ② 9.6	2層	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
40	第15Ⅸ Ⅸ区15	竪	P.4	—	埋没1/5	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	6・41と同一-100種?
41	第15Ⅸ Ⅸ区15	竪	P.4	—	埋没1/5	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	6・40と同一-100種?
42	第15Ⅸ Ⅸ区15	費	P.6	① 18.1 ② 26.5 ③ 22.55	2層	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	大穴付近 内蔵土の付着
43	第15Ⅸ Ⅸ区15	費	P.6	① 17.4 ② 25.7 ③ 22.8	2層	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	大穴の 東側の 溝の底
44	第15Ⅸ Ⅸ区15	厨付	P.8	① (10.2)	上半部1/4	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
45	第15Ⅸ Ⅸ区15	手取	P.9	① 5.7 ② 6.8 ③ 6.6	2層	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
46	第16Ⅸ Ⅸ区15	費	P.13	① 21.7 ② 31.6 ④ 24.05	ほぼ完成	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
47	第16Ⅸ Ⅸ区15	費	P.13	① (19.1) ② (21.5)	1層部 1/3	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
48	第16Ⅸ Ⅸ区15	費	P.13	① (19.1)	1層部1/4	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
49	第16Ⅸ Ⅸ区15	底部	P.13	—	底部2層	調査は内蔵土。内蔵ハナリ・ナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	大穴付近
50	第16Ⅸ Ⅸ区15	竪	P.13	① 31.6 ② 9.4	ほぼ完成	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
51	第16Ⅸ Ⅸ区15	竪	P.13	① 13.0 ② 4.5	2層	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
52	第16Ⅸ Ⅸ区15	厨付	P.13	③ 16.2	下半部2層	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
53	第16Ⅸ Ⅸ区15	厨付	P.13	③ 16.4	下半部2層	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
54	第17Ⅸ Ⅸ区15	竪	B・B べルト1層	① 9.7 ② 13.0	底層2層	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
55	第17Ⅸ Ⅸ区16	竪	1号溝A IK	① 11.7 ② 9.1	1層部～底層1/2	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
56	第17Ⅸ Ⅸ区16	竪	1号溝 Ⅸ区上層	① 11.9 ② 16.0	1層部～底層1/4	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
57	第17Ⅸ Ⅸ区16	竪	1号溝 B・B べルト1層	① 15.2 ② 13.2 ③ 16.5	1層部～底層2/3	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
58	第17Ⅸ Ⅸ区16	竪	1号溝 B・B べルト1層	③ 7.9 ④ 18.4	埋没～底層2層	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
59	第17Ⅸ Ⅸ区16	竪	1号溝 Ⅸ区上層	① (11.6) ② (14.7)	1層部～埋没1/4	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
60	第17Ⅸ Ⅸ区16	竪	1号溝A IK	① 13.0 ② 30.4 ③ 27.1	ほぼ完成	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
61	第17Ⅸ Ⅸ区16	竪	1号溝A IK	① 13.1 ② 6.9 ③ (25.6)	1層部1/2 底層1/2	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	報告しがない2層
62	第17Ⅸ Ⅸ区16	竪	1号溝Ⅸ区上層・ B・B べルト1層	③ 7.2 ④ (24.1)	埋没～底層1/3	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	
63	第17Ⅸ Ⅸ区16	竪	1号溝 B・B べルト1層	① (9.7) ② 14.5 ③ 12.6	ほぼ完成	調査は内蔵土から約1メートルまで、内蔵コナデ。敷土は細砂をわずかに含む。焼成は良好。色調は内蔵土にも近似的。	

番号	棟号 階数	種別	出立位置	延床 (㎡) ①(1階)②(2階)③(3階)④(4階)⑤(5階)⑥(6階)⑦(7階)⑧(8階)⑨(9階)⑩(10階)	残存状態	調査及び特徴	備考
64	第17回 阪阪16	遊	1号講 面区上層	① (14.0)	1階部分 1/2	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
65	第17回 阪阪16	遊	1号講	① (14.0)	1階部分 1/5	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
66	第17回 阪阪16	遊	1号講 面区上層	① (15.0)	1階部分 1/2	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
67	第17回 阪阪16	遊	1号講 B 面区下層	① (12.2)	1階部分 1/6	講壇以外部分のみ、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
68	第17回 阪阪16	遊	1号講 内区上層	① (10.4)	1階部分 1/3	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
69	第17回 阪阪16	遊	1号講 A 面区	—	1階部分 1/1	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
70	第18回 阪阪16	遊	1号講 面区上層	① 20.2	1階部分 4/5	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
71	第18回 阪阪17	遊	1号講 面区上層	① 22.0	1階部分 1/1	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
72	第18回 阪阪17	遊	1号講 A 1区・包 含部、西側包含部	① (24.1) ② 9.5 ③ (35.0)	1階部分 1/3 一部 2階 1/3 一部 2階 1/3	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	検査しない2区
73	第18回 阪阪17	遊	1号講 B B ベルト1層	① 12.4	1階部分 1/1	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
74	第18回 阪阪17	遊	1号講 面区上層	① (27.1)	1階部分 1/5	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
75	第18回 阪阪17	遊	1号講 B B ベルト 1層、西側包含部	① 28.0	1階部分 1/3	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
76	第18回 阪阪17	遊	1号講 包含部分	① (19.0)	1階部分 1/2	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	スス付着
77	第18回 阪阪17	遊	1号講 包含部分	① 20.6	1階部分 1/1	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
78	第18回 阪阪17	遊	1号講 A 1区	① (18.5)	1階部分 2/5	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
79	第18回 阪阪17	遊	1号講 A B区	① (23.2)	1階部分 1/4	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	破損主要
80	第19回 阪阪17	遊	1号講 M区上層	① 20.6 ② (22.9)	1階部分 1/2	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
81	第19回 阪阪17	遊	1号講 A 上層・ D D ベルト	① (22.0) ② (6.0) ③ (21.3)	全体 1/3	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	検査しない2区 スス付着
82	第19回 阪阪17	遊	1号講 面区上層	① (21.8) ② 31.8 ③ 6.9 ④ 23.0	1階部分 2階 1/1	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	スス付着
83	第19回 阪阪17	遊	1号講 面区上層	① 22.3 ② 31.9 ③ 6.5 ④ 23.1	1階部分 1/5 1/1	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	スス付着
84	第19回 阪阪17	遊	1号講 A 1区	① 23.6 ② 34.4 ③ 5.3 ④ 24.3	1階部分 1/1	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	スス付着 階層より一部剥落 欠損色
85	第19回 阪阪18	遊	1号講 面区上層	① (19.0) ② 27.9 ③ 21.4	1階部分 1/2 1/1	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	スス付着
86	第20回 阪阪18	遊	1号講 D D ベルト 1層・北壁部分	① 19.8 ② 27.5 ③ 5.15 ④ 20.9	1階部分 1/1	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	スス付着
87	第20回 阪阪18	遊	1号講 A 1区・B B ベルト1層	① (26.9) ② (45.3) ③ (30.7)	全体 1/2	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
88	第20回 阪阪18	遊	1号講 A B区	① 3.4 ② 13.7	1階部分 1/2	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
89	第20回 阪阪18	遊	1号講 A 上層・A B区・北壁部分	① 6.2 ② 28.5	1階部分 1/2	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
90	第20回 阪阪18	遊	1号講 A 1区	① (49.4) ② (24.7)	1階部分 1/2	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
91	第20回 阪阪18	遊	1号講 A B区	① 4.4 ② (19.2)	1階部分 1/2	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
92	第21回 阪阪18	遊	1号講 A B区	① (31.4) ② 46.6 ③ 7.8 ④ 36.0	全体 3/4	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
93	第21回 阪阪18	遊	1号講 A 1区	① 19.0 ② 29.0 ③ 5.6 突張部径 22.9	1階部分 1/1	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
94	第21回 阪阪18	遊	1号講 B B ベルト1層・包 含部	① (35.0)	1階部分 1/3	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	
95	第21回 阪阪18	遊	1号講 C C ベルト1層	① (39.3)	1階部分 1/6	講壇以外部分のみ、突張部はコンクリート、内面はコンクリート、白磁器タイル。断上は、欄干を有し、階段は、色調以外の内面にも見られる。	

番号	種別 図区	種別	出土地位置	法第 16条(1)の2第2項 規定(1)の2第2項 規定(2)の2第2項	残存状態	課題及び特徴	備考
96	第22図 図区18	畑	1号溝A B区	①(58.0)②(65.8) ③(6.4)④(48.2)	全体約1/4	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ、(1)溝跡ココナテ後手。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	農具なし
97	第22図 図区18	畑	1号溝A 1区	①(47.7)②(55.5)	1(溝跡)～2(溝跡)下1/2 溝跡1/4	溝跡は排水多量かつハナリ・ココナテ、(1)溝跡ココナテ後手。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	農具なし
98	第22図 図区19	畑	1号溝A1区・西 側区付帯・区付帯	①52.6②(56.25)	1(溝跡)～1(溝跡)1/3	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ、(1)溝跡ココナテ後手。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	農具なし
99	第22図 図区19	畑	1号溝B・B'ベル ト・西側区付帯	①(48.5)	1(溝跡)～1(溝跡)1/3	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ、(1)溝跡ココナテ後手。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
100	第22図 図区19	畑	1号溝V区上層	①(36.2)	1(溝跡)～1(溝跡)1/3	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ、(1)溝跡ココナテ後手。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
101	第23図 図区19	底部	1号溝A 1区	③3.8	底面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
102	第23図 図区19	底面	1号溝A B区	③5.7	底面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
103	第23図 図区19	底面	D・D'ベルト上層	③7.5	底面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
104	第23図 図区19	底面	1号溝A B区	③5.0	底面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
105	第23図 図区19	底面	1号溝 C・C'ベルト1層	③5.0	底面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
106	第23図 図区19	底面	1号溝 Ⅱ区上層	③6.5	底面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
107	第23図 図区19	底面	1号溝 Ⅱ区上層	③8.7	底面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
108	第23図 図区19	底面	1号溝A B区	③8.0	底面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
109	第23図 図区19	底面	1号溝A 1区	③8.2	底面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
110	第23図 図区19	底面	1号溝 Ⅱ区上層	③13.8	底面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
111	第23図 図区19	底面	1号溝B・B'ベル ト1層・B1区上層	③6.0	断面一部消失	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	欠片有
112	第23図 図区19	底面	1号溝B 1区上層	③10.1	底面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
113	第23図 図区19	底面	1号溝A・B 1区上層	③8.9	底面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
114	第23図 図区19	底面	1号溝 北側拡充分	③5.6	底面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
115	第23図 図区19	跡付台 土層	1号溝 B・B'ベルト1層	⑤13.0	断面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
116	第23図 図区19	跡付台 土層	1号溝 Ⅱ区上層	⑤16.3	断面一部消失	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
117	第23図 図区19	跡付台 土層	1号溝 B・B'ベルト1層	⑤14.2	断面完	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
118	第23図 図区19	跡付台 費	1号溝A 1区	⑤9.5	断面一部消失	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
119	第23図 図区19	跡付台 土層	1号溝A 1区	—	断面一部消失	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
120	第24図 図区19	高坪	1号溝A B区	①20.0②18.6③14.6	断面1/2欠損	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	3号に付帯スガコ有
121	第24図 図区19	高坪	1号溝 北側拡充分	①32.5②26.2③19.8	断面1/2欠損	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	内面スガコ有
122	第24図 図区19	高坪	1号溝 北側拡充分	①(33.8)	1(溝跡)～1(溝跡)1/4	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
123	第24図 図区19	高坪	1号溝 Ⅱ区上層	—	1(溝跡)～1(溝跡)1/4	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
124	第24図 図区19	高坪	1号溝B Ⅱ区下層	—	1(溝跡)～1(溝跡)1/4	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
125	第24図 図区19	高坪	1号溝 Ⅱ区上層	—	1(溝跡)～1(溝跡)1/4	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
126	第24図 図区19	高坪	1号溝A 1区	—	1(溝跡)～1(溝跡)1/4	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	
127	第24図 図区19	高坪	1号溝 Ⅱ区上層	—	1(溝跡)～1(溝跡)1/4	溝跡は排水多量かつ、発掘箇所不明。内面ハナリ、ココナテ。跡土は細粒砂を多く含む。堆積は良好。色調は内外面ともに黄褐色。内面は黄褐色。	

番号	種別 図説	種別	出土位置	図説 Text (3行目至5行目 まで採寸・断面図あり) ①: 断面図・断面図	保存状態	調査及び特徴	備考
128	24 Ⅱ ⅡR20	高坏	1号溝 北壁裾部分	①(18.8)	破断 1/3	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色・黒褐色。	4行目跡スナシ
129	24 Ⅱ ⅡR20	高坏	1号溝 A Ⅱ区	—	破断 1/3	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色・黒褐色。	4行目跡スナシ
130	24 Ⅱ ⅡR20	高坏	1号溝 ⅡB ベルト1層	—	破断 1/3	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色・黒褐色。	4行目跡スナシ
131	24 Ⅱ ⅡR20	高坏	1号溝 ⅡA 上層	—	坏断・破断 1/3	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色。	3行目跡スナシ
132	24 Ⅱ ⅡR20	高坏	1号溝 A Ⅱ区	—	破断 1/3	調査は内面へ向き、内面へ向き、第1は観察を多く含む、 焼成良好、色調は内面ともにも観察色。	
133	24 Ⅱ ⅡR20	高坏	1号溝 A Ⅱ区	—	破断 1/3	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色・黒褐色。	
134	24 Ⅱ ⅡR20	高坏	1号溝 Ⅱ区上層	—	破断 1/3	調査は内面へ向き、内面へ向き、第1は観察を多く含む、 焼成良好、色調は内面ともにも観察色。	
135	24 Ⅱ ⅡR20	高坏?	1号溝 北壁裾部分	—	実態不明	調査は内面へ向き、内面へ向き、平直断面、内面へ向き、 第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色。	
136	24 Ⅱ ⅡR20	鉢	1号溝 北壁裾部分	① 14.4 ② 6.0 ③ 4.65	ほぼ完好	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色。	
137	24 Ⅱ ⅡR20	鉢	1号溝 A Ⅰ区	① (14.9)	口縁部 1/2 底面 1/2	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色、内面へ向き。	
138	24 Ⅱ ⅡR20	鉢	1号溝 A Ⅱ区	① 12.7 ② 6.5	全体の 3/4	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色、内面へ向き。	
139	24 Ⅱ ⅡR20	鉢	1号溝 A Ⅰ区	① 17.0 ② 5.25	ほぼ完好	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色。	
140	24 Ⅱ ⅡR20	鉢	1号溝 B・B' ベルト 4-6層	① 18.7 ② 7.6 ③ 5.7	口縁部 1/2 文面	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色・黒褐色。	
141	24 Ⅱ ⅡR20	鉢	1号溝 A Ⅰ区	① (14.5) ② 6.6	全体の 3/5	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色・黒褐色。	
142	24 Ⅱ ⅡR20	鉢	1号溝 A Ⅱ区	① (14.7) ② 6.1	全体の 2/3	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色。	
143	24 Ⅱ ⅡR20	鉢	1号溝 A Ⅰ区	① 26.5 ② 11.35	全体の 4/5	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色、内面へ向き。	
144	24 Ⅱ ⅡR20	鉢	1号溝 C・C' ベルト1層	① (19.4)	口縁部 1/2 文面	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色。	
145	25 Ⅱ ⅡR20	鉢	1号溝 A Ⅱ区	① 27.0 ② 9.9	全体の 2/3	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色。	
146	25 Ⅱ ⅡR20	鉢	1号溝 A Ⅰ区	① 29.1 ② 10.0	ほぼ完好	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色。	
147	25 Ⅱ ⅡR20	鉢	1号溝 A Ⅰ区	① 25.4 ② 10.3	口縁部 3/4	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色・黒褐色。	
148	25 Ⅱ ⅡR20	鉢	1号溝 A Ⅱ区	① 26.6 ② 9.45	ほぼ完好	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色。	
149	25 Ⅱ ⅡR20	舞台	1号溝 ベルト1層	① 16.65 ② 22.45 ③ 19.1	ほぼ完好	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好、色調は内面ともにも観察色。	
150	25 Ⅱ ⅡR20	舞台	1号溝 ベルト1層	① 13.15 ② 19.4 ③ 16.25	完好	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好、色調は内面ともにも観察色・黒褐色。	
151	25 Ⅱ ⅡR20	舞台	1号溝 A Ⅱ区	① 12.2 ② 18.8 ③ (14.2)	破断 2/3 文面	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色。	
152	25 Ⅱ ⅡR20 21	舞台	1号溝面上層・ AⅡ区	① 13.9 ② 18.6 ③ 16.9	完好	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好、色調は内面ともにも観察色。	
153	25 Ⅱ ⅡR20 21	舞台	1号溝 Ⅱ区上層	① 14.1 ② 19.3 ③ 15.9	完好	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好、色調は内面ともにも観察色。	
154	25 Ⅱ ⅡR20 21	舞台	1号溝 A Ⅱ区	① 14.3 ② 18.6 ③ 13.3	完好	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好、色調は内面ともにも観察色。	
155	25 Ⅱ ⅡR20 21	舞台	1号溝 Ⅱ区上層	① 13.7	上半文面	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色。	
156	25 Ⅱ ⅡR20 21	舞台	1号溝 A Ⅱ区	① 10.7	下半文面	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好、色調は内面ともにも観察色・黒褐色。	
157	25 Ⅱ ⅡR20 21	舞台	1号溝 A Ⅱ区	① (11.9)	口縁部 1/6 底面 1/6	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色・黒褐色。	
158	25 Ⅱ ⅡR20 21	舞台	1号溝 A Ⅰ区	① 16.7	破断 4/5 口縁部 1/6	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色・黒褐色。	
159	26 Ⅱ ⅡR20	舞台	1号溝 Ⅱ区上層	① (12.6)	口縁部 1/2	調査は内面へ向き、内面へ向き、内面へ向きによる 調査、第1は観察を多く含む、焼成良好。 色調は内面ともにも観察色。	

番号	種別 回数	種別	出上位置	成績 (1回) 1日1回2回 3回以上(複数回) 主催賞・総賞	現存状態	譲渡及び特徴	備考
160	第26回 回数21	部活	1号講A B区	① 13.5	口編第3回	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。口編第3回。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
161	第26回 回数21	部活	1号講 北照標部分	① 7.2 ② 13.5 ③ 17.4	全体の1/2	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。北照標部分。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
162	第26回 回数21	部活	1号講 賑区上層	① 8.7 ② 9.2 ③ 10.9	口編第3回	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。賑区上層。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
163	第26回 回数21	部活	1号講A I区	① 5.3	全体の2/3	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。I区。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	目録に準拠あり
164	第26回 回数21	部活	1号講A I区	—	全体の1/3	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。I区。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	目録に準拠あり
165	第26回 回数21	部活	1号講 D D ベルト1層	① 11.8 ② 9.6	目録1/4(複数 編第1回)	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。D D ベルト1層。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	目録に準拠あり
166	第26回 回数21	部活	1号講A I区	① 12.95 ③ (12.1)	第3回3/3(8回)	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。I区。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	目録に準拠あり
167	第26回 回数21	部活	1号講A B区	② 11.1	第3回1/6(複数 編第2回)	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。B区。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	目録に準拠あり
168	第26回 回数22	部活	1号講 賑区上層	③ 10.25	目録 第3回	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。賑区上層。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
169	第26回 回数22	ジョッキ	1号講 B B ベルト1層	① (11.6) ② 13.05 ③ 12.2	第3回3/6(複数 編第3回)	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。B B ベルト1層。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
170	第26回 回数22	手程	1号講A I区	① 9.95 ② 5.15 ③ 3.1	完結	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。I区。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
171	第26回 回数22	手程	1号講A I区	① (8.0) ② 4.65 ③ (3.0)	全体の2/3	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。I区。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
172	第26回 回数22	手程	1号講A I区	① 8.7 ② 3.5 ③ 3.5	完結	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。I区。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
173	第26回 回数22	手程	1号講 D D ベルト1層	① (11.5) ② 4.05	全体の1/4	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。D D ベルト1層。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
174	第26回 回数22	手程	1号講A B区・ 伝合層	① 8.85 ② 3.4	第3回	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。A B区・伝合層。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
175	第26回 回数22	手程	1号講A I区	③ 2.45	全体の2/3	譲渡は内務省7日選手。内務省7日選手。I区。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
176	第27回 回数21	遊	10号講	—	口編第3回	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。10号講。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
177	第27回 回数21	費	11号講	① (23.0)	口編第1/5	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。11号講。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
178	第27回 回数21	高杯	13号講	—	脚射第1回	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。13号講。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	3名以下(最少)有
179	第27回 回数21	費	17号講	① (19.2)	口編第1/5	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。17号講。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
180	第27回 回数21	費	21号講	① (20.2)	口編第1/5	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。21号講。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
181	第27回 回数21	底席	21号講	③ 8.5	底席2/5	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。21号講。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
182	第27回 回数21	底席	21号講	—	底席2/5	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。21号講。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
183	第27回 回数22	遊	22号講	① (16.5)	口編第3回2/3	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。22号講。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
184	第27回 回数22	遊	22号講	③ 4.3 ③ 6.8	口編第3回	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。22号講。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	後部2名(最少)有 乗車、乗車有
185	第27回 回数22	底席	25号講	—	底席2/4	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。25号講。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
186	第28回 回数22	遊	西院包含層	① (9.9) ② (12.0)	口編第3回1/8	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。西院包含層。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	高杯有?
187	第28回 回数22	遊	西院包含層	① (18.8)	口編第3回1/4	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。西院包含層。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
188	第28回 回数22	遊	西院包含層	① (35.2)	口編第1/6	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。西院包含層。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
189	第28回 回数22	費	西院包含層	① (18.8)	口編第1/6	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。西院包含層。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
190	第28回 回数22	費	西院包含層	① (15.05)	口編第3回1/4	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。西院包含層。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	
191	第28回 回数22	費	西院包含層	—	口編第3回	譲渡は内務省7日選手7日選手。内務省7日選手。西院包含層。第11は脚射を多く含む。地味は良好。色調は内務省7日に準拠。内務省7日。	

番号	種別 国産	種別	出土位置	品名・種名 ①(12) ②(13) ③(14) ④(15) ⑤(16) ⑦(17) ⑧(18) ⑨(19) ⑩(20) ⑪(21) ⑫(22) ⑬(23) ⑭(24) ⑮(25) ⑯(26) ⑰(27) ⑱(28) ⑲(29) ⑳(30)	保存状態	調査内容及特徴	備考
192	第28回 国産 22	甕	西側包舎	① (21.4)	口縁部小	甕腹は内外面ともにハツリ。口縁部はコナデ。 腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色。内面褐色～黒褐色。	口縁部に穿孔あり
193	第28回	甕	西側包舎	—	口縁部小	甕腹は内外面ともにコナデ。腹上は縁部を中々多く含む。 焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面褐色。	
194	第28回	甕	西側包舎	—	口縁部小	甕腹は内外面ハツリ。内面コナ。口縁部はコナデ。 腹上は縁部を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
195	第28回	甕	西側包舎	—	口縁部一部小	甕腹は内外面ハツリコナデ。内面ハツリコナデ。 腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は外面褐色。内面褐色。	
196	第28回 国産 22	底部	西側包舎	③ 5.9	底部完好	甕腹は内外面ハツリコナ。内面ハツリコナデ。 腹上は縁部をわすらひに含む。赤褐色を帯び。 色調は外面淡褐色。内面黄褐色。	底部本葉
197	第28回 国産 22	底部	西側包舎	③ 5.3	底部完好	甕腹は内外面ともにハツリコナ。腹上は縁部を多く含む。 焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面褐色。	
198	第28回 国産 23	底部	西側包舎	③ 9.7	底部完好	甕腹は内外面ハツリ後縁部以上による平下内面ハツリコナデ。 腹上は縁部を多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面褐色。	
199	第28回 国産 23	舞台付 土器	西側包舎	⑤ 11.5	頸部大半・ 胴部欠	甕腹は内外面ハツリ。内面ハツリコナデ。 腹上は縁部・胴部を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
200	第28回 国産 23	舞台付 土器	西側包舎	—	頸部欠片	甕腹は内外面ハツリコナ。内面ハツリコナデ。 腹上は縁部をわすらひに含む。赤褐色を帯び。 色調は外面淡褐色。内面褐色。	
201	第28回 国産 23	舞台付 土器	西側包舎	⑤ 10.4	頸部欠片	甕腹は内外面ハツリ後縁部ハツリコナデ。 腹上は縁部・胴部を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
202	第28回	高环?	西側包舎	—	口縁部小	甕腹は内外面ハツリ。内面ハツリ。腹上は縁部をわすらひに含む。 焼成は良好。色調は外面淡褐色。内面淡褐色。	
203	第28回	高环	西側包舎	—	口縁部小	甕腹は内外面ともにハツリコナ。口縁部はコナデ。 腹上は縁部を中々多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
204	第28回	高环	西側包舎	—	口縁部小	甕腹は内外面ともにハツリ後縁部ハツリコナ。口縁部はコナデ。 腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
205	第28回	高环	西側包舎・ 包舎	① (31.6)	口縁部1/7	甕腹は内外面ハツリコナデ後縁部ハツリコナ。内面ハツリコナデ後縁部ハツリコナ。 口縁部はコナデ。腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色。内面淡褐色。	
206	第28回	高环	西側包舎	—	口縁部小	甕腹は内外面ハツリコナデ。内面不揃。 腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色。内面淡褐色。	
207	第28回	高环	西側包舎	—	口縁部小	甕腹は内外面ハツリコナハツリコナ。内面不揃。口縁部はコナデ。 腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面褐色。	
208	第28回	高环	西側包舎	—	口縁部小	甕腹は内外面ハツリコナデ。内面ハツリコナ。口縁部はコナデ。 腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色。	
209	第28回	高环	西側包舎	—	頸部大半・ 胴部欠片	甕腹は内外面ハツリコナ。内面ハツリコナデ。 腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	片形スナコ有
210	第29回 国産 23	高环	西側包舎	⑤ (13.95)	頸部大半	甕腹は内外面ハツリコナ。内面ハツリコナ。 腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	3方に片形スナコ有
211	第29回 国産 23	高环	西側包舎	—	頸部欠片	甕腹は内外面ハツリコナ。内面ハツリコナ。 腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色。内面淡褐色。	
212	第29回 国産 23	高环	西側包舎	—	頸部欠片	甕腹は内外面ハツリ後縁部ハツリコナ。内面ハツリコナ。 腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面褐色。	3方に2段の片形スナコ有
213	第29回 国産 23	高环	西側包舎	—	頸部欠片	甕腹は内外面ハツリコナハツリコナ。内面ハツリコナ。 腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色。内面褐色。	片形スナコ有
214	第29回 国産 23	高环	西側包舎	—	頸部欠片	甕腹は内外面ハツリコナ。内面ハツリコナ。腹上は縁部をわすらひに含む。 焼成は良好。色調は外面淡褐色～黒褐色～黒褐色。内面褐色。	3方に片形スナコ有 2段有
215	第29回 国産 23	鉢	西側包舎・ 包舎	① (30.6)	口縁部一部・1/8	甕腹は内外面ともにハツリ。口縁部はコナデ。 腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色。内面淡褐色～黒褐色。	
216	第29回 国産 23	鉢	西側包舎	—	片形 1/4	甕腹は内外面ハツリコナ。コナデ。内面ハツリコナ。 腹上は縁部・胴部を中々多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色～黒褐色。	
217	第29回 国産 23	器台	西側包舎	① 14.3 ② 10.3 ③ 15.8	口縁部 1/2 欠片 胴部 1/4 欠片	甕腹は内外面ハツリ。内面ハツリコナ。口縁部ハツリコナデ。 腹上は縁部・胴部を含む。焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。	
218	第29回 国産 23	器台	西側包舎	① 13.95	上半部欠片	甕腹は内外面ハツリコナ。内面ハツリコナ。口縁部はコナデ。 腹上は縁部・胴部を多く含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
219	第29回 国産 23	器台	西側包舎	—	口縁部と 胴部欠片	甕腹は内外面ハツリコナ。内面ハツリコナ。腹上は縁部を 中々多く含む。焼成は良好。色調は外面淡褐色～黒褐色。内 面淡褐色～黒褐色。	
220	第29回 国産 23	器台	西側包舎	② 11.6 ③ 10.6	完整	甕腹は内外面ともにコナ。口縁部ハツリコナ。口縁部はコナデ。 腹上は縁部・胴部を含む。焼成は良好。 色調は内外面ともに淡褐色。	
221	第29回 国産 23	線刻 土器	西側包舎	—	小片	甕腹は内外面ハツリコナ。内面ハツリコナ。腹上は縁部を中々多く含む。 焼成は良好。色調は内外面ともに淡褐色。	
222	第29回 国産 23	手捏	西側包舎	① 7.1 ② 5.15 ③ 2.65	ほぼ完好	甕腹は内外面ハツリコナ。内面ハツリコナ。 腹上は縁部をわすらひに含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色。内面淡褐色。	
223	第30回	甕	包舎	① (13.9)	口縁部一部・1/5	甕腹は内外面ともにハツリ。口縁部はコナデ。 腹上は縁部を中々多く含む。焼成は良好。 色調は外面淡褐色～黒褐色。内面淡褐色～黒褐色。	

番号	種別 回数	種別	出上位置	① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿	残存状態	調整及び特徴	備考
224	第30回 回数24	遊	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日、3コナデ、内面3コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。内面調整層。	33と同様
225	第30回 回数24	遊	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日(1層)を7コナデ、内面は調整層、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
226	第30回 回数24	遊	包含層	①(13.4)	①編第小6①3	調整は内面へ7日、調整層3コナデ、内面へ7日、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
227	第30回 回数24	遊	包含層	①(21.0)	①編第小6①4	調整は内面へ7日(2層)を7コナデ、敷土は調整層、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
228	第30回	遊	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日(2層)を7コナデ、内面へ7日、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
229	第30回	遊	東半包含層	③(18.9)	①編第小6①3	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
230	第30回	遊	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
231	第30回 回数24	費	包含層	① 21.7 ② 21.2	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
232	第30回 回数24	費	包含層	①(11.2)非 17.6 ②(15.0)	空層の1/2 ①編第小6	調整は内面へ7日、7コナデ、内面へ7日、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
233	第30回 回数24	費	包含層	①(28.6)	①編第小6	調整は内面へ7日、調整層3コナデ、内面へ7日、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
234	第30回 回数24	費	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日、調整層3コナデ、内面へ7日、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
235	第30回	費	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日(2層)を7コナデ、敷土は調整層を含む、 堆積は良好、色調は内面層と互に相違ない。	
236	第30回	費	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	大分府
237	第30回 回数24	費	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
238	第30回 回数24	費	包含層	①(16.4)	①編第小6	調整は内面へ7日(2層)を7コナデ、内面へ7日、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
239	第30回 回数24	底部	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日、3コナデ、調整層3コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
240	第30回 回数24	費	包含層	①(47.0)非(61.1) ② 7.0 ③(45.35)	空層の2/3	調整は内面へ7日(2層)を7コナデ、敷土は調整層を含む、 堆積は良好、色調は内面層と互に相違ない。	船尾1/2
241	第30回 回数24	費	包含層	①(54.0)	①編第小6	調整は内面へ7日(2層)を7コナデ、敷土は調整層を含む、 堆積は良好、色調は内面層と互に相違ない。	
242	第31回 回数24	底部	包含層	③ 4.0	①編第小6	調整は内面へ7日(2層)を7コナデ、敷土は調整層を含む、 堆積は良好、色調は内面層と互に相違ない。	
243	第31回 回数24	底部	包含層・ 西面包含層	③(6.8)	①編第小6	調整は内面へ7日(2層)を7コナデ、内面へ7日、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
244	第31回	底部	包含層	③(6.0)	①編第小6	調整は内面へ7日(2層)を7コナデ、内面へ7日、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
245	第31回 回数25	聯合付 土器	包含層	③ 15.1	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
246	第31回	高坪	東半包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
247	第31回	高坪	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
248	第31回	高坪	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
249	第31回 回数25	高坪	包含層	①(26.2)	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
250	第31回	高坪	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
251	第31回	高坪	包含層	①(24.0)	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
252	第31回	高坪	包含層	①(29.4)	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
253	第31回	高坪	東半包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
254	第31回	高坪	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	
255	第31回	高坪	包含層	—	①編第小6	調整は内面へ7日、内面へ7日、2コナデ、 敷土は調整層を含む、堆積は良好、 色調は内面層と互に相違ない。	

番号	種別 図版	種別	出土位置	尺貫 (cm) ①口径②高さ ③底径④幅⑤最大径 ⑥重量⑦取付部	残存状態	調整及び特徴	備考
256	第 31 図 図版 25	高坏	東平包含層	① (14.9)	口縁部1/8 胴部全1/6	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき、口縁部はコナナリ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面にも黒褐色。	3方に凹部スキャン有
257	第 31 図 図版 25	高坏	東平包含層	—	胴部全1/6	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面にも黒褐色。	
258	第 31 図 図版 25	高坏	包含層	—	胴部全1/6	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面にも黒褐色。	スキャン有
259	第 31 図 図版 25	高坏	包含層	—	胴部全1/6	胴部は不明。胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面にも黒褐色。	
260	第 31 図 図版 25	高坏?	東平包含層	—	底部全1/4	胴部は内面へ凸りへつゞき、底部は内面へ凸り。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	
261	第 31 図 図版 25	鉢	東平包含層	① (17.0) ② 8.1 ③ 6.2	全体1/1.3	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	
262	第 31 図 図版 25	鉢	包含層	① (15.1) ② 7.5 ③ 5.6	全体1/1.2	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	
263	第 31 図 図版 25	鉢	東平包含層	① (15.2) ② 5.8 ③ 4.8	底部全1/4	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	
264	第 31 図 図版 25	器台	包含層	② 10.35 ③ 10.5	幅部1/2欠損	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	
265	第 31 図 図版 25	輪切土器	包含層	—	胴部全1/6	胴部は内面黒褐色。内面へつゞき。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	
266	第 31 図 図版 25	輪切土器	東平包含層・ 調査不詳部	—	小片	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	
267	第 31 図 図版 25	手程	包含層	① 7.7 ② 4.0	完整	胴部は内面へ凸りへつゞき、胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	スキャン有?
268	第 31 図 図版 25	手程	東平包含層	① (7.4) ② 3.4 ③ 1.4	全体1/1.2	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	
269	第 31 図 図版 25	手程	包含層	① 8.8 ② 4.3	ほぼ完整	胴部は不明。胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	
270	第 32 図 図版 25	甕	南楽岡攪乱	① (15.8)	口縁部1/8	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面にも黒褐色。	内面有
271	第 32 図 図版 25	甕	南楽岡攪乱	① (9.0)	口縁部1/8	胴部は内面へ凸りへつゞき、胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	
272	第 32 図 図版 25	甕	南楽岡攪乱	① (17.8)	口縁部1/6	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面にも黒褐色。	スキャン有
273	第 32 図 図版 25	甕	南楽岡攪乱	—	胴部全1/6	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面にも黒褐色。	
274	第 32 図 図版 25	甕	南楽岡攪乱	—	胴部全1/6	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面にも黒褐色。	
275	第 32 図 図版 25	甕	南楽岡攪乱	—	胴部全1/6	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	
276	第 32 図 図版 25	甕	南楽岡攪乱	—	口縁部全1/6	胴部は内面へ凸りへつゞき、胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	

瓦質土器

() は発元鎮

番号	種別 図版	種別	出土位置	尺貫 (cm) ①口径②高さ ③底径④幅⑤最大径 ⑥重量⑦取付部	残存状態	調整及び特徴	備考
1	第 33 図 図版 25	甕	21 号溝	—	胴部全1/6	胴部は内面黒褐色。内面へつゞき。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	
2	第 33 図 図版 25	底部?	包含層	—	底部全1/7	胴部は内面黒褐色。内面へつゞき。胎土は細砂粒を多く含む。 焼成は良好。色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	

内面朱付土器

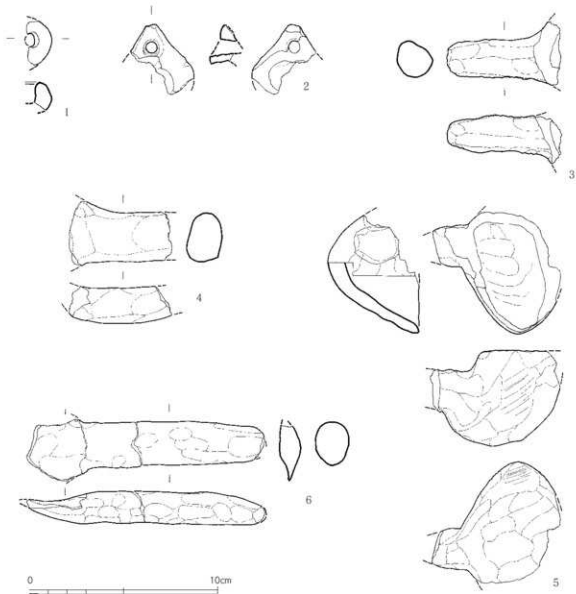
() は発元鎮

番号	種別 図版	種別	出土位置	尺貫 (cm) ①口径②高さ ③底径④幅⑤最大径 ⑥重量⑦取付部	残存状態	調整及び特徴	備考
1	第 34 図 図版 26	甕	包含層	—	口縁部全1/8	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。口縁部はコナナリ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面にも黒褐色。	
2	第 34 図 図版 26	甕	包含層	—	胴部全1/6	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	内面スキャン有
3	第 34 図 図版 26	鉢	包含層	—	口縁部全1/6	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。口縁部はコナナリ。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	内面スキャン有
4	第 34 図 図版 26	鉢	1号溝	—	口縁部全1/6	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	
5	第 34 図 図版 26	鉢	包含層	—	底部全1/4	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	底片3点刻録
6	第 34 図 図版 26	鉢	1号溝	—	底部全1/4	胴部は内面へ凸りへつゞき、内面へつゞき。 胎土は細砂粒を多く含む。焼成は良好。 色調は内面黒褐色。内面黒褐色。	底片3点刻録 内面スキャン有

(4) 土製品 (図版 27 - (1)、第 35 図)

6 点の土製品を図化した。なお、出土地点は、1 が 1 号溝、2・4・6 が東半包含層、3 が西半包含層、5 が 3 号溝である。

1 は土玉の可能性ある資料。両側より焼成前に穿孔を行う。色調は暗褐色。2 は土鈴片であろうか。色調は淡赤褐色を呈し、胎土は砂粒と赤色粒子を含む。弥生時代のものではなからう。3 は杓子形土製品の把手部か。手捏により成形される。色調は淡黄～赤褐色。4 も杓子状土製品の把手部と考えられる資料。色調は白褐色。5 は杓子状土製品。外面には粗いハケ目が残存する。色調は暗～赤褐色で、黒斑がある。6 は匙形を呈する土製品で、色調は赤褐色。何らかの土器の脚部の可能性もあろう。

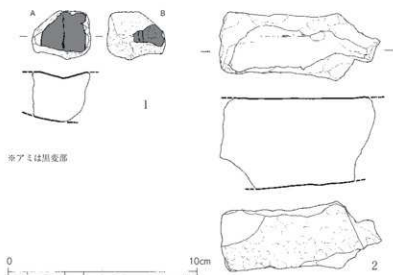


第 35 図 土製品実測図 (1/2)

(5) 青銅器生産関連遺物

① 石製鑄型類 (図版27- (2)、第36図)

1は東半包含層から出土した石英長石斑岩製の青銅器鑄型。表・裏面に青銅器の型が刻まれ、黒変するが、最大長2.55cm、最大幅3.15cm、厚さ2.65cmと小片のため青銅器の形式は不明。ただし、表面は断面形の形状から銅鏃や銅剣などの武器形と推測される。なお、型の彫り込みは、実測図上部から下部へと僅かに深くなっていくため、実測図の上部を切先側と考え天地を決定した。



第36図 石製鑄型類実測図 (1/2)

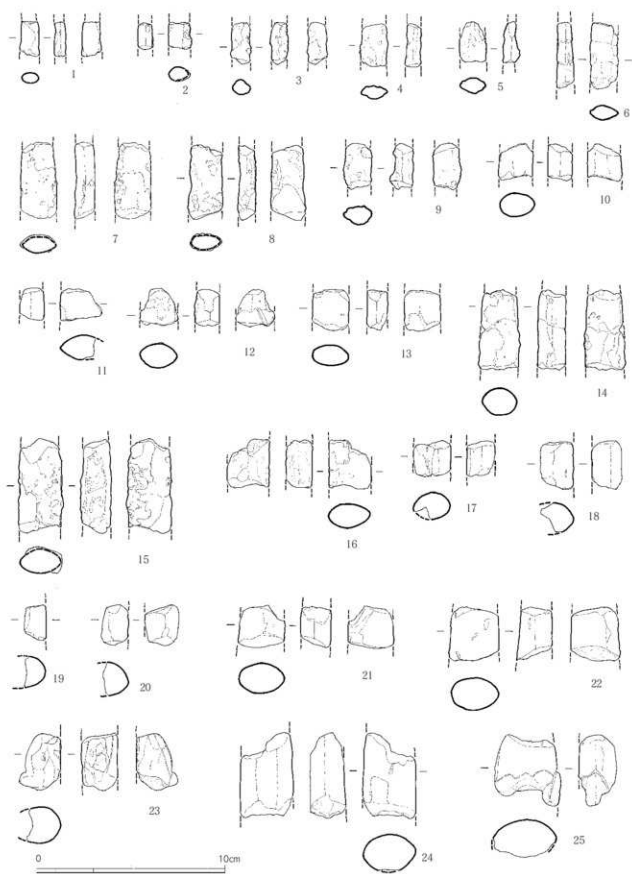
2も東半包含層からの出土品。石材が石英長石斑岩であることは間違いないが、明確な鑄型の彫り込みは認められない。表面は中心が僅かに凹むが平滑である。実測図の上部に僅かな段が認められ、その部分は白色化するため、青銅器の彫り込みの痕跡の可能性はある。裏面は平滑にする前の成形だろうか、敲打痕がある。最大長3.6cm、最大幅8.2cm、厚さ4.9cm。

② 銅矛中型 (図版27- (3)、第37図)

1次調査からは、銅矛中型が大小45点あまり出土した。このうち、25点の図化を行い報告する。中型は全てきめの細かい真土で、固体によっては比熱により灰褐色に硬化したものの、橙褐色に変色するものや、青銅などの付着物が認められるものがある。各個体の法量、色調、出土遺構などの詳細については、一覧表を参照していただきたい。

1～6は、幅も厚みも小さなもの。先端部付近の資料と考えられる。24・25は、湯口は確認できないが、幅などから考えて基部(湯口)付近であろう。この他の資料はその中間に位置するものであろう。

中型の断面形は、凸レンズ形が主体で、楕円形のものも含まれる。表面には付着物が観察できるものがあり、変形や欠損のため中型本来の形状が不明なものもあるが、あえて数値化すれば、厚みを幅で割った扁平率は0.69以下が多く、中には0.7以上のものもある。須玖岡本遺跡坂本地区の分析結



第 37 図 銅矛中型実測図 (1/2)

表2 中型観察表

(計測値の幅と厚さは断面図の位置の数値)

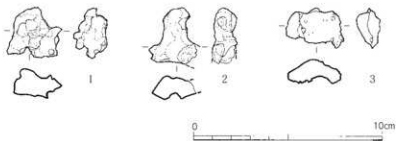
番号	採図 図版	種別	出土位置	計測値 (cm, g)				表面の色調	付着物の有無 付着物の色調	特 徴	備 考
				長さ	幅	厚さ	重さ				
1	第37図 図版27	銅矛	25号溝	1.90	1.00	0.60	1.30	淡灰色～淡黄色	有 黒色		
2	第37図 図版27	銅矛	1号溝 D-D'ベルト1層	1.40	1.20	0.80	1.40	淡緑灰色	有 黄茶色		
3	第37図 図版27	銅矛	1号溝VI区	2.20	1.10	0.85	2.00	橙色～緑色～黄色 ～黒色	無		
4	第37図 図版27	銅矛	東半包含層	2.30	1.50	0.70	2.70	紫色～緑白色～橙 色	有		
5	第37図 図版27	銅矛	東半包含層	2.10	1.40	0.90	2.70	白色～紫色～緑色	有		被熱のため変形す る付着物あり
6	第37図 図版27	銅矛	東半包含層	3.50	1.55	0.80	3.30	淡灰色	無		
7	第37図 図版27	銅矛	1号溝AⅡ区 中央部上層	4.00	1.95	1.00	7.80	淡黄灰白色～橙灰 色	有 白色～橙色 黒色～緑灰色	気孔多い	
8	第37図 図版27	銅矛	1号溝VI区	3.90	1.70	0.90	7.00	緑色	有 黄色～黒色～ 白緑色		
9	第37図 図版27	銅矛	1号溝VI区	2.50	1.50	1.00	4.30	淡黄色～淡緑灰色 ～赤色	無		
10	第37図 図版27	銅矛	1号溝Ⅲ区上層	1.90	1.80	1.30	3.60	淡黄白色～灰白色	有 黄白色		被熱により灰白 色、淡茶色に変色
11	第37図 図版27	銅矛	21号溝	1.70	1.85	1.30	3.60	茶色～橙色～灰色	無		
12	第37図 図版27	銅矛	1号溝BⅡ区下層	1.95	2.05	1.30	3.50	橙色～淡茶灰色	有 茶白色		
13	第37図 図版27	銅矛	1号溝V区下層	2.15	2.00	1.10	3.70	淡茶灰色	無		
14	第37図 図版27	銅矛	18号溝	4.20	1.90	1.50	13.70	淡緑黄色	有 赤色～黒褐色		
15	第37図 図版27	銅矛	1号溝BⅡ区下層	5.00	2.30	1.45	16.20	淡灰色～淡茶色	有 白色～茶白色		
16	第37図 図版27	銅矛	包含層	2.60	2.30	1.35	6.40	淡灰黄色	有 黒色～赤色		
17	第37図 図版27	銅矛	21号溝西端部	1.90	2.00	1.50	3.30	灰色	有 黒茶色		
18	第37図 図版27	銅矛	22号溝	2.55	1.70	1.60	5.90	橙色～灰色	無		
19	第37図 図版27	銅矛	1号溝 D-D'ベルト1層	1.90	1.20	1.70	2.80	淡灰白色	無		
20	第37図 図版27	銅矛	1号溝VI区	2.10	1.40	1.80	4.10	橙灰色～赤褐色	無		
21	第37図 図版27	銅矛	東半包含層	2.25	2.40	1.65	7.40	淡黄灰色	有 黄茶色～赤紫色		
22	第37図 図版27	銅矛	東半包含層	2.85	2.55	1.75	11.70	淡灰色～淡橙灰色	有 淡黄色～淡緑青色		
23	第37図 図版27	銅矛	1号溝 D-D'ベルト1層	3.00	1.80	1.95	7.90	淡黄灰色～橙色	有 淡黄色		
24	第37図 図版27	銅矛	P 14	4.50	2.90	1.90	19.20	淡黄灰白色	無		
25	第37図 図版27	銅矛	25号溝	3.80	3.30	2.00	18.10	橙色	無		幅から基部に近い

果¹⁾を参考にすれば、当遺跡で出土した銅矛中型のほとんどは広形銅矛のものと考えられる。ただし、扁平率が0.7を超える14・17・24や、計測不可能ではあるが、断面形が楕円形と考えられる18・19・20・23などは中広形銅矛の中型の可能性もあろう。

註1 井上義也 2012「V考察 1青銅器生産関連遺物」『須玖岡本遺跡5』春日市文化財調査報告書第66集

③ 銅滓・鉄滓（図版28-（1）、第38図）

1号溝、包含層、攪乱から複数の金属滓が出土した。このうち蛍光X線分析の結果や出土状況から、確実に弥生時代などの遺物ではないと判断されるものを除く、10点を超える銅滓、鉄滓のうち図化できた3点について報告する。



第38図 銅滓・鉄滓実測図（1/2）

1は1号溝から出土した銅滓。僅かに青緑色の部分もあるが、大部分は光沢のある黒褐色。大小の気孔が目立ち、軽い。最大長2.65cm、最大幅2.9cm、厚さ1.55cm、重さ6.8g。2は東半包含層から出土した銅滓。表面には気孔があり、見た目よりも重量感がある。色調は赤黒褐色。最大長2.95cm、最大幅2.55cm、厚さ1.2cm、重さ6.2g。

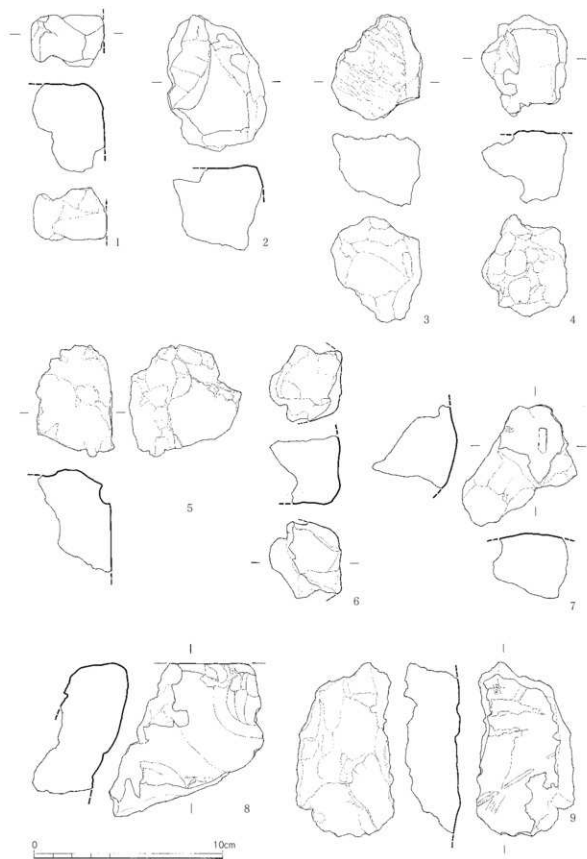
3は鉄滓で、1号溝からの出土品。表面には気孔を有し、軽い。色調は光沢のある茶褐色。最大長2.1cm、最大幅3.05cm、厚さ1.2cm、重さ1.8g。

④ 不明土製品（図版28-（2）、第39・40図）

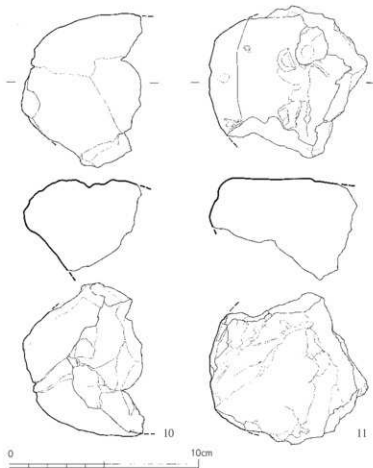
1号溝と包含層から13点が出土し、このうち11点を図化した。1～7が東半包含層、8～11が1号溝からの出土品。なお、1・3・4・6と2・7と8・10は接合しないものの同一地点から出土しており、同一個体の可能性がある。

形状が不明な土製品で、資料によっては強い指押さえの痕跡や板で押圧したような面を持つ。色調は淡黄～赤褐色を基本とし、黒斑を有すものもある。胎土は砂粒の他に、イネ科の葉茎や籾殻などのスサを含む。胎土にスサを含み、須玖岡本遺跡坂本地区4次調査の埴台に雰囲気似るため青銅器生産関連遺物の可能性（埴台や埴環など）も考えたが、分析の結果青銅の成分は全く出土していない。以下では特徴的なものを述べる。

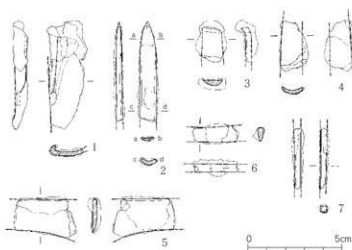
5は平滑な面があるため、板押圧による調整が考えられる。8は強い指押さえの痕跡が認められる資料。上端として図化した。8は直線的な面を持つ資料。10は上面と考えた資料。上面は板押圧痕があり、側面には強い指押さえの痕がある。11も上面と考えた資料。上面には強い



第 39 圖 不明土製品実測図① (1/2)



第40図 不明土製品実測図② (1/2)



第41図 鉄器実測図 (1/2)

指押さえによる窪みが2つある。

(6) 鉄器

(図版28-(3), 第41図)

1は袋状鉄斧であり、P6から出土した。欠損部が多く、形状は判然としないが、袋部の折り曲げ部分が残存している。2はP1から出土した鉈で、身部下半と刃部先端が欠損している。残存長5.05cm、幅0.9cm、厚さ0.2cm程度で刃部、身部ともに三日月形である。3は錆化のため形状が判然としないが、断面が三角形であることから、鉈を想定している。1号溝から出土

しており、刃部の破片で上部を折り曲げる。残存長1.85cm、最大幅1.15cm程度、厚さ0.25cm程度である。4も鉈で、刃部の破片である。包含層から出土した。2同様に断面形が三日月形を呈し、残存長2.7cm、最大幅1.15cm、厚さ0.2cm程度である。5は曲刃鉈の刃部であり、包含層から出土した。厚さは0.3cm程度。6は西岡包含層から出土した。一方の側面に刃部をもつことから、刀子であろう。最大幅0.8cm、厚さ0.3cm程。7は1号溝から出土した棒状鉄器で、両端

部を欠損するため、器種を特定できない。残存 3.2cm、幅・厚さともに 0.35cm で正方形である。

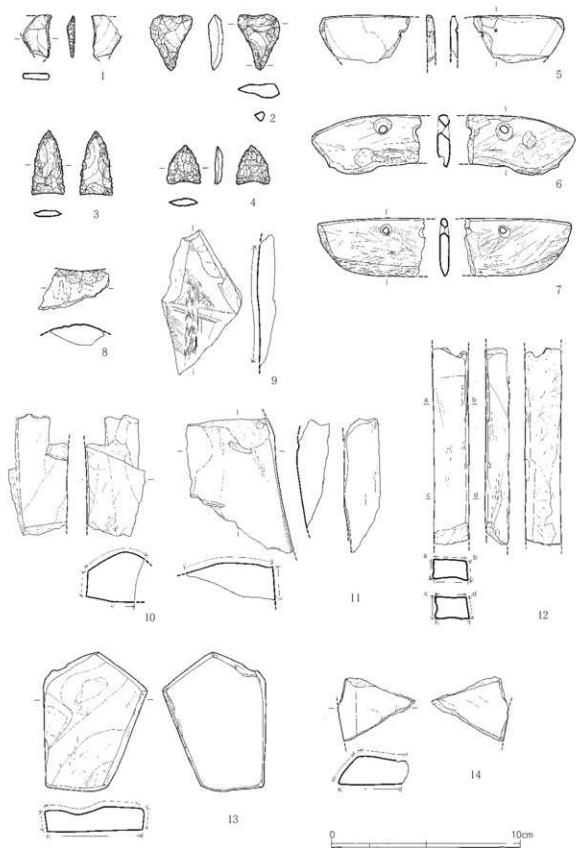
(7) 石器 (図版 29・30 - (1)、第 42～44 図)

青銅器鋳型やそれに関連すると考えられる石英長石斑岩製の資料を除く 21 点の石器を報告する。出土地点は、1・4・5・7・8・17・19 が東半包含層、2・3・6・10・14・15・16・20 が 1 号溝、9・11・12 が西隅包含層、13 が 25 号溝、18・21 が北隅包含層である。

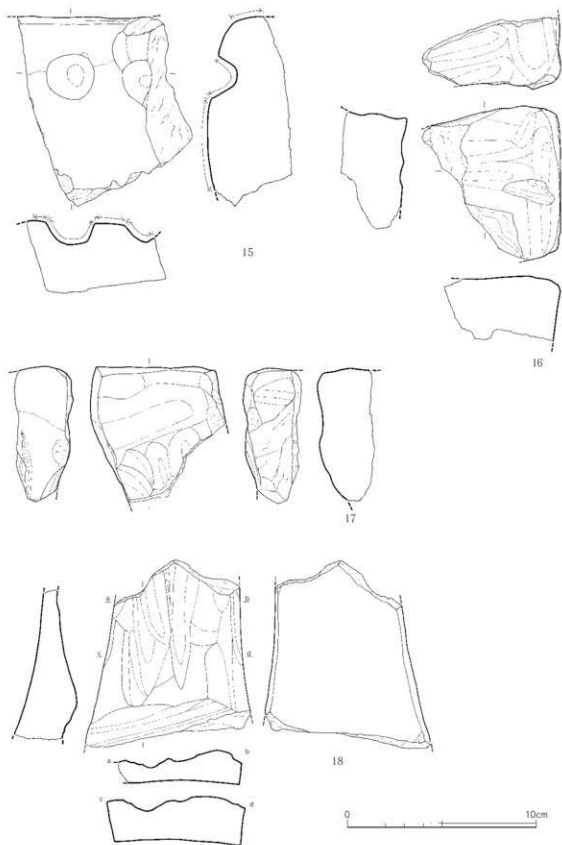
1～4 は打製石器。1 は黒曜石製の台形様石器。右側縁の加工は主要剥離面側から施される。残存長 2.25cm、残存幅 1.50cm、最大厚 0.4cm。2 は石錐の完形品。石材は、黒褐色で透明感はなく、風化した黒曜石の可能性がある。最大長 2.9cm、最大幅 2.2cm、最大厚 0.75cm。3 は平基式の石鐮で、安山岩製。最大長 3.35cm、最大幅 1.75cm、最大厚 0.35cm。4 は凹基式の石鐮で、石材は黒曜石。最大長 2.05cm、最大幅 1.75cm、最大厚 0.4cm を測る。

5～8 は磨製石器。5～7 は石包丁で、5 は 1/3 程度が残存する資料。側縁部から穿孔までの距離が短いことから、かなり研ぎ直されたと推察される。片面には穿孔を途中で止めたと思われる小さな窪みがある緑泥片岩製。6 は 1/2 程度が残存する輝緑凝灰岩製の資料。刃部が歪な形をしており、研ぎ直し中に破損したために廃棄されたと考えられる。また、刃部や背と穿孔が近接するため、何度も研ぎ直しが行われたことが分かる。7 は 1/2 強程度が残存する資料。研ぎ直しのためか、小ぶりの感がある。左側辺は片歯に成形され、刃の角度はきつい。表面には粗い擦痕が観察できる。輝緑凝灰岩製。8 は泥岩製と思われる破片資料。断面形が丸みを持つことや剥離が確認できることから、磨製石斧などの破片と考えた。

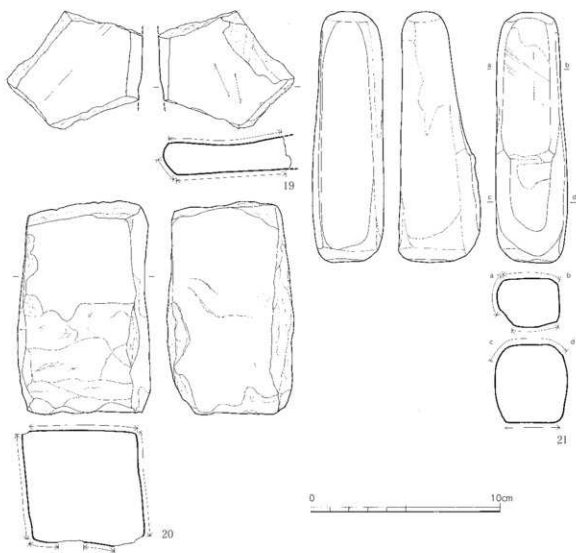
9～21 は砥石。肉眼での観察だが、9～13 は上砥石目、14～18 は中砥石目。19～21 は中～粗砥石目である。9 は 1 面にのみに使用が確認できるため砥石から剥離した石片と考えられる。使用面にははっきりとした擦痕が残るため、金属器を研いだと思われる。石材は暗灰色の泥岩製。10 は淡灰色の泥岩製で、3 面に砥石面が残る。11 は 2 面に使用面が残る砥石片。暗灰色の泥岩製。12 は柱状を呈する資料で、両端を欠く。暗灰色の泥岩製。手持ち砥石であろう。13 は板状を呈する白色の堆積岩製と考えられる資料。裏面には鉄分状のものが付着する。14 は淡黄褐色細粒砂岩製の砥石。15 は表と上の二面に砥石面が残存する資料。表面には 2.3cm 程度の円形の窪みが 2 箇所に確認できる。石材は淡黄褐色の砂岩製。玉砥石であろう。16 は溝状の窪みが二面に確認できる資料で、図右面は被熱を受け黒変する。淡灰褐色の砂岩製の玉砥石であろう。17 は 16 と同一固体の可能性のある資料。淡灰褐色の砂岩製で、図上面は被熱のため黒変する。18 も玉砥石。1 面には浅い溝状の窪みが見られるが、他の面は金属器などを研磨したため湾曲する。淡灰褐色の砂岩製。19 は淡黄褐色を呈する砂岩製の板状砥石。20 は直方体をなす砥石。四面を使用するが、未使用部分も多い。淡灰褐色の砂岩製。21 は柱状を呈する資料。手持ち砥石であろう。淡黄灰色の砂岩製。



第42图 石器实测图① (1/2)



第43图 石器实测图② (1/2)

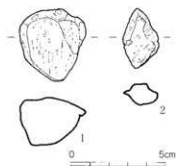


第44図 石器実測図③ (1/2)

(8) 軽石 (図版30-(2)、第45図)

1次調査では2点の軽石が出土した。金属器などの研磨に使用したのであろうか、数箇所に面が見られる。

1は1号溝からの出土品。最大長3.85cm、最大幅3.5cm、厚さ2.55cm。2は西隅包含層から出土した。最大長3.15cm、最大幅1.95cm、厚さ1.2cm。



第45図 軽石実測図 (1/2)

IV 2次調査の内容

1 調査の概要

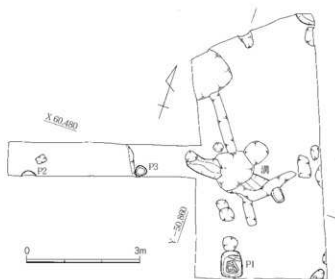
2次調査地は、春日市日の出町1丁目29番6に所在する。当該地は、須玖黒田遺跡の北東隅部にあり、1次調査地より北東50mに位置する。

発掘調査は、対象地が約180㎡であるのに対し、遺物包含層までは地表から60cm、遺構検出層までは地表から100cmと深いため、対象地内での掘削土の仮置きは不可能であった。このため客土をダンプトラックで持ち出すことにした。なお、対象地が人通りの多い道路に面していることや、ダンプトラックの出入りによる歩行者への安全性を考慮し、住宅建築部分全面を調査することは不可能であった。なお、下水道管などが埋設される西側については、調査を行った。

遺物包含層は、須玖黒田遺跡1次調査や須玖永田A遺跡の調査成果から、人力による掘削を行った。須恵器片や近世以降の陶磁器の小片を含んでおり、宅地化する前の耕作土と考えられ、この面からの明確な遺構の掘り込みは認められなかった。人力による掘削を進めると黄褐色～黒灰色粘質土の地山に達し、この面からの遺構の掘り込みを確認した。検出した遺構はピット5基、溝状遺構1条である。5基のピットのうち完掘できたものは、P1・3であり、他のものは調査区外まで続く。また、P1・2は平面形などから異なる2つの掘立柱建物の柱穴と考えられ、P1では、柱痕や礎板を確認した。弥生土器片が出土するものがあり、器面の調整や焼成の雰囲気から弥生時代後期の土器と推察されるが、これは周囲の状況から考えても矛盾なかろう。

溝状遺構は調査区中央部から東部にかけて検出した。遺物がまったく出土しないために時期を確定することはできないが、覆土の状況から考えて弥生時代の遺構ではないと思われる。

2次調査では、近隣の調査から青銅器生産に関する遺物や遺構が確認されることを期待したが、限られた中での調査ということもあり、弥生時代後期の掘立柱建物の柱穴などを確認したにとどまった。遺構の密度や、周辺の試掘調査の結果から考えても、これより北に遺跡のびる可能性は、ほとんどなかろう。



第46図 2次調査遺構配置図(1/100)

2 遺構

(1) ビット (第46図)

発掘調査によって検出したビットは5基であり、完掘できたものはP1・3だけである。また、P1・2は形状から考えて掘立柱建物の柱穴と考えられる。以下では、完掘したP1・3について記述する。

P1 (図版31-(2)、第47図)

調査区南端で確認した。長軸70cm、短軸55cm前後の隅丸長方形プランを呈し、検出面から最深部までの深さは83cm。直径15cm程度の柱痕が観察でき、床面には2枚の板材を重ねて礎板とする。

遺物は弥生土器片が出土したが、図示できる資料はない。厚みや調整から弥生時代後期の土器と考えられる。

P3 (第46図)

調査区の中央部で検出した。直径30cm程度、深さは49.5cm。出土遺物はなかった。

(2) 溝 (第46図)

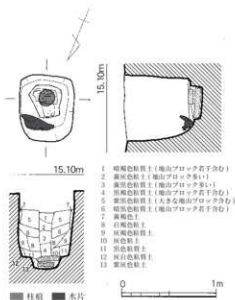
調査区の中央部から東部にかけて2.7m程検出した。幅約50cm、深さ20cm前後で、中央部などを後世の掘削により破壊されている。

遺物は、皆無であり時期の特定はできないが、ビットの覆土と色調や締まり具合が異なることから、弥生時代の移行の可能性は少ない。感覚的な所見だが、新しい時期の遺構と考えたい。

(3) 包含層

包含層は、周辺の発掘調査の成果から鋳型など青銅器生産関連遺物が含まれる可能性があったため、40cm程度を人力によって掘削した。しかしながら、包含層には弥生土器は殆ど含まれておらず、青銅器生産関連遺物もまったくなかった。須恵器片や近世以降の陶磁器小片を含んでおり、宅地化する前の耕作土の可能性はある。なお、この面からの明確な遺構の掘り込みは認められなかった。

図示できる遺物は出土していない。



第47図 P1実測図 (1/40)

V まとめ

1 遺構の時期について

1次調査では、土坑5基、井戸3基、掘立柱建物跡2棟、ビット多数、溝25条と遺物包含層を確認した。1号溝からは多量の土器、井戸や大形ビットからは残存状況のよい土器が出土した。

5基の土坑は調査区の南西部にあり、2号土坑が久住猛雄氏の編年⁽¹⁾のⅠB期、4号がⅡA期、1号は小片であるがⅠA期前後であろう。5号は2号よりも古く、3号は時期不明である。

3基の井戸は1号を1号溝の北側、その他は南側で検出した。3号は古相の感があるが、共にⅠA期であろう。

掘立柱建物跡は2棟を調査区南東部で検出した。良好な土器が出土していないが、2号掘立柱建物跡からは布留式系土器の小片が含まれる。他の破片資料は遡っても弥生時代終末であろう。

大小のビットを検出したが、大形ビットからは状態の良い土器が出土したものがあり、先に述べたように井戸や土坑と考えた方がよいものも含まれる。特にP6からは布留式系裏の完形品が2個出土する。P1・3・8・13はⅠB期、P2はⅡA期、P4は小片だが4号土坑から同一個体と考えられる土器が出土しているのでⅡA期前後か。P6はⅡC期、P9はⅠB期前後か。

溝は25条を検出したが、1・10・11・13・17・21・22・25号溝以外は図化できる土器が出土していない。1号溝は平面や土層の観察から掘り直しが行われたことは間違いない。殆どの土器は掘り直し後のもので、後期後半～ⅠB期の土器を含むが、主体はⅠA期である。このため1号溝の掘削時期は、後期後半まで上る可能性がある。21号はⅡA期、22号はⅠB～ⅡA期、21号を切る10号はⅡA期以降で、その他の溝出土土器はⅠA～ⅠB期頃であろう。

なお、包含層や攪乱からは、弥生時代後期後半～ⅡB期の土器が出土するため、1次調査地周辺地に当該期の遺構が存在することは間違いない。

2次調査は、ビットを検出したのみではあるが、柱痕や礎板が確認されたP1は、掘立柱建物跡の柱穴であることは間違いなく、2次調査地の周辺には掘立柱建物跡等の遺構が存在することは間違いない。ビットの時期は1次調査の結果や土器小片から弥生時代終末(ⅠA～ⅠB期)前後であろう。

2 須玖黒田遺跡の青銅器生産

須玖黒田遺跡1次調査では、青銅器の石製鋳型の他に鋳型石材である石英長石斑岩製の砥石や銅矛・中型45点、銅鐙10点以上などが出土するため青銅器工房跡は未検出であるが、当遺跡内、特に1次調査地周辺において青銅器生産が行われた可能性が高い。

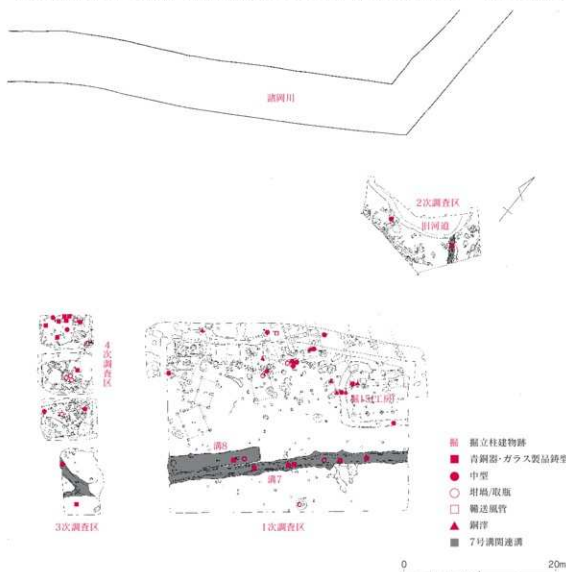
出土した青銅器生産関連遺物の分布は、調査区北半部、特に1号溝に集中し、南半部ではほとんど

確認できない。これは、青銅器工房が1次調査地の北側に存在することを示していると考えたい。

さらに1号溝は北西隅から北東部へと弧を描くため、何らかの遺構や空間を囲む溝と考えられ、湾曲具合から考えれば、北側を囲むと考える方が自然であろう。青銅器工房の中には、掘立柱建物などの建物の周囲に溝が巡るものがあるため、1号溝が1つの青銅器工房を囲む可能性を指摘されるかもしれない。しかしながら、須玖岡本遺跡坂本地区や須玖永田A遺跡で検出した青銅器工房の溝が直径、ないしは一辺が5.5～12.5 m程度の範囲を囲むのに対し、不確実な復元ではあるが、1号溝の平面形が円形としても直径30 mを超える範囲を囲むと推測でき、規模に違いが見られる。

以上のことから、1号溝は北側の青銅器工房域と南側の区域を区画する溝と考えられ、1次調査地の北側には青銅器工房が存在するものと推察される。同様な性格を持つ溝として須玖永田A遺跡1次調査7号溝とそれに関連する溝(第48図)がある。

須玖永田A遺跡1次調査7号溝は直線的にのびる溝で、幅1.5 m、深さ30～50cmを測り、西側



第48図 須玖永田A遺跡青銅器・ガラス製品生産関連遺物出土分布図(1/500)

は二股に分岐する。溝の北側には青銅器工房とほぼ特定できる周囲に溝が巡る15号掘立柱建物跡などの掘立柱建物群が多数存在するのに対し、南側には殆ど遺構がない。このため、7号溝は掘立柱建物群の内外を区画する溝と考えられている。また、青銅器製造関連遺物の出土は、7号溝とその北側に限られており、その分布状況から15号掘立柱建物跡の他にも調査区外に青銅器工房が存在した可能性が指摘されている。

両遺跡は春日丘陵北側に広がる低地の微高地上に立地する。現況や旧地形図でも起伏は殆ど見られず、2つの遺跡に分けてはいるが、一纏まりになる可能性がある。ただし、両遺跡で確認した溝が同一遺構であることは考え難く、当地には溝で囲まれた掘立柱建物などの遺構群が幾つかあり、その中には幾つかの青銅器工房が存在したと推測される。

さらに、北側に近接する須玖楠町遺跡¹²⁾では、1次調査で包含層からではあるが、銅矛鋳型や銅鏡片が出土し、弥生時代後期後半～古墳時代前期の土器が多量に出土する。また、調査区中央付近で「く」字に屈曲して区外に延びる溝が調査されており、同時期の掘立柱建物跡を囲む可能性がある。時期は、須玖黒田遺跡、須玖永田A遺跡に比べるとやや時的に下るが、須玖楠町遺跡の調査がほとんど行われていないことや、非常に近接した位置関係にあることから今後の調査が楽しみな遺跡である。

3 内面朱付着土器について

須玖黒田遺跡1次調査では、小片ながら内面朱付着土器が65点出土する。近接する遺跡では、須玖永田A遺跡70点以上と朱が付着する木製案、須玖唐梨遺跡は21点だが残存状態のよい鉢を含む。これらは、低地の遺跡のため土器の磨滅が少なく、朱などの付着物も残存しやすいが、これを考慮したとしても目立つ数字である。また、須玖楠町遺跡では辰砂が出土する。

朱については、墳墓や祭祀、仙薬として用いられると考えられている。上述した遺跡が弥生時代の奴国の中心である須玖遺跡群に含まれ、弥生時代後期後半～末にかけての青銅器生産遺跡であることも興味深い点である。

註1 久住猛雄 1999「北部九州における庄内式併行期の土器様相」『庄内式土器研究』XIX

久住猛雄 2007「比恵遺跡群における弥生時代終末から古墳時代前期の土器編年（予察）」『比恵47』福岡市埋蔵文化財調査報告書第956集

久住猛雄 2008「九州1～福岡県下における弥生時代から古墳時代前期の井戸について―」『井戸再考』第57回埋蔵文化財研究集会発表要旨

2 平田定幸 1996「須玖楠町遺跡」『春日市埋蔵文化財年報3』平成6年度

※須玖岡本遺跡坂本地区、須玖永田A遺跡については、春日市文化財調査報告書第58・61・66集、第18・40・43集を参照されたい。

図 版

1 次 調 査



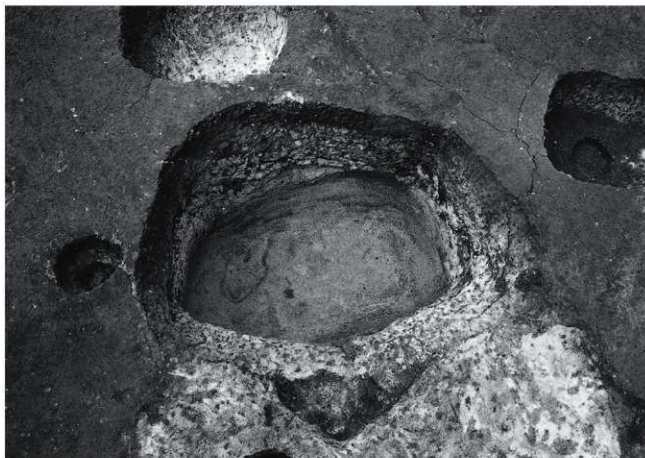
(1) 調査区西半 (北から)



(2) 調査区東半 (北から)



(1) 1号土坑 (北東から)



(2) 2号土坑 (南西から)



(1) 3号土坑 (北から)



(2) 4号土坑 (北東から)



(1) 2・5号土坑 (南東から)



(2) 1号井戸 (南東から)



(1) 2号井戸 (南東から)



(2) 3号井戸 (南東から)



(1) P1土器出土状態(東から)



(2) P2土器出土状態(北から)



(1) P3土器出土状態 (北東から)



(2) P6土器出土状態 (東から)



(1) 1号溝Ⅲ区上層土器出土状態(東から)



(2) 1号溝Ⅲ区上層土器出土状態(南から)



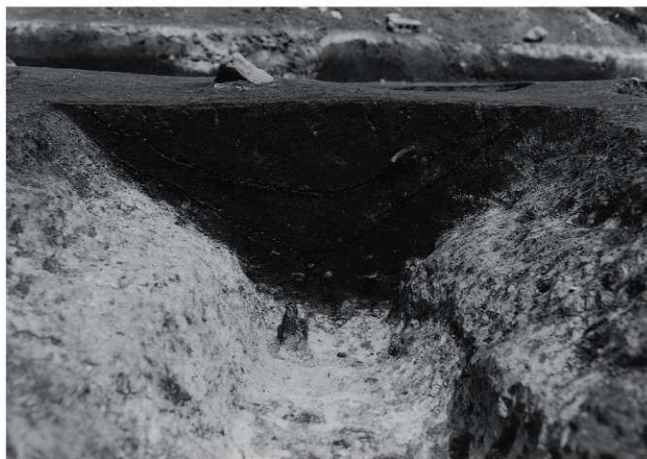
(1) 1号溝Ⅲ区上層中型 No.10・土器出土状態（南から）



(2) 1号溝Ⅵ区中型 No. 3・9・20と22号溝土器出土状態（南から）



(1) 1号溝B-B' ベルト断面土層 (北西から)



(2) 1号溝C-C' ベルト断面土層 (西から)



(1) 1号溝D-D' ベルト断面土層 (西から)



(2) 1号溝E-E' ベルト断面土層 (南西から)



(1) 11号溝J-J'ベルト断面土層(北西から)



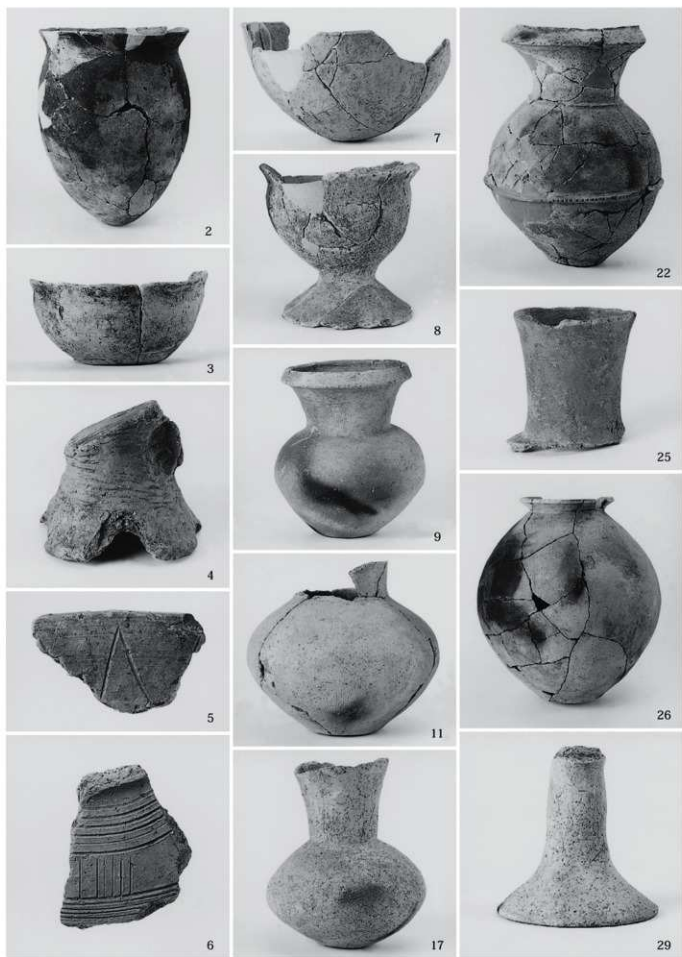
(2) 18号溝中型No.14出土状態(北東から)



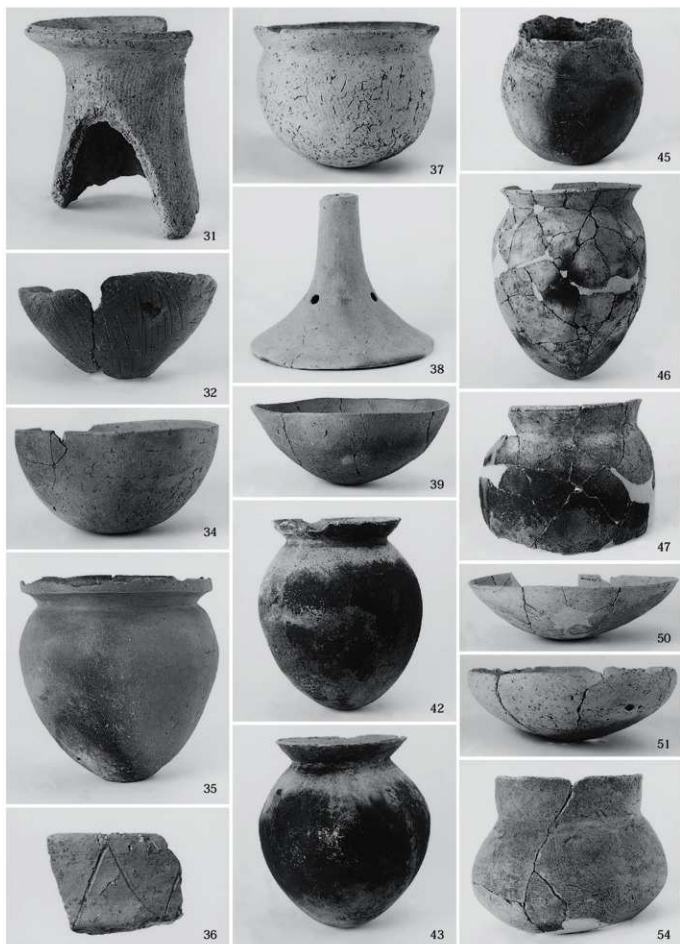
(1) 21号溝N-N' ベルト断面土層 (東から)



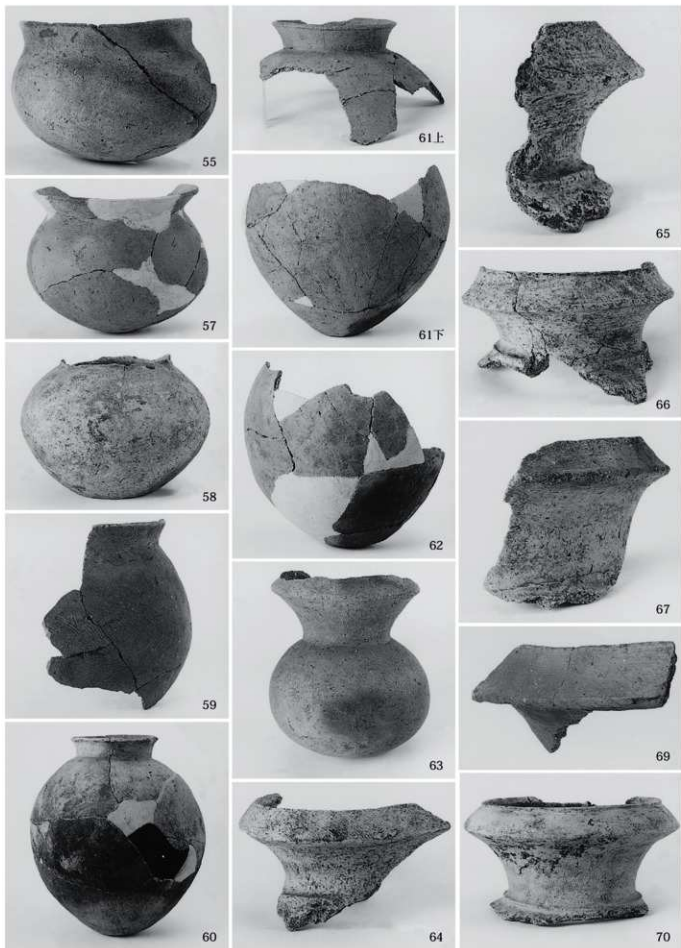
(2) 包含層錐型 No.1 出土状態



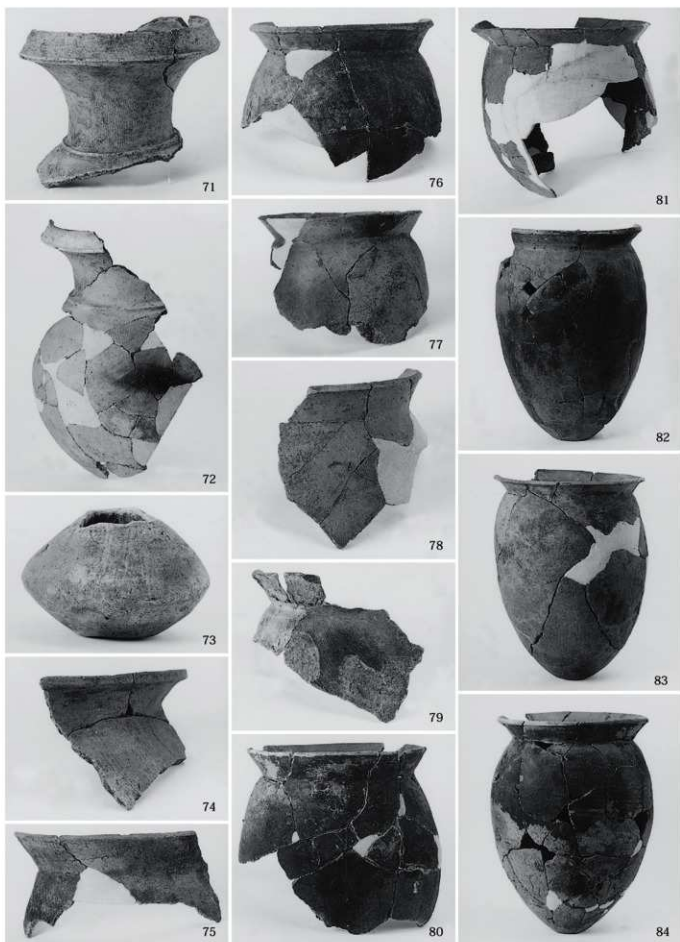
土坑2号(2~4) 4号(5~8)·井戸1号(9·11) 2号(17) 3号(22~29) 出土土器



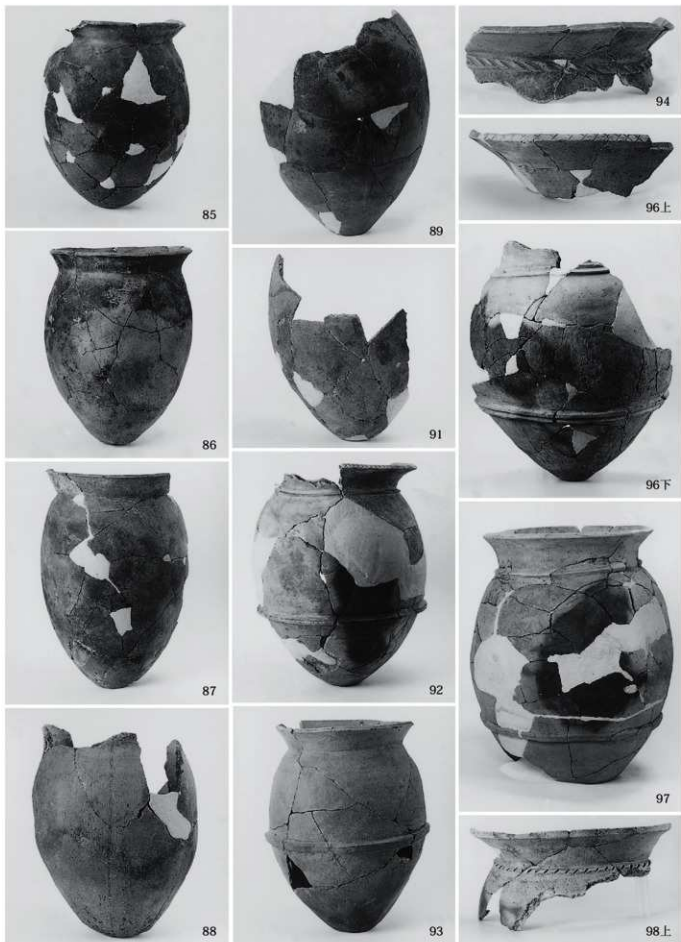
3号井戸 (31・32)・ビット (34～51)・1号溝 (54) 出土土器



1号溝出土土器①



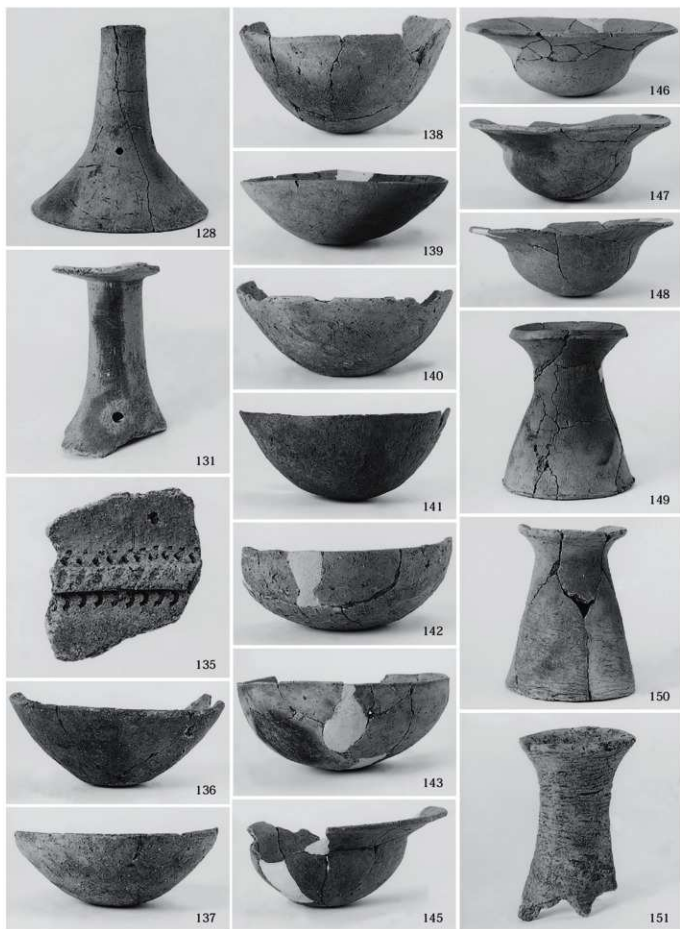
1号清出土土器②



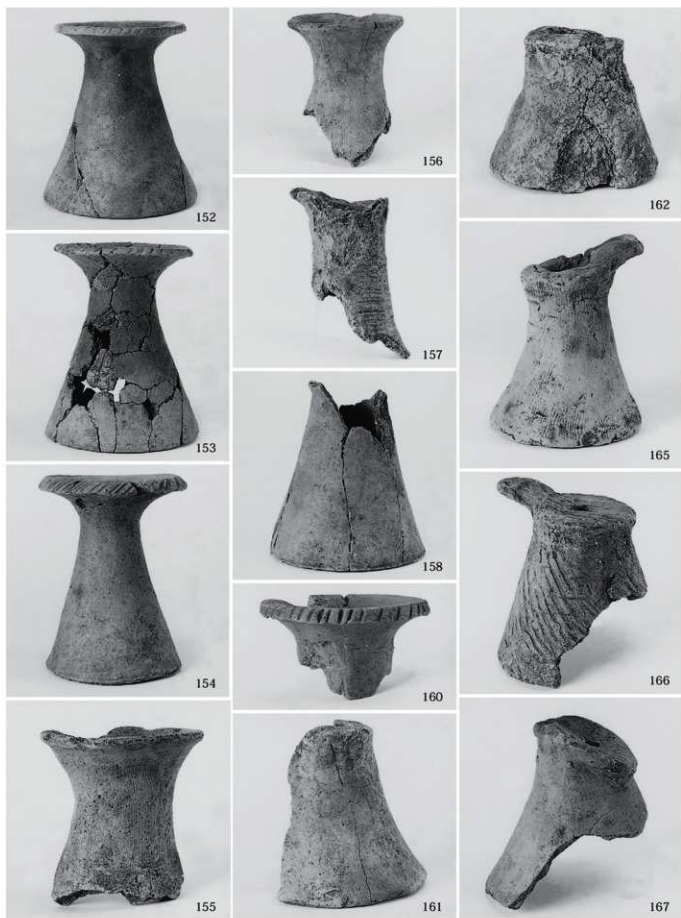
1号溝出土土器③



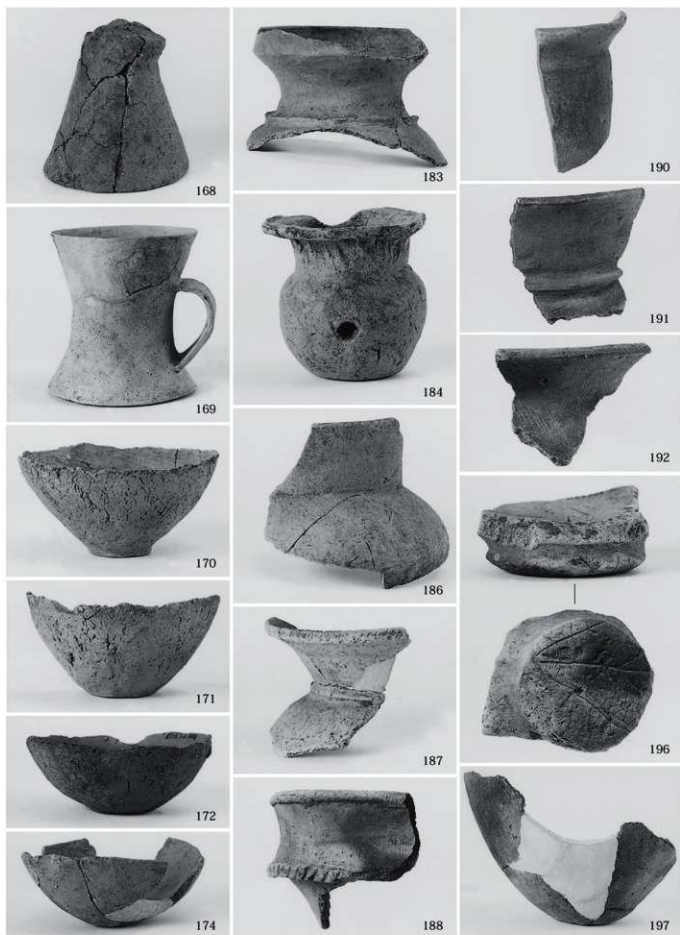
1号清出土土器④



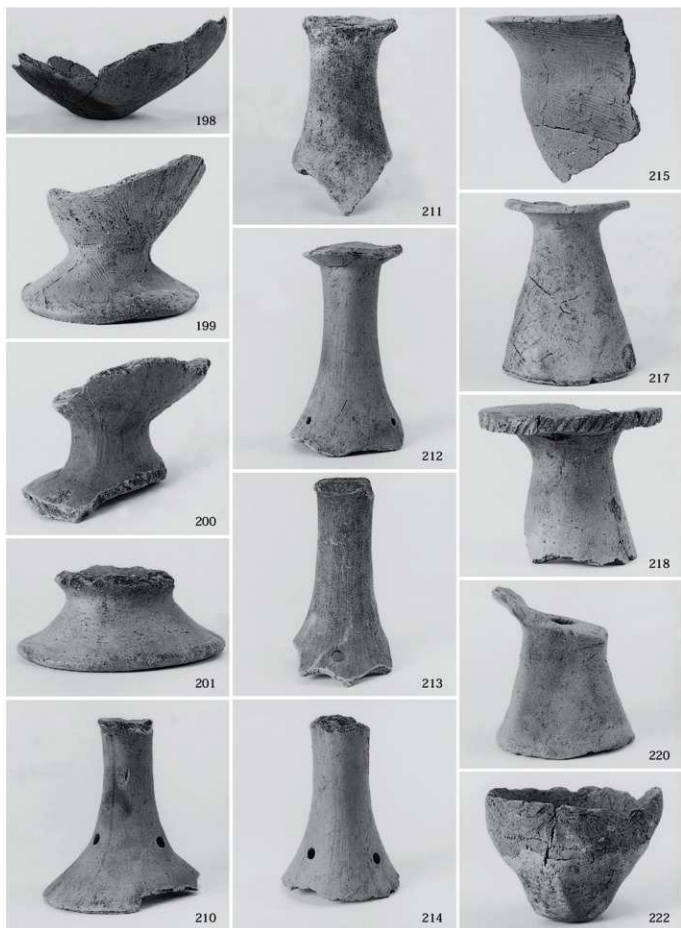
1号溝出土土器⑤



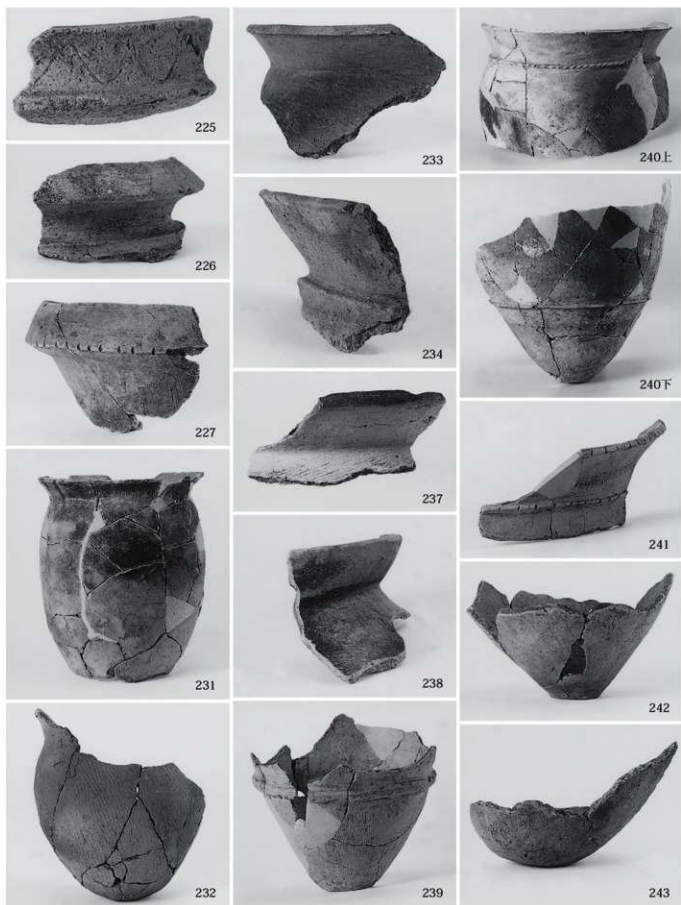
1号溝出土土器◎



1·22号溝1号(168~174) 22号(183·184)·西隅包含層(186~197) 出土土器



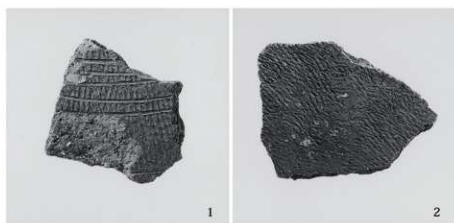
西隋包舍层出土土器



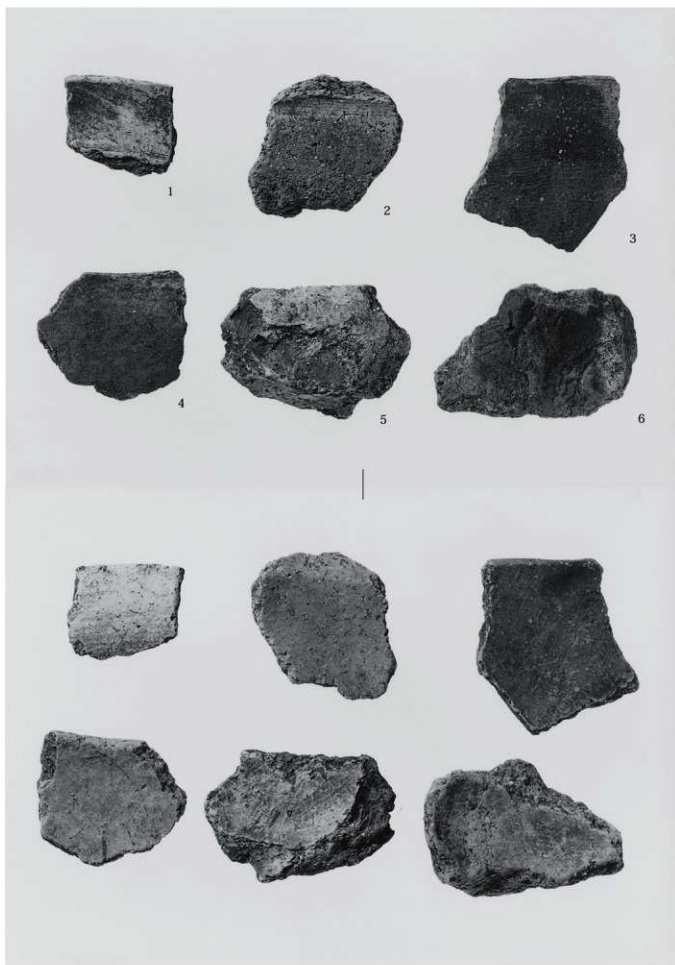
包舍層出土土器



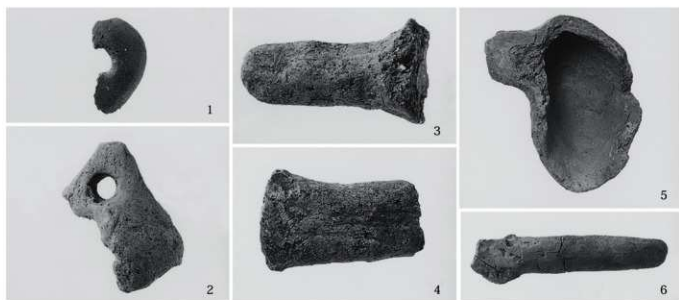
(1) 包舍層 (245 ~ 269)・攪乱 (270 ~ 272) 出土土器



(2) 瓦質土器



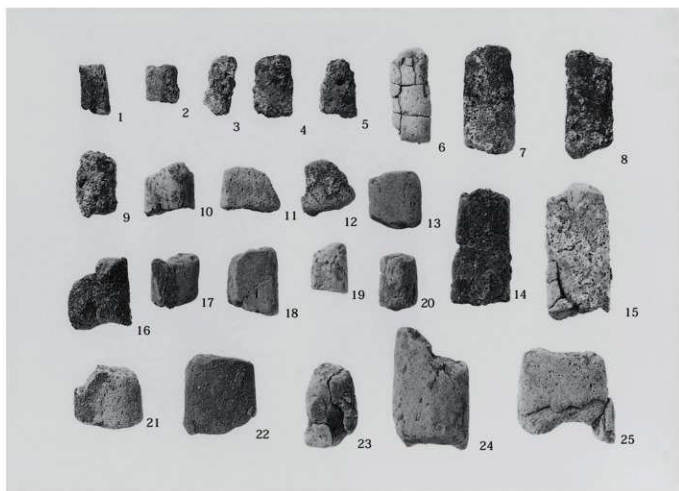
内面朱付着土器



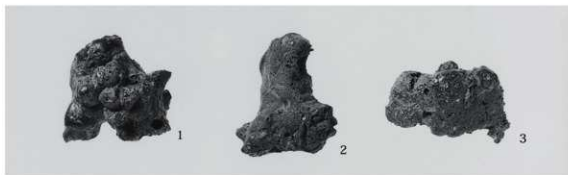
(1) 土製品



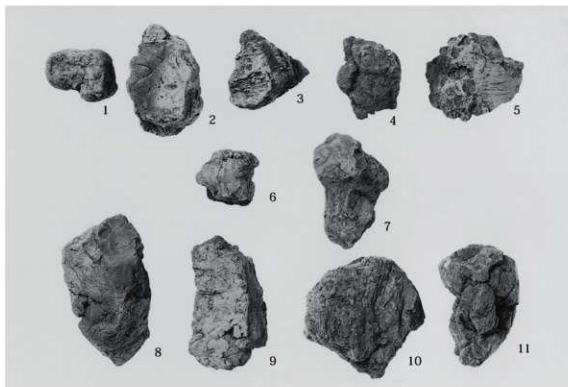
(2) 石製鑄型類



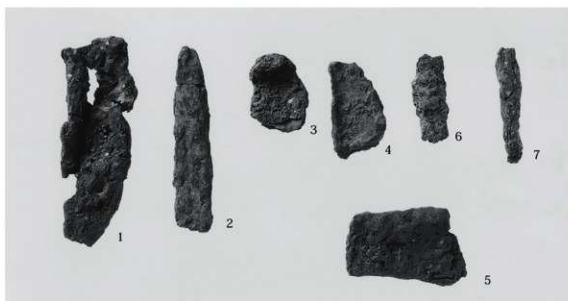
(3) 銅矛中型



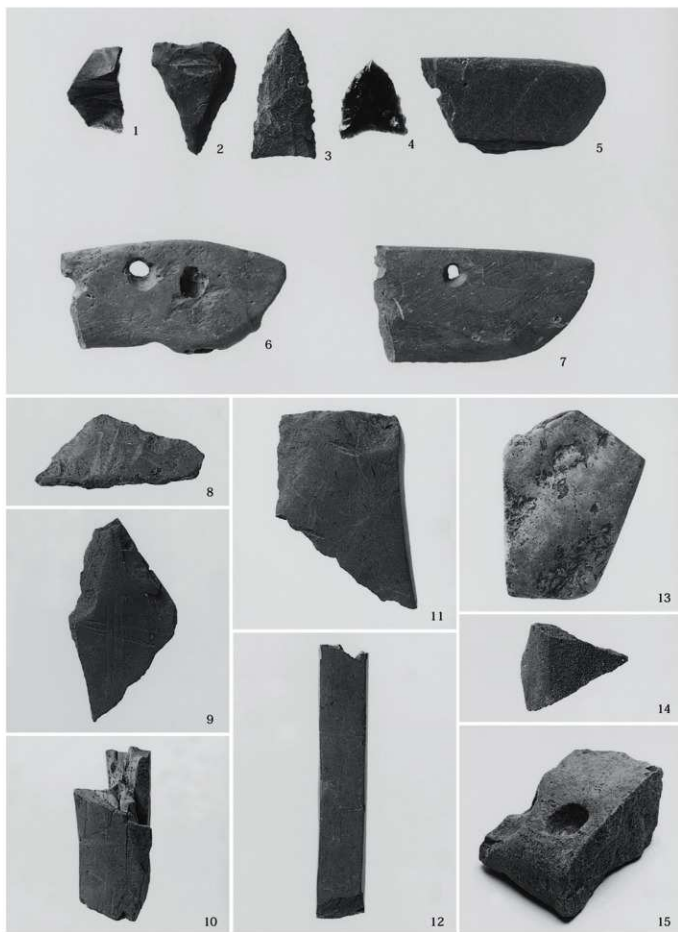
(1) 銅滓・鉄滓



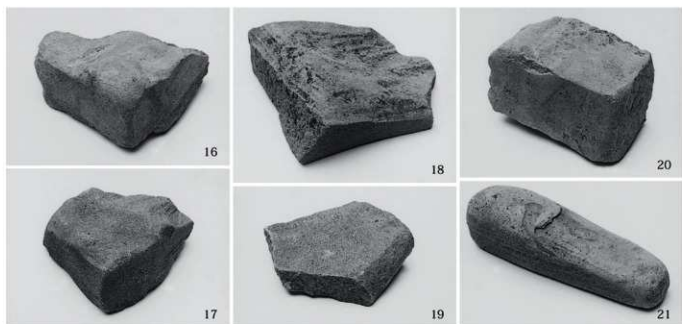
(2) 不明土製品



(3) 鉄器



石器①



(1) 石器②



(2) 軽石

2 次 調 査



(1) 調査区全景(東から)



(2)
P1 礎板様出状態 (北から)

報告書抄録

ふりがな	すぐくろだいせき							
書名	須玖黒田遺跡 ー 1・2次調査ー							
副書名	福岡県春日市日の出町所在遺跡の調査							
シリーズ名	春日市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第70集							
編著者名	井上義也							
編集機関	春日市教育委員会							
所在地	〒816-8501 福岡県春日市原町3丁目1番地5 TEL 092-584-1111							
発行年月日	2013年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 °'〃	東経 °'〃	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
		市町村	遺跡番号					
すぐくろだいせき 須玖黒田遺跡 1次調査	ふくおけんかすがしひのぢまち 福岡県春日市日の出町		40218	33° 32' 37"	130° 27' 6"	19900416) 19900602	320	記録保存調査
すぐくろだいせき 須玖黒田遺跡 2次調査	ふくおけんかすがしひのぢまち 福岡県春日市日の出町		40218	33° 32' 38"	130° 27' 8"	20020408) 20020417	25.7	記録保存調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
須玖黒田遺跡 1次調査	集落 青銅器 工房	弥生時代 古墳時代	土坑5・井戸3・掘 立柱建物2・溝25	弥生土器・土師 器・石器・青銅器 銚型・銅矛中型		弥生時代終末前後の土器と青 銅器生産関連遺物が出土		
須玖黒田遺跡 2次調査	集落 青銅器 工房	弥生時代	溝1・ピット5	弥生土器		掘立柱建物の柱穴と思われる ピットを検出		
要 約	<p>須玖遺跡群は、春日丘陵北部とその周辺の低地部に分布する弥生時代中・後期を中心とする遺跡群である。須玖黒田遺跡が位置する北側の低地部には、須玖岡本遺跡取本地区、須玖永田A遺跡、須玖五反田遺跡などの青銅器・ガラス生産遺跡が確認されており、須玖遺跡群が収束国の中心的な遺跡であったことを知ることができる。</p> <p>須玖黒田遺跡は、1次調査が行われるまでは未発見の遺跡であり、現在も遺跡の詳細は明らかになっていない。ただし、1・2次調査の成果によって、掘立柱建物跡や溝が確認され、須玖永田A遺跡と同様に青銅器生産に関する遺物が多数出土した。特に調査区北部で確認した1号溝は多くの土器と共に青銅器生産関連遺物が出土しており、当溝が工房域の内外を区画する溝の可能性が大きい。</p> <p>何れにせよ、今回の調査によって明らかにされた須玖黒田遺跡は、須玖遺跡群北部の青銅器工房群の一角を占めることは間違いないと、今後の調査が期待される遺跡である。</p>							

須玖黒田遺跡

— 1・2次調査 —

春日市文化財調査報告書 第70集

平成25年3月31日

発行 春日市教育委員会
福岡県春日市原町3丁目1番地5

印刷 株式会社 三光
福岡県福岡市博多区山王1丁目14-4
